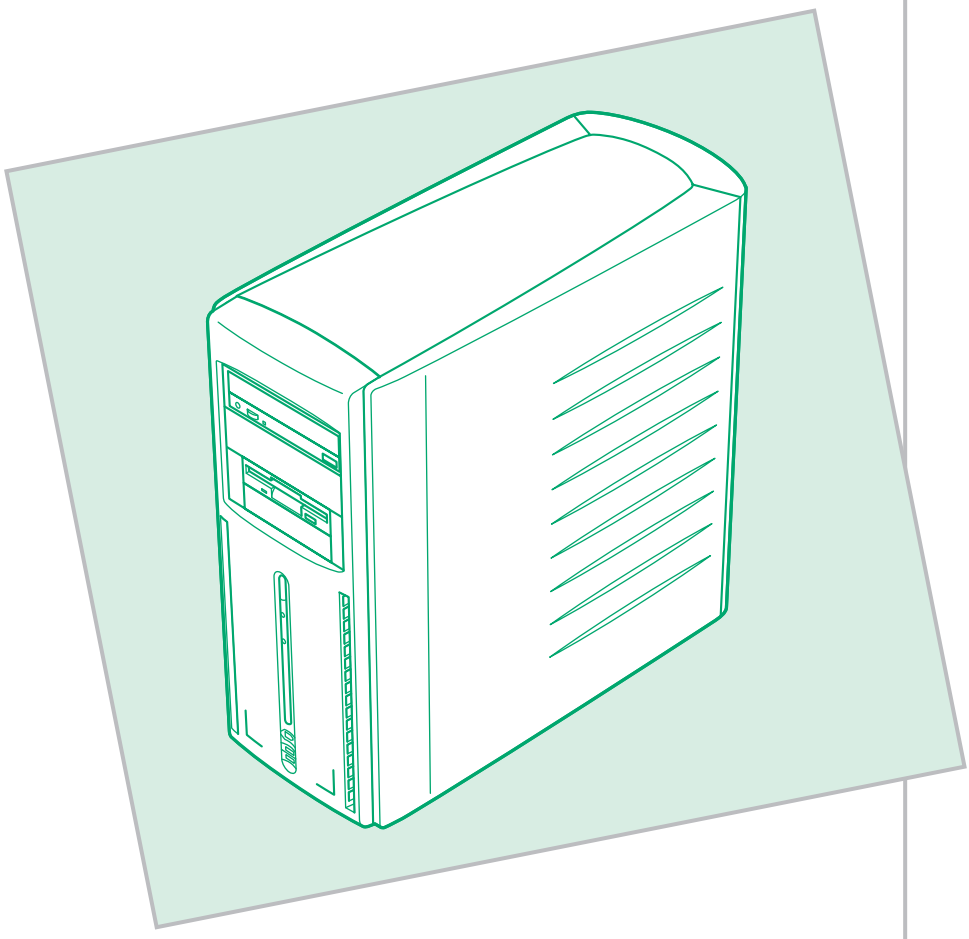
PC98-NX

NEC



ユーザーズマニュアル

VALUESTAR

こんなときはココを読む　～ このマニュアルの使い方

機器を増設するとき、パソコンの設定を変更したいとき、なにかトラブルが発生したときなどに、このマニュアルが役立ちます。

たとえば、次のような「こんなことが知りたい」にこたえます。

本体カバーの取り外しの方法は?

本体カバーはドライバーを使わなくても取り外しできます

→P.6

増設メモリの取り付け方法は?

PC2100対応のDDR SDRAM DIMMが使えます

→P.23

内蔵ハードディスクの取り付け方法は?

3.5型ハードディスクを1～2台増設できます

→P.37

PCIボード、AGPボードの取り付け方法は?

→P.28(PCIボード)、
P.32(AGPボード)

5型ベイ、3.5型ベイへの機器の取り付け方法は?

→P.40(5型ベイ)、
P.34(3.5型ベイ)

CD-Rに書き込みたい

このパソコンの「RecordNow DX」を使うと、CD-Rに書き込みができます(CD-ROMモデル除く)

→P.54

このパソコンの仕様を知りたい

このパソコンの詳細な仕様は「仕様一覧」をご覧ください

→P.142

BIOSの設定を変更したい

起動時に【F2】キーを押すと、「BIOSセットアップユーティリティ」が起動します

→P.68

トラブル解決の方法は?

トラブル解決の一般的な方法や代表的なトラブル事例を紹介しています

→P.85

再セットアップしたい

ハードディスクに格納されている再セットアップ用データを使って再セットアップします

→P.103

再セットアップ用CDを作りたい

ハードディスクに格納されている再セットアップ用データをあらかじめCD-R媒体に書き出しておけます(CD-ROMモデル除く)

→P.135

コンピュータウイルスの対策は?

このパソコンには、「Norton AntiVirus」がインストールされています

→P.100

853-810576-016-A
2002年5月　初版

このマニュアルの表記について

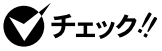
◆本文中の画面、イラスト、ホームページについて

本文中の画面やイラストは、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。記載しているホームページの内容やアドレスは、本冊子制作時点のものです。

◆このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています

⚠警告	注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
⚠注意	注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。
	注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。
	禁止事項を示します。
	電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります

	これから説明する手順の中でとくに大切なポイントがまとめられています。後から応用するときのヒントとして利用してください。
	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
	パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。
	マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。
	参考になる事柄です。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
CD/DVDドライブ	DVD-R/RWモデルでは、DVD-R/RWドライブのことを指します。 DVD-RAM/R/RWモデルでは、DVD-RAM/R/RWドライブのことを指します。 CD-R/RW with DVD-ROMモデルでは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのことを指します。 CD-R/RWモデルでは、CD-R/RWドライブのことを指します。 CD-ROMモデルでは、CD-ROMドライブのことを指します。
「ぱそガイド」	電子マニュアル「ぱそガイド」を起動して、各項目を参照することを示します。 「ぱそガイド」は、デスクトップの をダブルクリックして起動します。「ぱそガイド」の操作方法は、『はじめにお読みください』をご覧ください。
「ぱそガイド」-「パソコンでできること」	「ぱそガイド」を起動して、アプリケーションの操作方法などを参照することを示します。アプリケーションの名称がわかっている場合は、続けて「50音別目次」をクリックして該当する項目をご覧ください。

◆このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

CD-ROMモデル	CD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブを搭載しているモデルのことです。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
DVD-R/RWモデル	DVD-R/RWドライブを搭載しているモデルのことです。
DVD-RAM/R/RWモデル	DVD-RAM/R/RWドライブを搭載しているモデルのことです。
TVモデル	テレビ/地上波データ放送を見るための機能を搭載しているモデルのことです。
2.4GHzワイヤレスLANモデル	2.4GHzワイヤレスLANボードを搭載しているモデルのことです。
USB2.0モデル	USB2.0対応PCIボードを搭載しているモデルのことです。
USBカメラセットモデル	USBカメラをセットでご購入いただいたモデルのことです。
Office XPモデル	Office XP Personalがあらかじめインストールされているモデルのことです。

◆このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

（本文中の表記）	（正式名称）
Windows、Windows XP、Windows XP Professional	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版
Office XP Personal	Microsoft® Office XP Personal（Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft Outlook®、Microsoft Bookshelf® Basic 3.0）
Office XP Service Pack 1	Microsoft® Office XP Service Pack 1
Microsoft IME 2002	Microsoft® IME 2002
VideoStudio	Ulead® VideoStudio® 5 SE Basic
DVD MovieWriter	Ulead® DVD MovieWriter™ for NEC
DVD-MovieAlbum	DVD-MovieAlbumSE Ver2.7
RecordNow DX	VERITAS RecordNow DX
バックアップ-NX	バックアップ-NX（パソコン乗換機能付）
Norton AntiVirus	Norton AntiVirus™ 2002

■技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第７２条の２第１項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

認証機器名：SF-DJP-ST	2.4GHz ワイヤレス LAN モデル
認 証 番 号	認証機器名：Orinoco 無線 LAN システム
電話回線：A99-0794JP	認 証 番 号：D00-1222JP

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国のモードに設定してご使用になりますと電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。なお、ご購入時の使用国モード（初期値）は「日本モード」となっておりますので、設定を変更しないでそのままご使用ください。

■高調波電流規制について

この装置の本体は、高調波ガイドライン適合品です。

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

■瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。
（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

■レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス１適合の CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブまたは CD-R/RW with DVD-ROM ドライブまたは DVD-R/RW ドライブまたは DVD-RAM/R/RW ドライブが搭載されています。

ご注意

（1）本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
（2）本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
（3）本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りの BIT-INN、または NEC 121 コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
（4）当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
（5）本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
（6）海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
（7）本機の内蔵ハードディスクにインストールされている Microsoft® Windows® XP Professional および本機に添付の CD-ROM は、本機のみでご使用ください。
（8）ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
（9）ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Office ロゴ、Outlook、Bookshelf、および Windows のロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
AMD、AMD ロゴ、AMD Athlon、AMD Duron、3DNow!、ならびにその組み合わせは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。
PS/2 は、IBM 社が所有している商標です。
MNP は、Microcom, Inc. の登録商標です。
K56flex は、CONEXANT SYSTEMS と Lucent Technologies の商標です。
Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
DTS は、Digital Theater Systems, Inc. の商標です。
VERITAS RecordNow DX は、米国 VERITAS Software Corp. の米国における登録商標です。
Ulead、VideoStudio、DVD MovieWriter は、Ulead Systems, Inc. の登録商標です。
DVD-MovieAlbum は、松下電器産業株式会社の商標です。
Symantec、Symantec ロゴは、Symantec Corporation の登録商標であり、各製品名は Symantec Corporation の商標または登録商標です。
©2002 Symantec Corporation. All Rights Reserved.
Hayes は、米国 Hayes Microcomputer Products の登録商標です。
SmartVision、PCGATE は、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation, NEC CustomTechnica, Ltd. 2002
日本電気株式会社、NEC カスタムテクニカ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■ Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

＊1: NEC Corporation, NEC CustomTechnica, Ltd.

目次

このマニュアルの表記について ····· ii
本体各部の名称と役割 ····· xiii

PART1 周辺機器を接続する ····· 1

取り付けるときのポイント ····· 2
いきなり接続しない ····· 3
取り付けはひとつずつ確実に ····· 3
周辺機器から電源を入れよう ····· 3
デバイスドライバについて ····· 3
取り付けてもうまく動かないときは ····· 3
取り外すときのポイント ····· 5
ホットプラグ対応機器の取り外し ····· 5
本体の開け方と閉め方 ····· 6
リアカバー／レフトカバー／フロントマスクの取り外し ····· 6
フロントマスク／レフトカバー／リアカバーの取り付け ····· 8
USB コネクタ ····· 10
USB ケーブルについて ····· 10
USB コネクタにプラグを差し込む ····· 10
USB ハブを使う ····· 12
正しく接続できたかどうか確認する ····· 13
USB 対応機器を使うときの注意 ····· 13
USB 対応機器を取り外すときの注意 ····· 13
IEEE1394 コネクタ ····· 14
IEEE1394 コネクタにデジタルビデオカメラを接続する ····· 14
光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子 ····· 15
オーディオ機器を接続する ····· 15
設定を変更する ····· 16
音声出力 / 入力端子 ····· 17
オーディオケーブルを接続する ····· 17
マイクロフォン端子 ····· 18
マイクロフォンを接続する ····· 18
マイクロフォンの入力音量を調節する ····· 18
LAN コネクタ ····· 19
LAN ケーブルを接続する ····· 19
ネットワークの設定をする ····· 20
ネットワーク上の自分のコンピュータ名や IP アドレスを確認する ····· 20

シリアルコネクタ / パラレルコネクタ ····· 21
シリアルコネクタについて ····· 21
パラレルコネクタについて ····· 22
メモリ ····· 23
取り付ける前に ····· 23
増設 RAM サブボードの取り付けと取り外し ····· 24
増やしたメモリを確認する ····· 27
PCI スロット ····· 28
PCI スロットについて ····· 28
PCI ボードを取り付ける ····· 29
PCI ボードを取り外す ····· 31
AGP スロット ····· 32
AGP ボードを取り付ける ····· 32
AGP ボードを使用可能にする ····· 33
AGP ボードを取り外す ····· 33
3.5 型ベイ ····· 34
3.5 型ベイに機器を取り付ける ····· 34
3.5 型ベイから機器を取り外す ····· 36
内蔵 3.5 型ベイ ····· 37
内蔵 3.5 型ベイにハードディスクを取り付ける ····· 37
内蔵 3.5 型ベイからハードディスクを取り外す ····· 39
5 型ベイ ····· 40
5 型ベイに機器を取り付ける ····· 40
5 型ベイから機器を取り外す ····· 41
IDE 機器 ····· 42
IDE 機器を取り付ける前に ····· 42
IDE 機器を接続する ····· 44

PART2 このパソコンの機能 ····· 47

マウス ····· 48
スクロールボタンを使う ····· 48
キーボード ····· 50
キーの名称と役割 ····· 50

CD/DVD ドライブ ····· 54
ドライブとメディアの互換性について ····· 54
ディスクの取り扱い上の注意 ····· 54
ディスクの入れ方と出し方 ····· 55
ディスクにデータを書き込む ····· 56
DVD-RAM にデータを書き込む ····· 57
他の CD/DVD ドライブで作成したディスクを読み込むときの注意 ····· 58
フロッピーディスクドライブ ····· 59
このパソコンで使えるフロッピーディスク ····· 59
フロッピーディスクの入れ方と出し方 ····· 59
省電力機能 ····· 61
省電力機能について ····· 61
省電力機能を使う ····· 62
省電力の設定を変える ····· 65

PART3 パソコンの設定を変更する ····· 67

BIOS セットアップユーティリティ ····· 68
こんなときに BIOS セットアップユーティリティを使います ····· 68
設定をデフォルトに戻す ····· 70
BIOS セットアップユーティリティの使い方 ····· 70
BIOS セットアップユーティリティの設定項目 ····· 72
ストラップスイッチの設定 ····· 82
パスワードの解除 ····· 82
CMOS クリア ····· 83

PART4 困ったときの Q&A ····· 85

当てはまるトラブル事例がないか、マニュアルで探してみる ····· 86
インターネットでトラブル事例を探してみる ····· 86
それでも駄目なら、サポート窓口に電話する ····· 86

パソコンの様子がおかしい …… 87
マウス、キーボード …… 89
電源のオン / オフ …… 90
省電力機能 …… 94
アプリケーション …… 97
周辺機器 …… 98
パスワード …… 99
その他 …… 100

PART5 再セットアップ …… 103

再セットアップをはじめる前に …… 104
セーフモードで起動してみる …… 105
データのバックアップを取る …… 106
システムを修復してみる …… 108
「システムの復元」をしてみる …… 108
前回正常起動時の構成を使用してシステムを修復する …… 109
再セットアップする …… 110

PART6 BTO オプションガイド …… 117

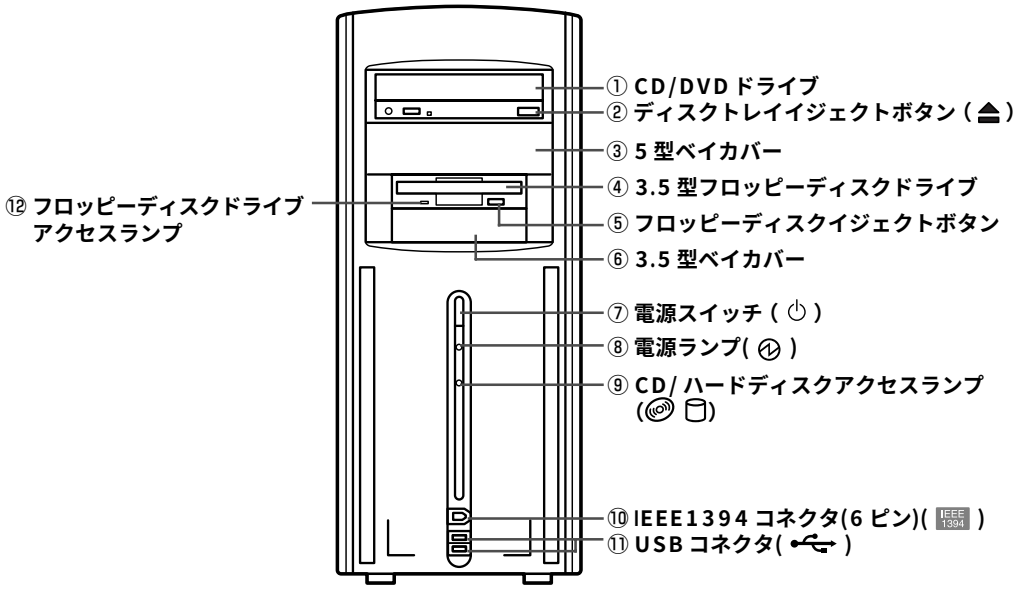
FAX モデムボードガイド …… 118
電話回線に接続する …… 118
ヘッドフォンマイク /USB カメラガイド …… 120
ヘッドフォンマイクを接続する …… 120
USB カメラを接続する …… 121
2.4GHz ワイヤレス LAN ガイド …… 124
2.4GHz ワイヤレス LAN 機能の紹介 …… 124
アンテナを取り付ける …… 126
2.4GHz ワイヤレス LAN 機能の設定をする …… 127
2.4GHz ワイヤレス LAN Q&A …… 127

付　録 ····· 129

パソコンのお手入れ ····· 130
アフターケアについて ····· 132
保守サービスについて ····· 132
消耗品 / 消耗部品について ····· 132
譲渡、廃棄、改造について ····· 133
この製品を譲渡するには ····· 133
このパソコンを廃棄するには ····· 134
このパソコンの改造 ····· 134
再セットアップ用 CD-ROM について ····· 135
再セットアップ用 CD-ROM とは ····· 135
再セットアップ用 CD-ROM を作成する ····· 136
再セットアップ用 CD-ROM を使って再セットアップする ····· 137
アプリケーションのサポート窓口一覧 ····· 141
仕様一覧 ····· 142
FAX モデムボード仕様一覧 ····· 151
LAN 仕様一覧 ····· 153
2.4GHz ワイヤレス LAN 仕様一覧 ····· 153
索　引 ····· 154
トラブルチェックシート ····· 157

本体各部の名称と役割

本体前面



① CD/DVD ドライブ

モデルによって機能が異なります。

- CD-ROM ドライブ（CD-ROM モデルの場合）
  CD-ROM や音楽 CD を入れるところ。
- CD-R/RW ドライブ（CD-R/RW モデルの場合）
  CD-ROMや音楽CDを入れるところ。またCD-R、CD-RW にデータを記録するところ。
- CD-R/RW with DVD-ROMドライブ（CD-R/RW with DVD-ROM モデルの場合）
  DVD-ROM や CD-ROM、音楽 CD を入れるところ。またCD-R、CD-RWにデータを記録するところ。
- DVD-R/RW ドライブ（DVD-R/RW モデルの場合）
  DVD-ROM や CD-ROM、音楽 CD を入れるところ。またCD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW にデータを記録するところ。
- DVD-RAM/R/RW ドライブ（DVD-RAM/R/RW モデルの場合）
  DVD-ROM や CD-ROM、音楽 CD を入れるところ。また CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD-RAM にデータを記録するところ。

参照 CD/DVD ドライブについて→ PART2 の「CD/DVD ドライブ」(P.54)

② ディスクトレイイジェクトボタン(⏏)

CD-ROM などをセットするディスクトレイを出し入れするためのボタン。

③ 5 型ベイカバー

5 型ベイを使用するときは、このカバーを取り外します。

参照 5 型ベイについて→ PART1 の「5 型ベイ」(P.40)

④ 3.5 型フロッピーディスクドライブ

3.5 型サイズのフロッピーディスクを入れるところ。

参照 フロッピーディスクドライブについて→ PART2 の「フロッピーディスクドライブ」(P.59)

⑤ フロッピーディスクイジェクトボタン

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出すときに使うボタン。

⑥ 3.5 型ベイカバー

3.5 型ベイを使用するときは、このカバーを取り外します。

参照 3.5 型ベイについて→ PART1 の「3.5 型ベイ」(P.34)

⑦ 電源スイッチ(⏻)

電源を入れるスイッチ。省電力状態からの復帰にも利用します。電源を切るときは、Windows XPの「スタート」メニューで「終了オプション」をクリックして「電源を切る」をクリックします。電源を切る / 入れる操作はコンピュータに負担をかけるので、少なくとも 5 秒以上の間隔をあけてください。

チェック!!

- Windowsが明らかに停止している状態になった場合は、電源スイッチを約4秒以上押し続けることで、強制的に電源を切ることができます。なお、この場合、作成中のデータなどは消えてしまいます。
- 停電や、電源ケーブルを抜いているために本体に電源が供給されていないときは、電源スイッチを押しても電源を入れることはできません。

⑧ 電源ランプ(⏻)

電源の入 / 切状態を表示するランプ。電源を入れると緑色に、スタンバイ状態のときはオレンジ色に点灯します。休止状態または電源が切れている状態のときは、消灯します。

⑨ CD/ ハードディスクアクセスランプ (💿 🗄)

CD/DVD ドライブがデータを読み書きしているときや、ハードディスクにアクセスしているときに点灯するランプ。

チェック!!

点灯中は電源を切ったり、CD-ROM などを取り出したりしないでください。ハードディスクの内容が壊れたり、故障の原因となることがあります。

⑩ IEEE1394 コネクタ(6 ピン)(IEEE 1394)

IEEE1394 対応機器 (6 ピン)を接続するためのコネクタ。

参照 IEEE1394 コネクタについて→ PART1 の「IEEE1394 コネクタ」(P.14)

⑪ USB コネクタ(⇐)

USB 対応機器を接続するためのコネクタ。
USBコネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

参照 USB コネクタについて→ PART1 の「USB コネクタ」(P.10)

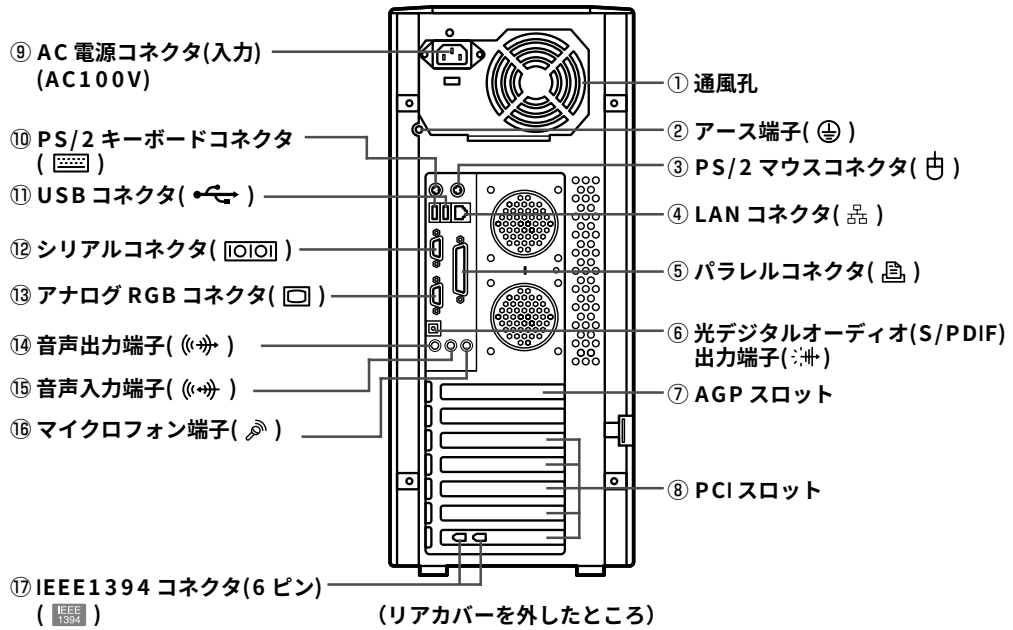
⑫ フロッピーディスクドライブアクセスランプ

フロッピーディスクドライブの動作中に点灯するランプ。

チェック!!

点灯中は電源を切ったり、フロッピーディスクを取り出したりしないでください。フロッピーディスクの内容が壊れることがあります。

本体背面



（リアカバーを外したところ）

① 通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔。壁などでふさがないように注意してください。

② アース端子( )

アース線を接続するための端子。

③ PS/2 マウスコネクタ( )

PS/2 コネクタに対応したマウスを接続するためのコネクタ。

チェック!!

PS/2 マウスを抜き差しするときは、本体の電源を切った状態で行ってください。

④ LAN コネクタ( )

100BASE-TX/10BASE-T対応のケーブルを接続するためのコネクタ。

参照 LAN コネクタについて→ PART1 の「LAN コネクタ」(P.19)

⑤ パラレルコネクタ( )

プリンタなどを接続するためのコネクタ。

参照 パラレルコネクタについて→ PART1 の「シリアルコネクタ / パラレルコネクタ」(P.21)

⑥ 光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子( )

MD デッキや AV アンプなどデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続する端子。ただし、プラグ形状によっては使用できないものもありますので、ケーブルは、よくお確かめになり、ご購入ください。

参照 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子について→ PART1 の「光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子」(P.15)

⑦ AGP スロット

AGPに対応したボードを取り付けるためのスロット。

参照 AGP スロットについて→ PART1 の「AGP スロット」(P.32)

⑧ PCI スロット

機能を強化したり拡張したりするための各種ボードを、取り付けるためのスロット。
上から順にスロット #1、#2、#3、#4、#5 になります。
#5 は、標準で取り付けられている IEEE1394 ボード専用です。
#1 ～ #2、#4 ～ #5 にはハーフサイズ、#3 にはフルサイズの PCI ボードを取り付けられます。

参照 PCI スロットについて→ PART1 の「PCI スロット」(P.28)

⑨ AC 電源コネクタ(入力)(AC100V)

AC コンセントから本体に電源を供給するためのコネクタ。添付の電源ケーブルを接続します。
本体添付の電源ケーブルは、AC コンセント側が普通の2ピン、本体側が特殊な3ピンになっています。

⑩ PS/2 キーボードコネクタ( )

PS/2 コネクタに対応したキーボードを接続するためのコネクタ。

チェック!!

PS/2 キーボードを抜き差しするときは、本体の電源を切った状態で行ってください。

⑪ USB コネクタ( )

USB 対応機器を接続するためのコネクタ。
USBコネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

参照 USB コネクタについて→ PART1 の「USB コネクタ」(P.10)

⑫ シリアルコネクタ( )

周辺機器を接続するためのコネクタ。
通信を行うときに必要な通信機器や、イメージスキャナなどの周辺機器を接続します。

参照 シリアルコネクタについて→ PART1 の「シリアルコネクタ / パラレルコネクタ」(P.21)

⑬ アナログ RGB コネクタ( )

アナログ RGB 対応ディスプレイを接続するためのコネクタ。

⑭ 音声出力端子(ステレオ)( )

外付けスピーカや市販のオーディオ機器などに、音声信号(ステレオ)を出力するためのミニジャック端子。

参照 音声出力端子について→ PART1 の「音声出力 / 入力端子」(P.17)

⑮ 音声入力端子( )

市販のオーディオ機器などから、音声信号(ステレオ)を本体に入力するためのミニジャック端子。

参照 音声入力端子について→ PART1 の「音声出力 / 入力端子」(P.17)

⑯ マイクロフォン端子(モノラル)( )

マイクロフォンを接続するためのミニジャック端子。

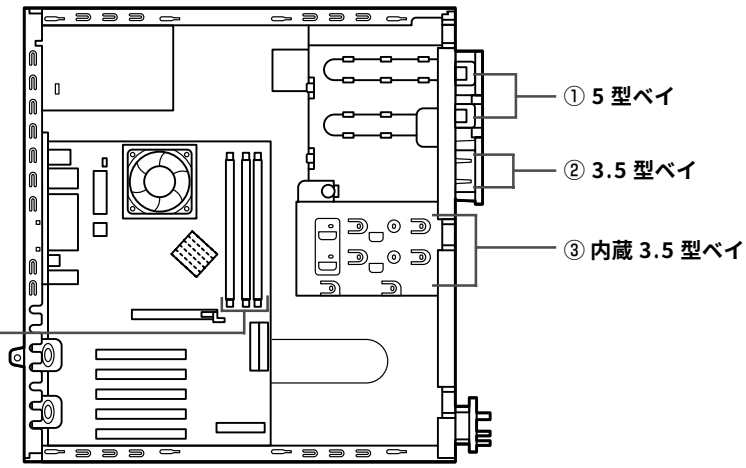
参照 マイクロフォン端子について→ PART1 の「マイクロフォン端子」(P.18)

⑰ IEEE1394 コネクタ(6 ピン)( )

IEEE1394対応機器(6ピン)を接続するためのコネクタ。

参照 IEEE1394 コネクタについて→ PART1 の「IEEE1394 コネクタ」(P.14)

本体内部



(リアカバー、レフトカバー、フロントマスクを外したところ)

① 5 型ベイ

5 型ベイ対応機器を取り付けるためのベイ。

参照 5 型ベイについて→ PART1 の「5 型ベイ」(P.40)

② 3.5 型ベイ

3.5 型ベイ対応機器を取り付けるためのベイ。

参照 3.5 型ベイについて→ PART1 の「3.5 型ベイ」(P.34)

③ 内蔵 3.5 型ベイ

内蔵タイプの 3.5 型ベイ対応機器を取り付けるためのベイ。
出荷時に搭載されているものも含め、ハードディスクを最大 3 台まで取り付けることができます。

参照 内蔵 3.5 型ベイについて→ PART1 の「内蔵 3.5 型ベイ」(P.37)

④ 増設 RAM サブボード用コネクタ

増設RAMサブボードを取り付けるためのスロット。

参照 メモリの増設について→ PART1 の「メモリ」(P.23)

PART 1

周辺機器を接続する

取り付けるときのポイント …… 2
取り外すときのポイント …… 5
本体の開け方と閉め方 …… 6
USB コネクタ …… 10
IEEE1394 コネクタ …… 14
光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子 …… 15
音声出力 / 入力端子 …… 17
マイクロフォン端子 …… 18
LAN コネクタ …… 19
シリアルコネクタ / パラレルコネクタ …… 21
メモリ …… 23
PCI スロット …… 28
AGP スロット …… 32
3.5 型ベイ …… 34
内蔵 3.5 型ベイ …… 37
5 型ベイ …… 40
IDE 機器 …… 42

取り付けるときのポイント

⚠警告

雷が鳴り出したら、パソコンやアンテナ線、電源ケーブル、ディスプレイケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意

本体の内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶつけたり、切ったりしないように注意してください。

濡れた手で触らないでください。

電源ケーブルがコンセントに接続されているとき、濡れた手で本体に触れると感電の原因となります。

電源ケーブルがコンセントに接続されているときは、本体のカバー類を外さないでください。

感電の原因となります。

周辺機器の取り付けや取り外しをするときは、必ず電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

パソコンや周辺機器の故障や感電の原因となります。

このパソコンの使用直後は、CPUやCPUの周辺、ヒートシンク（放熱板）に触れないでください。

CPU、CPUの周辺、ヒートシンク（放熱板）が高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。

電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

ケーブルを引っ張って抜くと、断線して火災の原因となります。

本体を解体した状態で使用しないでください。

感電や火災の原因となります。

いきなり接続しない

周辺機器の中には、取り付ける前にデバイスドライバやユーティリティのインストールが必要なものもあります。周辺機器を取り付けるときは、まず周辺機器のマニュアルを読んで、どのような準備作業が必要なのか、確認してください。

取り付けはひとつずつ確実に

◆ 周辺機器はひとつずつ動作確認する

複数の周辺機器を取り付けるときは、ひとつずつ取り付けて、取り付けた周辺機器が正しく動作することを確認してから、次の周辺機器を取り付けてください。

◆ ネジやケーブル類の接続は確実に行う

ネジで固定する周辺機器は、それぞれの機器にあったネジでしっかり固定してください。
ケーブル類のコネクタへの接続がゆるんでいたり、外れていると、取り付けた周辺機器が正常に認識されないこともあります。とくにCPUクーラーのヒートシンクがずれていたり、ファンの電源コネクタが外れていると、パソコンが動作しなくなります。
接続は確実に行い、内部に周辺機器を取り付けたときは、カバーを閉める前にもう一度すべてのケーブル類の接続を確認してください。

周辺機器から電源を入れよう

電源スイッチのある周辺機器を利用するときは、パソコンの電源を入れる前に、周辺機器の電源を入れてください。パソコンの電源を入れた後で周辺機器の電源を入れると、周辺機器が正常に認識されないことがあります。

デバイスドライバについて

Windows XPにはあらかじめいくつかのデバイスドライバが用意されていますが、周辺機器の中には、Windows標準のデバイスドライバではうまく動作しなかったり、「ユーティリティ」のインストールが必要なものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、フロッピーディスクやCD-ROMが添付されている場合は、これらを使ってデバイスドライバやユーティリティをインストールしてください。フロッピーディスクやCD-ROMが添付されていなかったり、きちんとインストールしたのにうまく動かないといった場合でも、周辺機器メーカーのホームページに最新のデバイスドライバやファームウェアが用意されていることもありますので、必要に応じてアップデートすることをおすすめします。

取り付けてもうまく動かないときは

◆ 他の機器とリソースが競合していませんか？

「デバイスマネージャ」を使ってリソースの競合が起きていないかチェックしてください。
システムのリソースが足りない場合、リソースの割り当てを変更します。

周辺機器の取り付け時には、次の情報もご覧ください。

- 周辺機器に添付のマニュアル
- 「PART4 困ったときのQ&A」
- 「ぱそガイド」の「トラブル解決Q&A」や「パソコンでできること」
- このパソコンに接続できる周辺機器を紹介しているNECのパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」（http://121ware.com）

◆ ケーブル類はきちんと接続されていますか？

本体内部に機器を取り付けたときに、気づかないうちにほかのケーブルなどを引っぱって、接続がゆるんでしまうことがあります。本体内部のケーブル類がそれぞれきちんと接続されているかどうか、確認してください。

◆ デバイスドライバはインストールしましたか？

周辺機器によっては、機器を取り付けた後、デバイスドライバやソフトをインストールしなければ動作しないものもあります。
また、周辺機器のデバイスドライバなどは、改善されて新しくなっていることもあります。「デバイスドライバをきちんとインストールしたのにうまく動かない」といった場合は、デバイスドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。

参照 ・デバイスドライバなどのインストール→周辺機器のマニュアル、Readmeファイルなどの補足情報
・最新のデバイスドライバなどの入手→周辺機器メーカーのホームページなど

◆ 周辺機器を、一度に複数取り付けませんでしたか？

周辺機器を一度に複数取り付けると、不具合があったとき、原因究明が困難になります。このような場合は、取り付けた機器をいったん全部外し、ひとつずつ取り付けてパソコンの動作を確認してください。

取り外すときのポイント

ホットプラグ対応機器の取り外し

USB対応機器やIEEE1394対応機器は、原則として本体の電源を入れたままでも取り外せます。ただし、接続後、Windows デスクトップ右下の通知領域（タスクトレイ）に（ハードウェアの安全な取り外し）が表示される周辺機器は、次の手順で取り外してください。

チェック!!

- は隠れていることがあるので、デスクトップ右下にある通知領域の をクリックして確認してください。
- 手順に従わずに取り外すと、パソコンが正常に動作しなくなる場合があります。

1 通知領域の（ハードウェアの安全な取り外し）をダブルクリックする

「ハードウェアの安全な取り外し」ダイアログが表示されます。

2 一覧から取り外す周辺機器をクリックする

3 「停止」をクリックする

「ハードウェアデバイスの停止」ダイアログが表示されます。

4 取り外す周辺機器を確認して、「OK」をクリックする

通知領域の（ハードウェアの安全な取り外し）に「XXX は安全に取り外すことができます。」というメッセージが表示されます。

5 周辺機器を取り外す

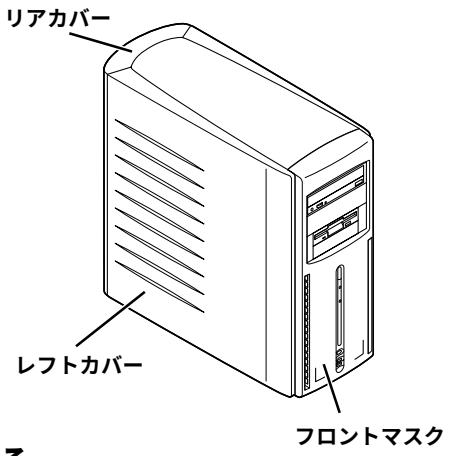
本体の開け方と閉め方

作業を始める前に、必ずこのPARTの「取り付けるときのポイント」(P.2)、「取り外すときのポイント」(P.5) をご覧になり、作業上の注意事項を確認してください。

リアカバー／レフトカバー／フロントマスクの取り外し

メモリを増設する、PCIボードやAGPボードを取り付けるなど、本体内部に機器を取り付けたり、取り付けた機器を取り外すときには、リアカバー(本体背面をおおっているカバー)やレフトカバー (本体左側面をおおっているカバー) を取り外して作業します。

5 型ベイや 3.5 型ベイへの機器の取り付け、取り外しを行うときには、リアカバーとレフトカバーを取り外した後、フロントマスク(本体前面をおおっているカバー) を取り外して作業します。



◆ リアカバーの取り外し

1 本体とすべての周辺機器の電源を切る

2 本体の電源ケーブルをコンセントから抜く

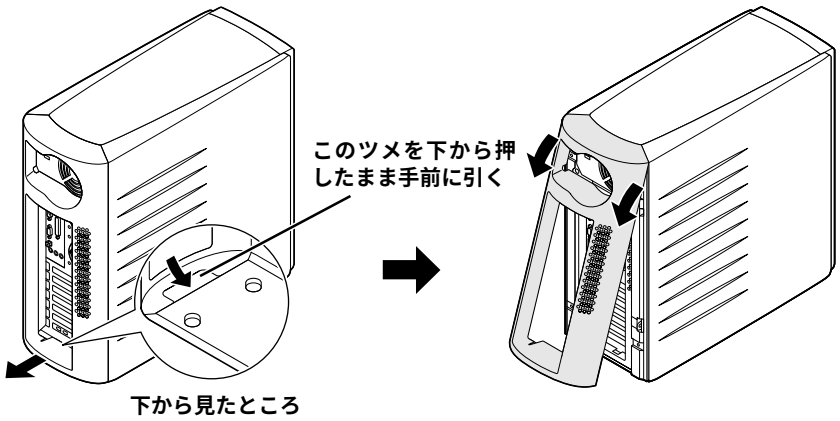
3 本体に接続されているすべてのケーブルを取り外す

4 リアカバーを外す

リアカバー下部のツメを下から押したまま手前に引き、続いてリアカバー上部の両端を軽く押さえたまま手前に引くと、うまく取り外せます。

チェック!!

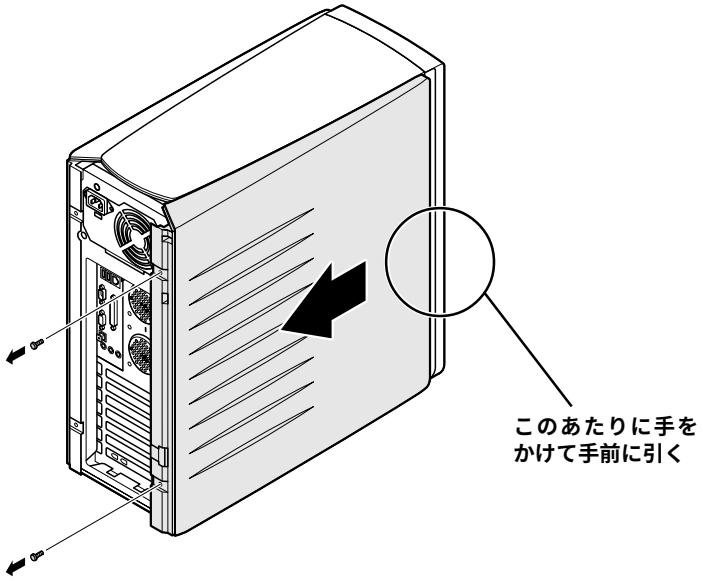
リアカバーのツメは破損しやすいので、注意してください。



◆ レフトカバーの取り外し

5 レフトカバー（本体背面から見て右側）を固定しているネジ2本を外し、レフトカバーを外す

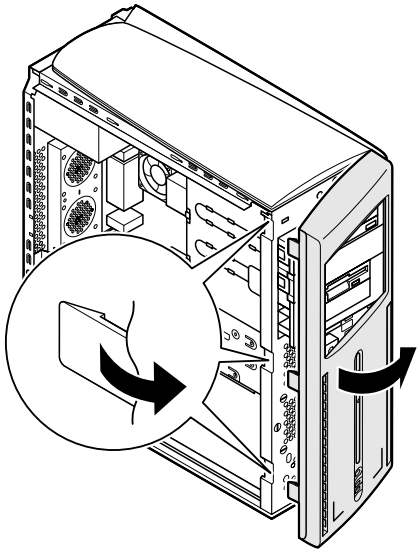
ネジ 2 本を外し、レフトカバーの側面に手を当てて、手前に引くとうまく取り外せます。



◆ フロントマスクの取り外し

6 フロントマスクを外す

フロントマスク左側のツメを外側に軽く引いて引っかかりを外してから、手前に引くとうまく取り外せます。



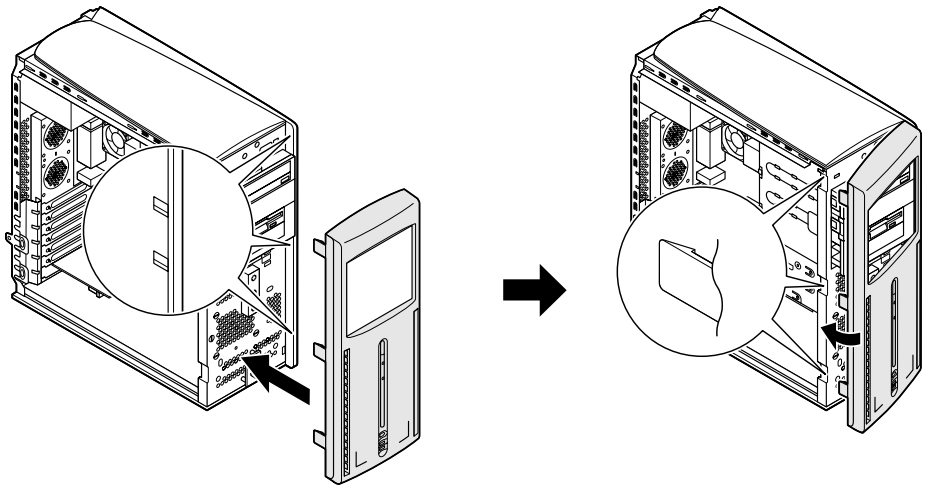
フロントマスク／レフトカバー／リアカバーの取り付け

フロントマスク、レフトカバー、リアカバーの取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

◆ フロントマスクの取り付け

1 フロントマスクを取り付ける

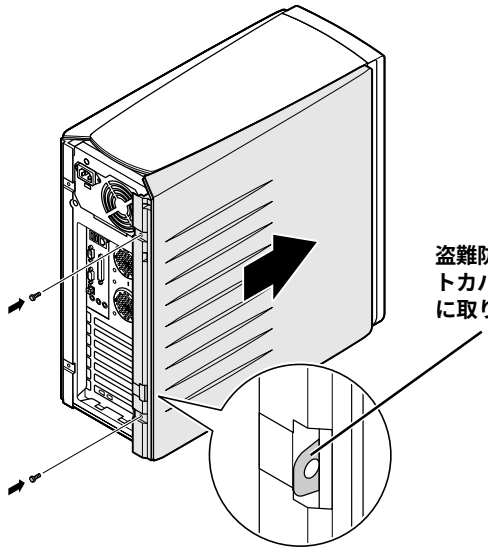
本体前面右側の穴にフロントマスク右側のツメ 3 カ所を差し込み、フロントマスク左側のツメを本体前面左側の引っかかりに合うように押し込んで固定します。



◆ レフトカバーの取り付け

2 レフトカバーを取り付けて、ネジ 2 本で固定する

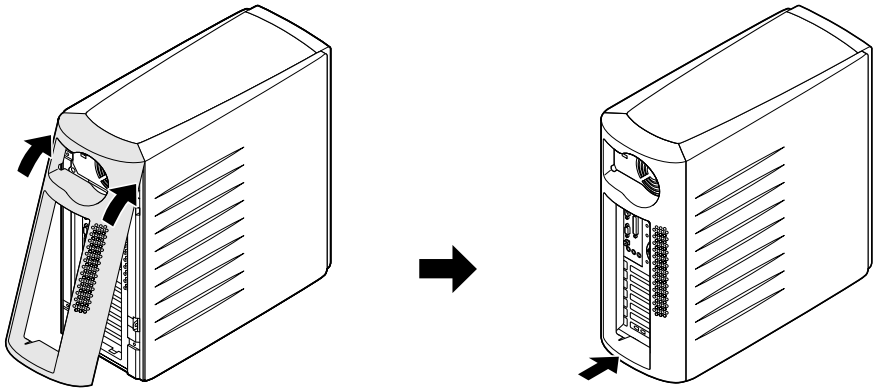
取り外しの手順 5 と逆の方法で、レフトカバーを取り付けます。このとき、盗難防止用ロックとレフトカバーの溝を確実に合わせるようにしてください。取り付けたら、取り外しの手順 5 で外したネジ 2 本で固定します。



◆ リアカバーの取り付け

3 リアカバーを取り付ける

本体背面左側の穴にリアカバー上部左側のツメを差し込み、回転させるようにして本体背面右側の穴にリアカバー上部右側のツメを差し込んでから、リアカバー下部を押し込んで固定します。



4 ケーブル類を取り付ける

すべてのカバーを取り付け終わったら、ケーブルを元通りに取り付けます。

USBコネクタ

ポイント

- USB1.1 規格の最大転送速度は 12Mbps、USB2.0 規格の最大転送速度は 480Mbps です。
- このパソコンの前面、背面、キーボード背面（USBキーボードのみ）にあるUSBコネクタは、USB1.1 規格のみに対応しています。USB 2.0 対応機器を接続すると、動作速度が遅くなったり、使えない場合があります。
- USB2.0 モデルでは、上記のUSBコネクタに加えて、USB2.0 規格に対応したUSB2.0 コネクタが本体背面に 4 個あります。ここにはUSB2.0 対応機器だけでなく、USB1.1 対応機器も接続できます。
- USBキーボード裏側のUSBコネクタには、ハイパワーデバイスは接続できません。

参照 ハイパワーデバイスについて→この PART の「USB コネクタにプラグを差し込む」(P.10)

USB ケーブルについて

USB ケーブルは、両端のプラグの形状が異なっています。平らな方のプラグをこのパソコンの USB コネクタに、四角い方のプラグを周辺機器のコネクタに差し込みます。

USB コネクタにプラグを差し込む

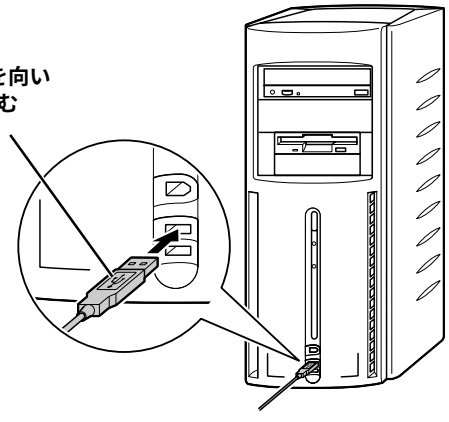
チェック!!

- プリンタなど、電源スイッチのある周辺機器を利用する場合、あらかじめ周辺機器の電源を入れてから接続してください。
- 複数の USB 機器を同時に使うと、機器によっては処理速度が低下することがあります。

プラグを差し込むときの向きは、どこのUSBコネクタを使うかによって異なります。次の説明の通りに、正しく差し込んでください。

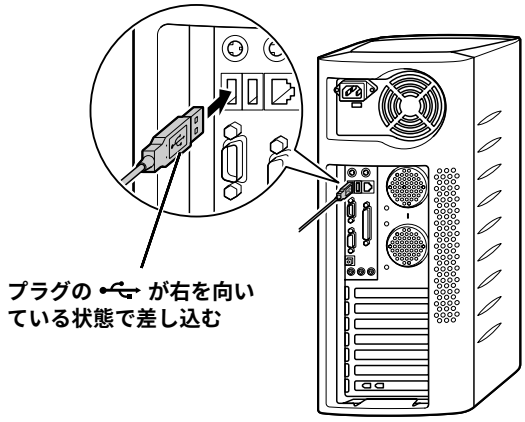
◆ 本体前面の USB コネクタを使う

本体前面のUSBコネクタを使う場合は、プラグの⇐マークを上に向けてコネクタに差し込みます。



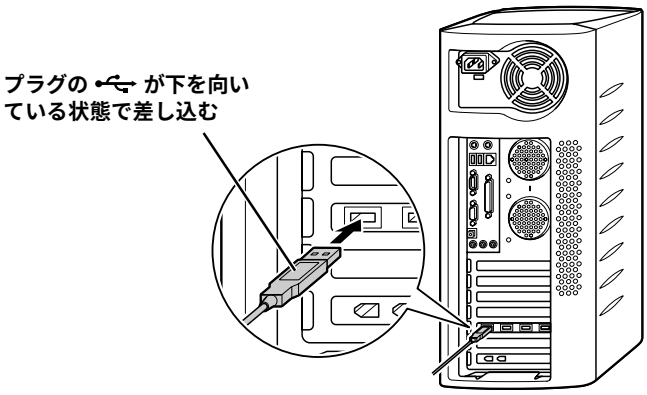
◆ 本体背面の USB コネクタを使う

本体背面のUSBコネクタを使う場合は、プラグの マークを右に向けてコネクタに差し込みます。



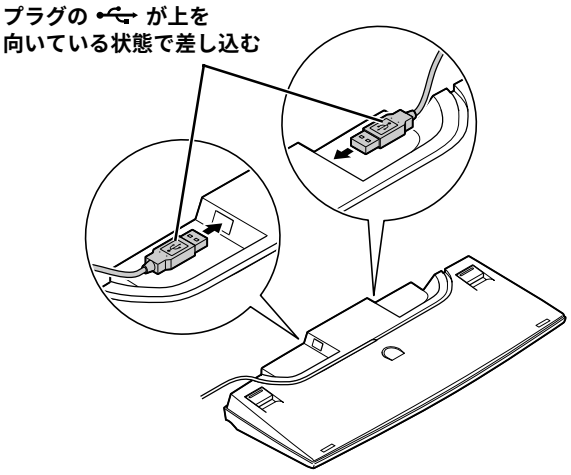
◆ 本体背面の USB2.0 コネクタを使う（USB2.0 モデルのみ）

USB2.0 コネクタを使う場合は、プラグのマークを下に向けてコネクタに差し込みます。



◆ キーボード裏側の USB コネクタを使う（USB キーボードのみ）

キーボード裏側のUSBコネクタを使う場合は、プラグのマークを上に向けてコネクタに差し込みます。



◆ USB カメラを接続する（USB カメラセットモデルのみ）

PART6 の「ヘッドフォンマイク /USB カメラガイド」（P.120）をご覧になり、接続してください。

◆ ハイパワーデバイスについて

USB対応機器は、動作するために必要な電流の取り方によって、次の3つのタイプに分かれます。

- **セルフパワードデバイス**

  独自に電源を持っている機器です。機器に電源ケーブルがついています。USB コネクタからは 100mA 以下の電流を消費します。

- **ローパワーデバイス**

  自分では電源を持たない機器です。機器に電源ケーブルはついていません。必要な電流をUSBコネクタから消費して動作しますが、消費するのは 100mA 以下と比較的少量です。

- **ハイパワーデバイス**

  ローパワーデバイスと同様、自分では電源を持たない機器です。機器に電源ケーブルはついていません。必要な電流をUSBコネクタから消費して動作しますが、比較的大きな電流（最大500mA）を消費します。

USB キーボードが添付されているモデルの場合、キーボード（USB バスパワードハブ付きキーボード）の裏側にある USB コネクタに接続できるのは、このうち「セルフパワードデバイス」と「ローパワーデバイス」のみです。「ハイパワーデバイス」はパソコン本体か、USBセルフパワーバスに接続してください。

USB ハブを使う

標準で用意されている USB コネクタだけで足りないときは、別売の「USB ハブ(PK-UP002 など)」を接続して、コネクタの数を増やすことができます。USB ハブを何台も使えば、規格上 127 台（パソコン 1 台あたり：USB ハブの数も含む）までの周辺機器を接続することができます。
USB2.0 モデルの場合、USB2.0 コネクタに USB2.0 対応機器を接続するときは、USB ハブ、USB ケーブルの両方とも、USB2.0 規格に対応したものをお使いください。

◆ USB ハブに USB 対応機器を接続する手順

1 本体に USB ハブを接続して、認識させる

2 USB ハブに周辺機器を接続する

◆ USB キーボードを別売の USB ハブに接続する手順

1 本体の USB コネクタにキーボードを接続する

2 本体の空いている USB コネクタに USB ハブを接続して認識させる

3 USB ハブにキーボードを接続する

チェック!!

複数の USB 機器を同時に使うと、機器によっては処理速度が低下することがあります。

正しく接続できたかどうか確認する

接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されるかどうかを確認します。確認する方法は、機器の種類によって異なります。また、機器によって下記の方法では確認できなかったり、続けて別の設定作業が必要になることもあります。詳しくは、各USB対応機器のマニュアルなどをご覧ください。

◆ USB対応プリンタ

「コントロールパネル」の「プリンタとその他のハードウェア」→「インストールされているプリンタまたはFAXプリンタを表示する」をクリックします。
接続したプリンタ名が表示されていれば、正しく接続されています。

◆ その他のUSB対応機器

接続を確認する方法は、機器のマニュアルをご覧ください。また、一般に次の方法でも確認できます。「コントロールパネル」の「パフォーマンスとメンテナンス」→「システム」をクリックし、「ハードウェア」タブから「デバイスマネージャ」ボタンをクリックすると、「デバイスマネージャ」が表示されます。この画面には、機器の接続状態が表示されています。この画面に、接続したUSB対応の機器が表示されていれば、正しく接続されています。ただし、その機器のところに赤い「×」や黄色の「！」がついている場合は、機器が正常に動いていないことを表します。

USB対応機器を使うときの注意

- USBコネクタの抜き差しを行うときは、3秒以上間隔をおいて行ってください。
- USBデバイスが正常に認識されていない場合は、いったんUSBコネクタを抜いて、もう一度差し込んでください。
- 省電力状態のときや省電力状態に移行中または復帰中には、USBコネクタの抜き差しを行わないでください。
- USBキーボードにUSB対応機器を接続するときは、必ず本体にキーボードを接続した状態で行ってください。

USB対応機器を取り外すときの注意

USB対応機器によっては、機器を接続するとデスクトップ右下の通知領域に が表示されます。このような機器は、 をダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」で機器の使用を停止する操作を行ってから取り外してください。正しく取り外しが行われないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。
この PART の「取り外すときのポイント」をご覧になり、正しい手順で取り外しを行ってください。

チェック!!
通知領域に が表示されていないときは、 をクリックしてください。

IEEE1394コネクタ

ポイント

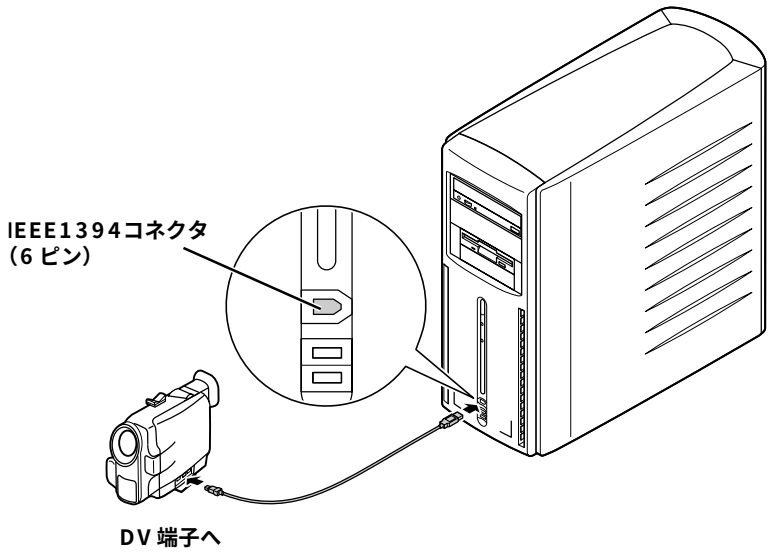
・IEEE1394 規格の最大転送速度は、400Mbps です。
・周辺機器によっては、IEEE1394 規格に対応したコネクタのことを別の名称（「DV 端子」など）で呼んでいることもあります。
・このパソコンの前面と背面の IEEE1394 コネクタは、6 ピンになっています。このパソコンと接続先のコネクタ形状に合わせたケーブルを使用してください。

チェック!!

電源スイッチのある周辺機器を利用する場合は、あらかじめ周辺機器の電源を入れてから接続してください。

IEEE1394 コネクタにデジタルビデオカメラを接続する

1 IEEE1394 ケーブル（別売）で、本体前面または背面の IEEE1394 コネクタ（6 ピン）とデジタルビデオカメラの IEEE1394 コネクタ(DV 端子)を接続する



光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子

ポイント

- MDデッキやAVアンプなどのデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続して、音を聴いたり、パソコンで再生した音をMDデッキなどにデジタル録音したりできます。
- このパソコンの光デジタル信号出力のサンプリング周波数は、48kHz です。
- 光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子 (角形) からは、次の音源が光デジタル信号で出力されます。

  WAVE (ウェーブ) 音源

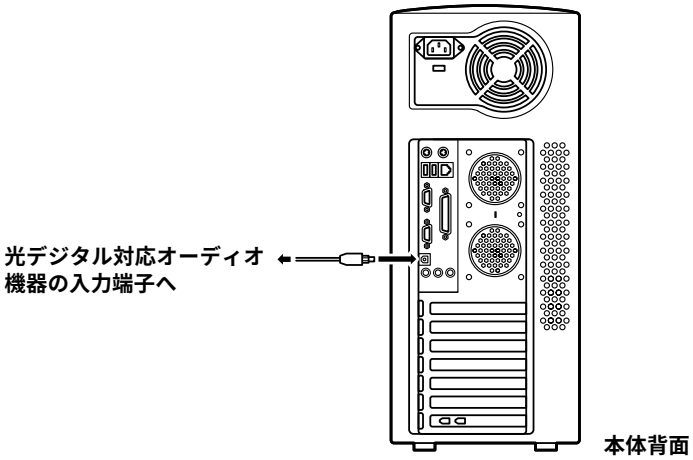
  MIDI (ミディ) 音源
- ドルビーデジタル 5.1 チャンネル出力 (ドルビーデジタルサラウンドに対応。ただし、ドルビーデジタルによる 5.1 チャンネルで再生するためには、対応したオーディオ機器が必要) にも対応しています。なお、DTS (ディーティーエス) 出力には対応していません。
- MD にデジタル録音するには、このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」を使います。

参照「Jet-Audio Player」について→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」

チェック!!

- 必ず、オーディオ機器の電源を切ってから接続してください。
- デジタルオーディオ入力機器によっては、光デジタルに対応していないことがあります。この場合は、別途、変換ユニットが必要になることがあります。
- デジタル入力機能のあるオーディオ機器を接続するときには、市販の光デジタルケーブルを使用してください。
- このパソコンの光デジタル信号出力のサンプリング周波数は、48kHzです。デジタル入力機能のあるオーディオ機器を接続するときは、そのオーディオ機器が48kHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。詳しくは、オーディオ機器のマニュアルをご覧ください。

オーディオ機器を接続する



設定を変更する

光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子にオーディオ機器を接続したときには、次のような設定の変更が必要です。

- **S/PDIF の出力設定の変更**

  光デジタルオーディオ出力端子からどの音声をデジタル出力するかを設定します。
  設定のしかたについて詳しくは、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「サウンドの設定」をご覧ください。

- **Jet-Audio Player の設定の変更**

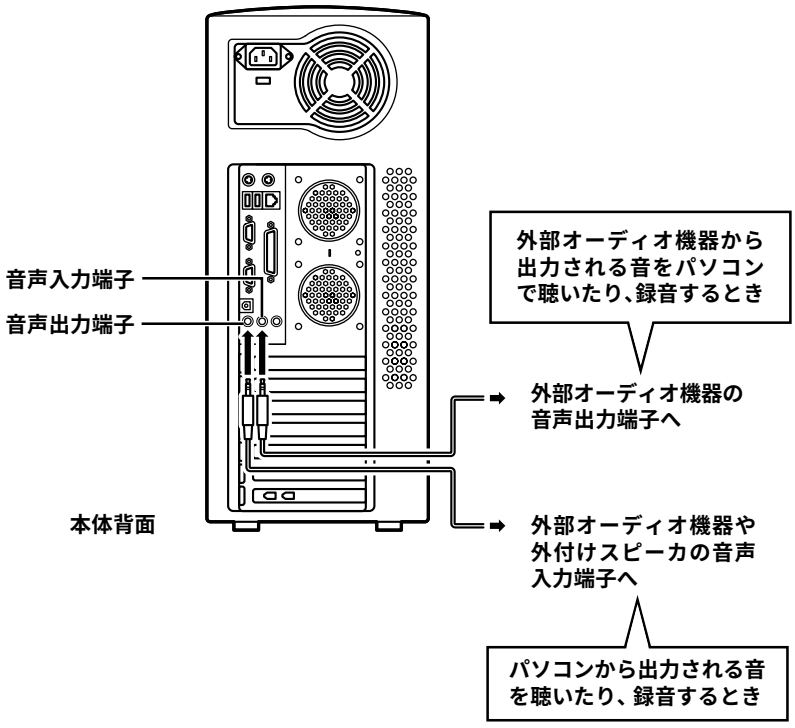
  Jet-Audio Playerでドルビーデジタル 5.1 チャンネル出力を行う場合は、Jet-Audio Playerの「デジタル出力」の設定を変更します。設定のしかたについて詳しくは、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「Jet-Audio Player」をご覧ください。

音声出力/入力端子

ポイント

- 音声出力端子、音声入力端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルです。
- 音声出力端子と外部オーディオ機器を接続するときは、外部オーディオ機器側は、「LINE IN」、「AUX IN」などの入力端子に接続します。
- 外部オーディオ機器のRCA端子から接続する場合は、ステレオRCAピンプラグ→ステレオミニプラグの変換ケーブルまたはコネクタが必要です。
- 外部オーディオ機器に「MIC IN」しかない場合は、「抵抗入り」のオーディオケーブルが必要です。

オーディオケーブルを接続する

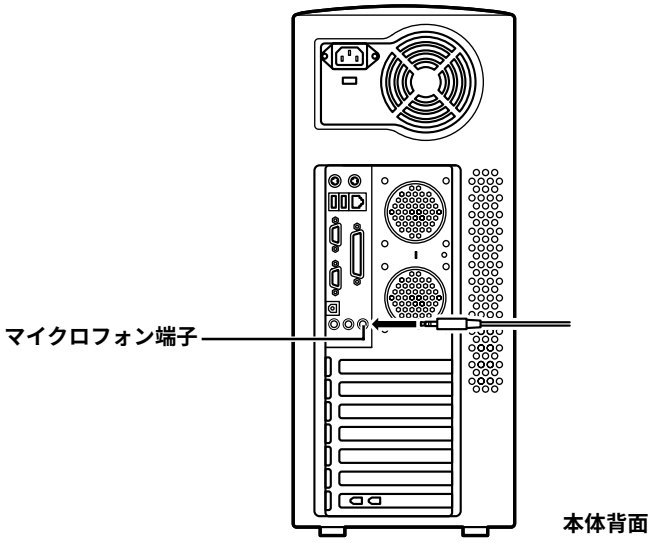


マイクロフォン端子

ポイント

・このパソコンのマイクロフォン端子には、モノラルミニプラグ付きのマイクロフォンを接続できます。
・ミニプラグは、「2 極タイプ」「3 極タイプ」のどちらも取り付けられます。

マイクロフォンを接続する



マイクロフォンの入力音量を調節する

1 **「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリューム コントロール」をクリック**

2 **「マスタ音量」の「マイク」で音量を調節する**

「マイク」がないときは、「オプション」-「プロパティ」をクリックして、「音量の調整」の「録音」をクリックします。「表示するコントロール」の「マイク」のチェックをオンにして、「OK」をクリックします。

LANコネクタ

ポイント

- ケーブルモデムやADSLモデム、ブロードバンドルータなどのブロードバンド対応機器を接続したり、複数のパソコンや周辺機器を接続してネットワークを構築するときに使います。
- このパソコンのLANコネクタは、100BASE-TX/10BASE-Tに対応しています。また、接続するケーブル種別の自動判別には対応していません。
- 100BASE-TX で LAN に接続する場合は、市販のカテゴリ 5 の LAN ケーブルをお使いください。
- 2.4GHz ワイヤレス LAN モデルでは、2.4GHz ワイヤレス LAN ボードを使って、無線でプリンタの共有やファイルのやり取りなどができます。

参照 ワイヤレス LAN ボードについて→ PART6 の「2.4GHz ワイヤレス LAN ガイド」(P.124)

LAN ケーブルを接続する

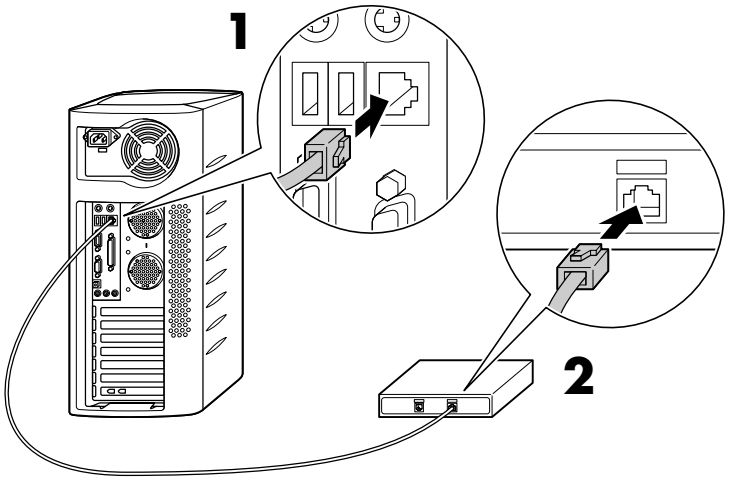
LAN コネクタと各機器との接続には、LAN ケーブルを使います。

チェック!!

- LAN ケーブルは別売です。
- LAN ケーブルを購入する際は、接続する LAN や機器の規格にあったケーブルを購入してください。

1 LAN ケーブルのプラグを、フックが右になるようにして本体背面の LAN コネクタ (品品) に接続する

2 ADSL モデムやハブ (マルチポートリピータ) などに、LAN ケーブルのもう一方のプラグを接続する



チェック!!

LAN ケーブルには、ストレートケーブルとクロスケーブルの 2 種類があります。目的によって使うケーブルが違うので、購入するときは注意してください。

・パソコンとハブを接続する場合：ストレートケーブル
・パソコンと ADSL モデムを接続する場合※：ストレートケーブル
・ハブを使わずにパソコンとパソコンを直接接続する場合：クロスケーブル

※詳しくは、各 ADSL 接続業者にお問い合わせください。

ネットワークの設定をする

ADSL モデムやケーブルモデム、ブロードバンドルータを使ってインターネットに接続する場合の設定方法は、各機器のマニュアルをご覧ください。

ネットワークの設定は、Windows の「コントロールパネル」で行います。
「スタート」→「コントロールパネル」→「ネットワークとインターネット接続」→「ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する」をクリックすると、「ネットワークセットアップウィザード」が表示されます。画面の説明を読んで、自分のパソコンの接続環境にあった設定をしてください。

参照 「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「LAN の設定」

ネットワーク上の自分のコンピュータ名や IP アドレスを確認する

ネットワークの設定が正しく行われると、「マイネットワーク」に自分のコンピュータ名が表示されます。「スタート」→「マイ コンピュータ」の「マイネットワーク」をクリックして、確認してください。

◆ IP アドレスや MAC アドレスを調べる

IP アドレスや MAC アドレスは、Windows の「コマンドプロンプト」で「ipconfig」コマンドに「/all」オプションをつけて実行すると確認できます。

◆ セキュリティの設定について

ブロードバンド対応機器でインターネットに常時接続すると、パソコンへの不正侵入を受けやすくなります。このパソコンに添付のパーソナルファイアウォールソフト「PCGATE Personal」を使って、セキュリティの設定をすることをおすすめします。また、ファイアウォール機能のあるルータを使っている場合は、パケットフィルタリングや NAT、IP マスカレードなどの機能を利用することをおすすめします。

シリアルコネクタ/パラレルコネクタ

ポイント

- このパソコンのシリアルコネクタの形状は、D-sub 9 ピンです。
- このパソコンのパラレルコネクタの形状は、D-sub 25 ピンです。SPP、EPP、ECP、ECP+EPP の各モードに対応しています。

シリアルコネクタについて

シリアルコネクタには、モデムやISDNターミナルアダプタなどの通信機器や、イメージスキャナを接続できます。

◆ シリアルコネクタに機器を接続する

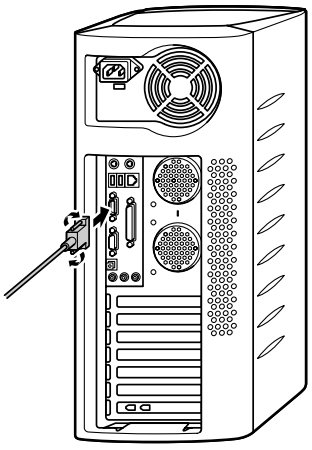
チェック!!

- パソコン本体と周辺機器の電源を切ってから接続してください。
- シリアルケーブルは、周辺機器に添付されているものを使用してください。別に購入する場合、周辺機器を接続するには「ストレート」タイプを、他のパソコンと接続するには「クロス」または「リバース」タイプを選んでください。
- ケーブルを接続するときに変換アダプタなどを使用すると、隣り合ったコネクタにプラグを接続できなくなることがあります。例えば、シリアルコネクタに RS-232C 変換アダプタを取り付けたときには、変換アダプタとプラグがぶつかり、アナログRGBコネクタに接続できないことがあります。

1 パソコン本体背面のシリアルコネクタに、シリアルケーブルのプラグを差し込む

コネクタの向きに注意してください。幅の広い側を右に向けて差し込みます。

2 シリアルケーブルのプラグにある上下のネジをしめて固定する



パラレルコネクタについて

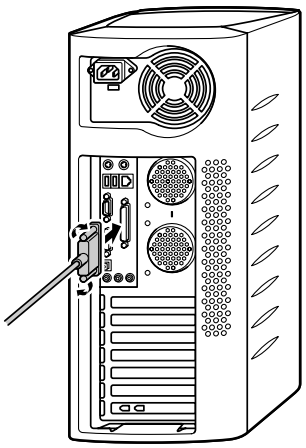
パラレルコネクタには、プリンタやイメージスキャナなどのパラレル対応機器を接続できます。

◆ パラレルコネクタに機器を接続する

チェック!!
パソコン本体と周辺機器の電源を切ってから接続してください。

1 **パソコン本体背面のパラレルコネクタに、パラレルケーブルのプラグを差し込む**
コネクタの向きに注意してください。幅の広い側を右に向けて差し込みます。

2 **パラレルケーブルのプラグにある上下のネジをしめて固定する**



メモリ

搭載するメモリの容量は、パソコン全体のパフォーマンスに影響します。DTPやDTM、ビデオ映像の編集などを行うときは、メモリの増設をおすすめします。

取り付ける前に

◆ 取り付けられる増設 RAM サブボード

このパソコンに取り付けられる増設RAMサブボードは、「DIMM」（ディム）という形式のものです。このパソコンではPC2100対応のDDR SDRAMタイプの「DIMM」を使います。

このパソコンには、最大で1,536Mバイト（512Mバイト×3枚）のメモリを内蔵できます。ただし、この場合は性能が若干落ちることがあるため、1,280Mバイト（512Mバイト×2枚＋256Mバイト×1枚）までの増設をおすすめします。

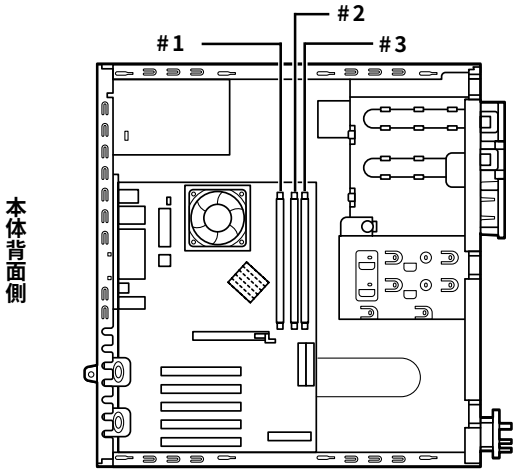
次の型名の増設RAMサブボードは、このパソコンでの動作が保証されています。

型　名	メモリ容量
PK-UG-MO40	128Mバイト
PK-UG-MO41	256Mバイト
PK-UG-MO42	512Mバイト

◆ メモリスロットの位置と取り付ける順序について

増設RAMサブボードは、本体内部の増設RAMサブボード用コネクタ（メモリスロット）に取り付けます。

メモリスロットには、本体背面側から「DDR1」、「DDR2」、「DDR3」と番号が付いています。増設RAMサブボードは、メモリスロットの#1、#2、#3の順に取り付けていきます。



増設 RAM サブボードの取り付けと取り外し

⚠注意

増設 RAM サブボードは以下の手順に従って正しく取り付けてください。
正しく取り付けられていないと、発煙、火災の原因となります。

増設 RAM サブボードの取り付けや取り外しを行うときは、指をぶつけたり、切ったりしないように注意してください。

◆ ボードを取り扱うときの注意

増設 RAM サブボードおよび標準で付いている RAM サブボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態でこれらのボードに触れると、ボードが破損する原因となります。ボードに触れる前に、必ず身近な金属（アルミサッシやドアのノブなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除いてから作業してください。

◆ 増設 RAM サブボードの取り付け

以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。作業を始める前に、必ずこの PART の「取り付けるときのポイント」(P.2)、「取り外すときのポイント」(P.5)をご覧になり、作業上の注意事項を確認してください。
通常、増設 RAM サブボードは #2 のコネクタから先に取り付けますが、ここでは #3（本体前面に一番近い方）のコネクタに取り付ける手順とイラストで説明します。

1 正しい手順で本体のリアカバーとレフトカバーを取り外す

参照 リアカバーとレフトカバーの外し方→この PART の「本体の開け方と閉め方」(P.6)

2 本機の左側面(前面から見て左側)が上になるように、静かに横に倒す

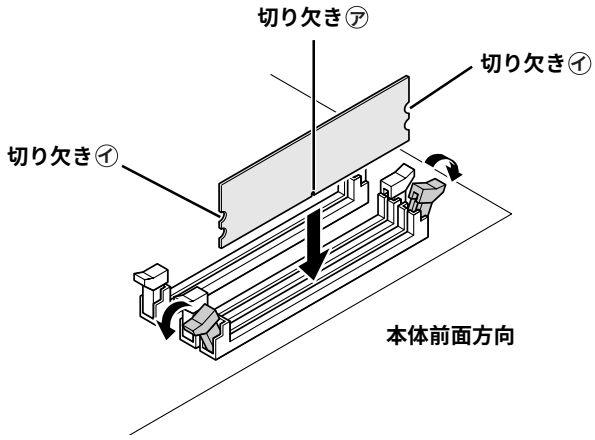
本体を倒すときは、机やテーブルの傷つき防止のため、下に厚手の紙や綿の布などを敷いておくことをおすすめします。

3 ボードを取り付けるメモリスロットの両側にあるフックを外側に開き、切り欠き㋐の位置とメモリスロットの突起の位置があう向きにボードを持ち、コネクタにボードを垂直に差し込む

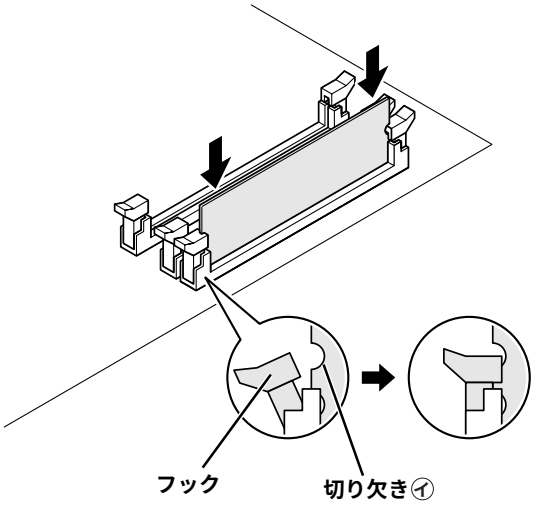
図にはありませんが、実際には 3 つあるコネクタのうち、# 1（本体背面に近い方）のコネクタには、標準で RAM サブボードが差し込まれています。

チェック!!

- フックを開きすぎて破損しないように気をつけてください。
- ボードは両手で上部を持ち、端子部分には触れないでください。端子に触れると、接触不良など、故障の原因となります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。



4 そのまま垂直方向に力を加え、コネクタ両側のフックが切り欠き㋑に引っかかるまで、強く押し込む



チェック!!

増設RAMサブボードを奥までしっかり差し込むには、強い力が必要です。手順3で差し込んだときに切り欠きとコネクタの突起の位置を正しく合わせてあれば、壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。また、そのときに指をぶつけたり、切ったりしないように注意してください。

5 正しい手順で本体のレフトカバーとリアカバーを取り付ける

参照 レフトカバーとリアカバーの取り付け→この PART の「本体の開け方と閉め方」(P.6)

◆ 増設 RAM サブボードの取り外し

以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。作業を始める前に、必ずこのPARTの「取り付けるときのポイント」(P.2)、「取り外すときのポイント」(P.5)をご覧になり、作業上の注意事項を確認してください。

1 正しい手順で本体のリアカバーとレフトカバーを取り外す

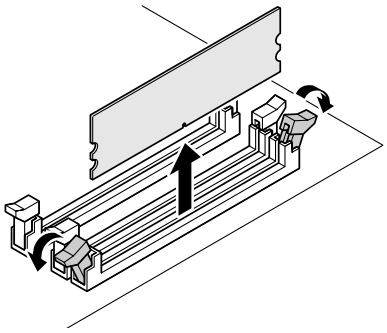
参照 リアカバーとレフトカバーの外し方→この PART の「本体の開け方と閉め方」(P.6)

2 本機の左側面(前面から見て左側)が上になるように、静かに横に倒す

本体を倒すときは、机やテーブルの傷つき防止のため、下に厚手の紙や綿の布などを敷いておくことをおすすめします。

3 ボードが取り付けられているメモリスロットの両側にあるフックを外側に開き、ボードを垂直に引き抜く

フックを開くと、ボードがメモリスロットから外れて少し浮き上がります。そのままボードを垂直に引き抜きます。



チェック!!

- フックを開きすぎて破損しないように気をつけてください。
- ボードは両手で上部を持ち、端子部分には触れないでください。端子に触れると、接触不良など、故障の原因となります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAMサブボードおよび標準で付いているRAM サブボードは、大切に保管してください。

4 正しい手順で本体のレフトカバーとリアカバーを取り付ける

参照 レフトカバーとリアカバーの取り付け→この PART の「本体の開け方と閉め方」(P.6)

増やしたメモリを確認する

パソコンの電源を入れて、増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

1 デスクトップの「ぱそガイド」アイコンをダブルクリックし、「ぱそガイド」を起動する

「ぱそガイド」の画面が表示されます。

2 「パソコンの情報」ボタンをクリック

3 メモリ容量を確認する

増やした後の全メモリ容量(標準で入っている容量＋増設した容量)が表示されていることを確認してください。

チェック!!

- 増やした後の全メモリ容量より数Mバイト少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。
- メモリを増設した場合、初期化のため、電源を入れてからディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。

◆ メモリが増えていなかったら

表示されたメモリ容量が増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

- メモリが正しく取り付けられているか？
- このパソコンで使える増設 RAM サブボードを取り付けているか？

PCIスロット

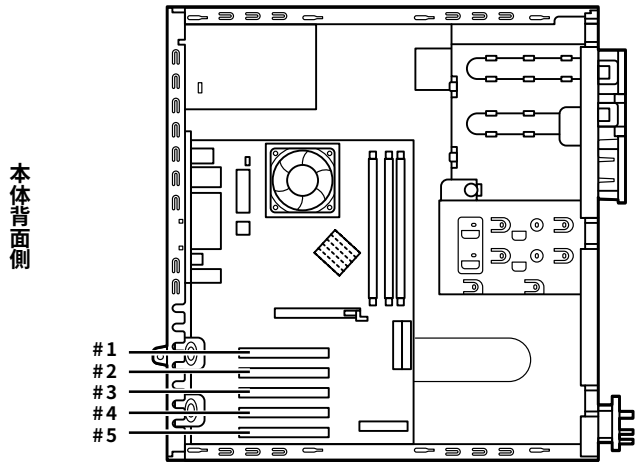
PCIスロットは、パソコンの機能を拡張するためのボードを取り付けることができます。SCSIボードや拡張IDEボードなど、数多くの種類のPCI対応のボードがあります。

ポイント

- PCIスロットには、本体上面側から順に#1から#5までの番号がついています。PCIボードは、番号の小さいPCIスロットから取り付けます。
- 複数のPCIボードを一度に取り付けると、正しく動作しないこともあります。できるだけひとつずつ取り付けて、取り付けたボードが正常に動作することを確認してから、次のボードを取り付けるようにしてください。
- 番号の小さいPCIスロットから順に取り付けても、リソースの競合などが原因で、正常に動作しないことがあります。このときは、動作しないPCIボードを別のPCIスロットに取り付けてみて、再度動作を確認してください。
- ここでの説明は、一般的なPCIボードの取り付け方法です。取り付けるときは、PCIボードのマニュアルもあわせてご覧ください。

PCIスロットについて

このパソコンには、下の図のようにPCIスロットがあります。



PCIスロットには、本体上面側から順に、「#1」、「#2」、「#3」、「#4」、「#5」と、番号が付いています。PCIボードは、番号の小さいPCIスロットから取り付けます。
「#3」のPCIスロットには、フルサイズのPCIボードを取り付けられます。「#1」、「#2」、「#4」、「#5」のPCIスロットには、ハーフサイズのPCIボードを取り付けられます。
ただし、「#5」のPCIスロットは、標準で取り付けられているIEEE1394ボード専用です。

チェック!!

フルサイズまたはハーフサイズのPCIボードでも、特殊な形状のものは取り付けられないことがあります。

PCIボードを取り付ける

以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。作業を始める前に、必ずこのPARTの「取り付けるときのポイント」(P.2)、「取り外すときのポイント」(P.5)をご覧になり、作業上の注意事項を確認してください。

1 正しい手順で本体のリアカバーとレフトカバーを取り外す

参照 リアカバーとレフトカバーの外し方→このPARTの「本体の開け方と閉め方」(P.6)

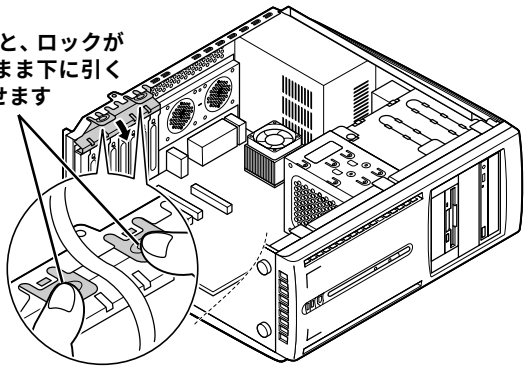
2 本機の左側面(前面から見て左側)が上になるように、静かに横に倒す

本体を倒すときは、机やテーブルの傷つき防止のため、下に厚手の紙や綿の布などを敷いておくことをおすすめします。

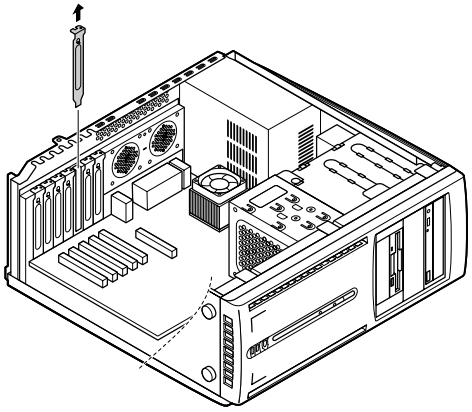
3 スロットカバーを固定している留め金具を外す

留め金具は、つまみを強く押して本体枠から外します。

つまみを下に押すと、ロックが外れるので、そのまま下に引くと、うまく取り外せます



4 スロットカバーを取り外す

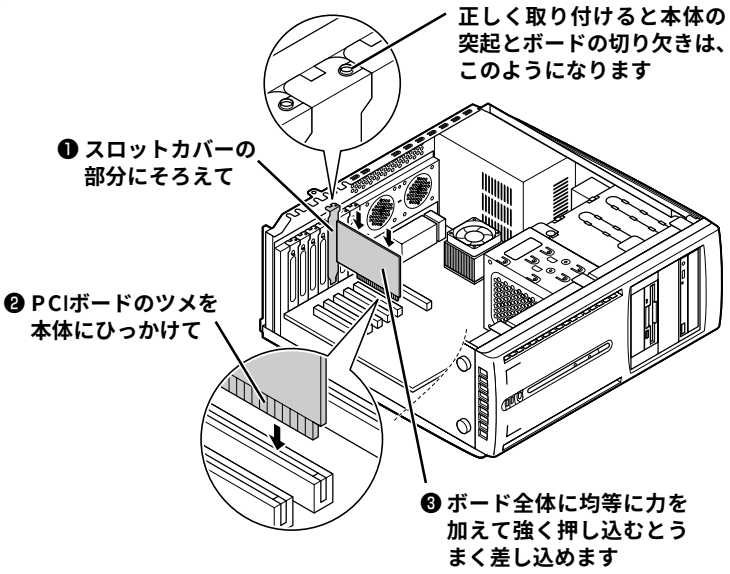


チェック!!

- 取り外したスロットカバーは、なくさないように大切に保管してください。ここで取り付けたPCIボードを取り外したときに再度使用します。
- 標準で取り付けられているPCIボードは、購入時に取り付けられていたスロットで使用してください。

5 PCIボードをPCIスロットに差し込む

ボードのツメの先端を本体のスロットにきちんと合わせて、上から強く押し込むようにしてください。

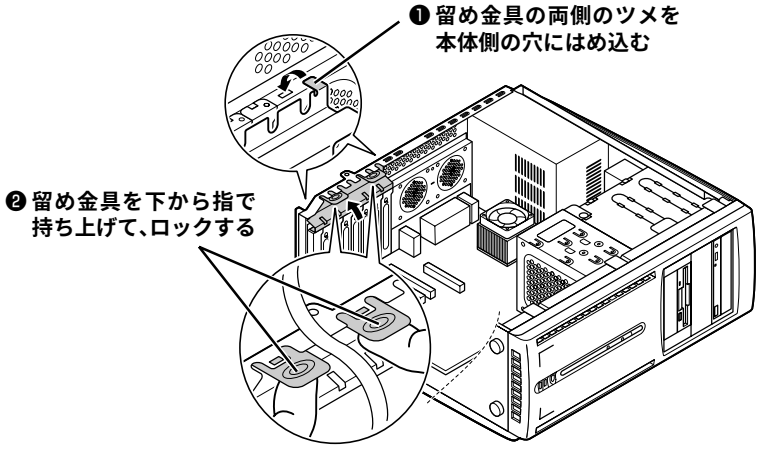


チェック!!

しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

6 手順3で取り外した留め金具を元通りに取り付けて、PCIボードを固定する

PCIスロットに差し込んだPCIボードは外れやすいので、必ず固定してください。



7 正しい手順で本体のレフトカバーとリアカバーを取り付ける

参照 レフトカバーとリアカバーの取り付け方→この PART の「本体の開け方と閉め方」(P.6)

チェック!!

PCIボードによっては、ボードの取り付け後、デバイスドライバのインストールなどが必要なものもあります。詳しくは、PCIボードのマニュアルをご覧ください。また、PCIボードの使い方についても、PCIボードのマニュアルをご覧ください。

PCIボードを取り外す

PCIボードの取り外しは、PCIボードを取り付けるときと逆の手順で行ってください。

チェック!!

- 標準で取り付けられているPCIボードを取り外して、別のPCIボードを取り付けた場合はサポートの対象外になります。
- FAXモデムボード、2.4GHzワイヤレスLANボードも同じ手順で取り外すことができます。

AGPスロット

より高速な3Dグラフィック表示でゲームをプレイするなど、グラフィック機能を強化したいときは、AGP スロットに AGP ボードを増設します。

- このパソコンの AGP スロットは、AGP4 ×モードに対応しています。また、AGP Pro 規格には対応していません。
- このパソコンの出荷時には、本体内蔵のグラフィック機能を使っています。増設した AGP ボードを使用可能にするには、取り付け後、ディスプレイケーブルを AGP ボードのコネクタに接続してください。
- AGP スロットにボードを増設すると、チップセット内蔵のグラフィック機能は自動的に無効になります。
- ここでは、一般的な AGP ボードの取り付け方法について説明しています。AGP ボードによっては、専用ケーブルの取り付けや、専用ソフトウェアのインストールが必要です。AGP ボード添付のマニュアルとあわせてご覧ください。
- AGPスロットはピン数が多いため、AGPボードの差し込みが少しずれただけでも、動作しなくなります。確実に差し込むようにしてください。

AGP ボードを取り付ける

以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。作業を始める前に、必ずこの PART の「取り付けるときのポイント」(P.2)、「取り外すときのポイント」(P.5)をご覧になり、作業上の注意事項を確認してください。

1 正しい手順で本体のリアカバーとレフトカバーを取り外す

2 本機の左側面(前面から見て左側)が上になるように、静かに横に倒す

本体を倒すときは、机やテーブルの傷つき防止のため、下に厚手の紙や綿の布などを敷いておくことをおすすめします。

3 スロットカバーを固定している留め金具を外して、AGP スロットカバーを取り外す

ここまでの手順は、PCI ボードの取り付けと同じです。

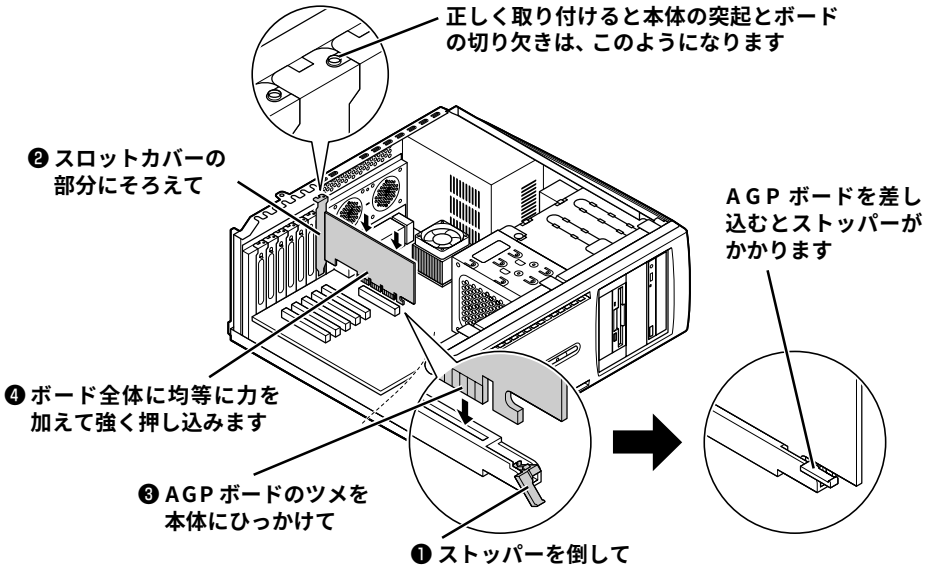
参照 PCI ボードの取り付け→この PART の「PCI ボードを取り付ける」(P.29)

チェック!!

取り外した AGP スロットカバーは、なくさないように大切に保管してください。ここで取り付けた AGP ボードを取り外したときに再度使用します。

4 AGP ボードを AGP スロットに差し込む

ボードのツメの先端を本体のスロットにきちんと合わせて、上から強く押し込むようにしてください。
AGP ボードの中には、電源ユニットから電源を供給して動作するものがあります。そのような AGP ボードを取り付けたときは、電源ケーブルを AGP ボードの電源コネクタに接続してください。



5 手順 3 で取り外した留め金具を元通りに取り付けて、AGP ボードを固定する

固定方法は、PCI ボードの取り付けと同じです。

参照 留め金具の取り付け→この PART の「PCI ボードを取り付ける」(P.29)

6 正しい手順で本体のレフトカバーとリアカバーを取り付け、ケーブル類を元通りに取り付ける

ディスプレイケーブルは、増設した AGP ボードのコネクタに接続してください。

参照 レフトカバーとリアカバーの取り付け方→この PART の「本体の開け方と閉め方」(P.6)

AGP ボードを使用可能にする

1 電源を入れて Windows を起動する

チェック!!
電源を入れても画面に何も表示されないときは、AGP ボードの取り付けを再確認してください。

2 新しい機器が接続されたことを知らせるダイアログが表示されるので、指示に従ってドライバなどを設定する

AGP ボードを取り外す

AGP ボードの取り外しは、AGP ボードを取り付けるときと逆の手順で行ってください。
取り外し後、ディスプレイケーブルは、本体内蔵のコネクタに接続してください。

3.5型ベイ

3.5型ベイには、標準でフロッピーディスクドライブが取り付けられています。空いている方の3.5型ベイには、ZIPドライブやPCカードリーダ／ライタなど、3.5型ベイ対応の機器を取り付けられます。

⚠注意

シールドの取り付け／取り外しの際は、ケガをしないよう、注意してください。

3.5 型ベイに機器を取り付ける

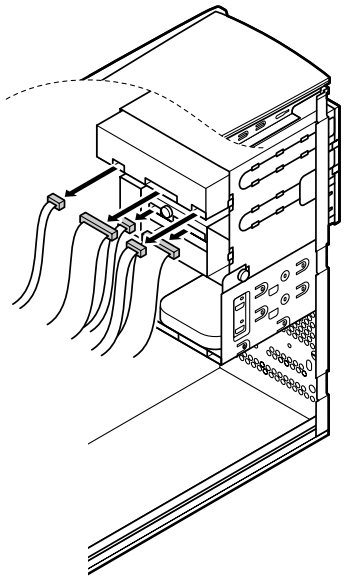
以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。作業を始める前に、必ずこのPARTの「取り付けるときのポイント」(P.2)、「取り外すときのポイント」(P.5)をご覧になり、作業上の注意事項を確認してください。

1 正しい手順で本体のリアカバー、レフトカバー、フロントマスクを取り外す

参照 カバーの外し方→このPARTの「本体の開け方と閉め方」(P.6)

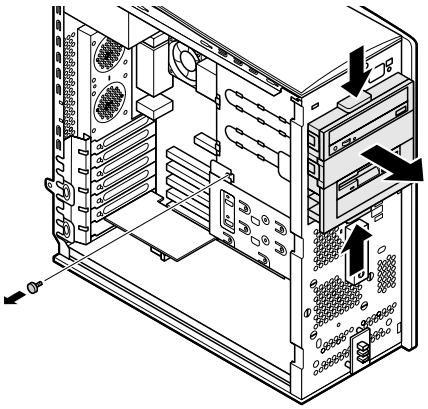
2 5型ベイと3.5型ベイに取り付けられている機器のすべてのケーブルを外す

標準で取り付けられているCD/DVDドライブの電源ケーブルとフラットケーブルとオーディオケーブル、フロッピーディスクドライブの電源ケーブルとFDDケーブルを取り外します。



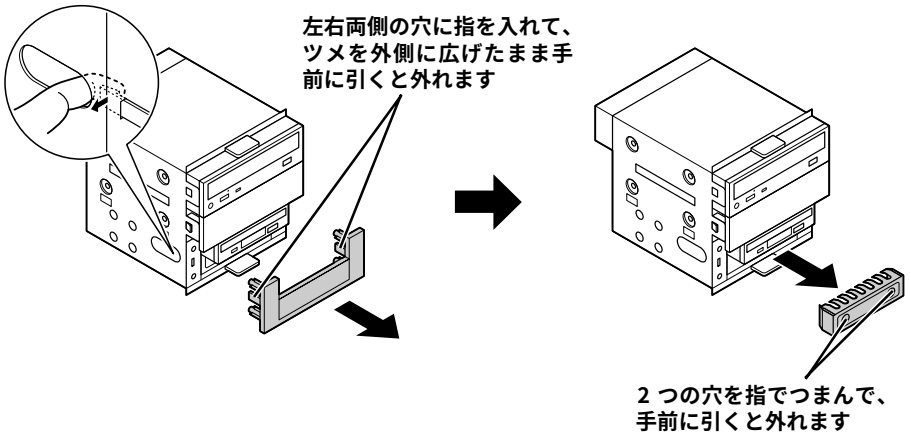
3 本体前面からドライブユニットを取り外す

ユニットを固定しているネジを取り外して、ユニットの上と下にあるツメを押しながら手前に引くと、ユニット全体を取り外せます。



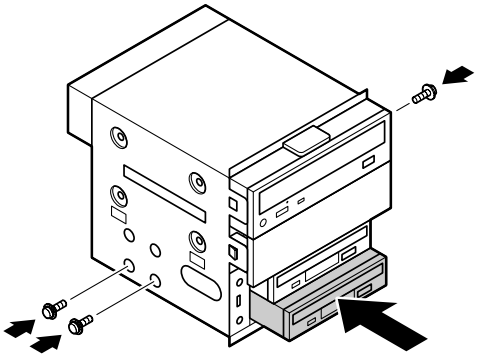
4 3.5 型ベイのフロントパネルとシールドを取り外す

ドライブユニットの左右両側の穴に指を入れてツメを外側に広げて、手前に引くと外れます。また、空いている3.5型ベイには、金属製のシールドが付いているので、2つの穴を指でつまんで手前に引くと外れます。



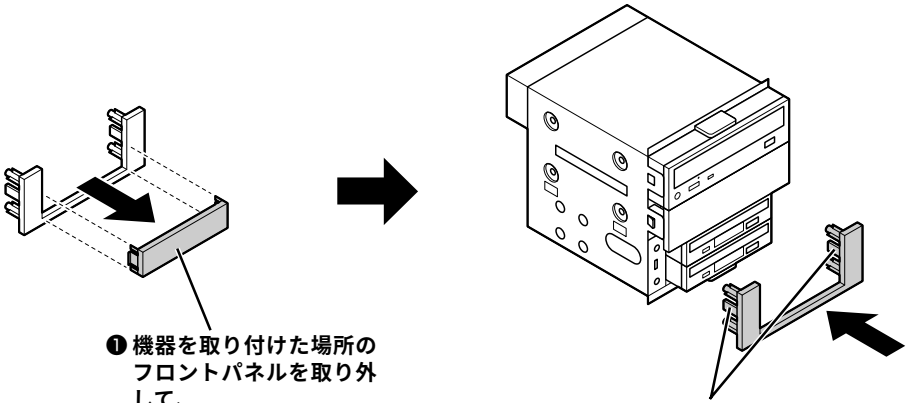
5 3.5 型ベイに機器を取り付けて、ネジ 3 本で固定する

ユニットの前面から機器を滑らすように押し込みます。ユニット側面からドライブのネジ穴とユニットのネジ穴が一致していることを確認して、右 1 本、左 2 本の計 3 本のネジで固定します。



ネジは3.5型ベイ対応機器に添付のものをお使いください。添付されていない場合は、市販のインチネジまたはミリネジを使って機器を固定してください。

6 ドライブユニットに 3.5 型ベイのフロントパネルを取り付ける



❶ 機器を取り付けた場所のフロントパネルを取り外して、

❷ 左右両側のツメをユニットの穴に引っかけて固定する

7 ドライブユニットを本体に戻して、手順3で取り外したネジで固定する

ツメが固定されるまで、ユニット全体を静かに押し込みます。

8 すべてのケーブルを接続して、正しい手順で本体のカバーを取り付ける

参照 ・3.5 型ベイに取り付けた機器へのケーブルの接続→この PART の「IDE 機器」(P.42)
・カバーの取り付け方→この PART の「本体の開け方と閉め方」(P.6)

3.5 型ベイから機器を取り外す

3.5 型ベイからの機器の取り外しは、取り付けと逆の手順で行ってください。

内蔵3.5型ベイ

ポイント

・このパソコンには、3.5型のハードディスクを3台取り付けられる内蔵3.5型ベイがあります。ベイには、標準で1台または2台のハードディスクが取り付けられています。

内蔵 3.5 型ベイにハードディスクを取り付ける

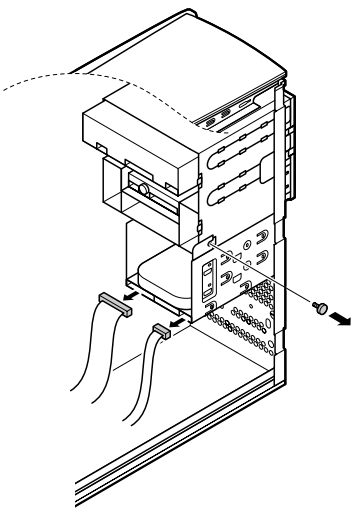
以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。作業を始める前に、必ずこのPARTの「取り付けるときのポイント」(P.2)、「取り外すときのポイント」(P.5)をご覧になり、作業上の注意事項を確認してください。

1 正しい手順で本体のリアカバー、レフトカバー、フロントマスクを取り外す

参照 カバーの外し方→このPARTの「本体の開け方と閉め方」(P.6)

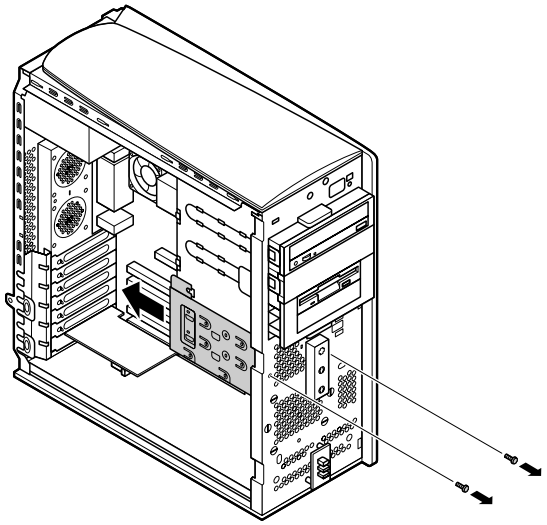
2 標準で取り付けられているハードディスクのケーブルをすべて外し、ベイを固定しているネジを取り外す

内蔵3.5型ベイには、標準で1台または2台のハードディスクが取り付けられています。電源ケーブルとフラットケーブルを外し、ベイを固定しているネジを取り外します。



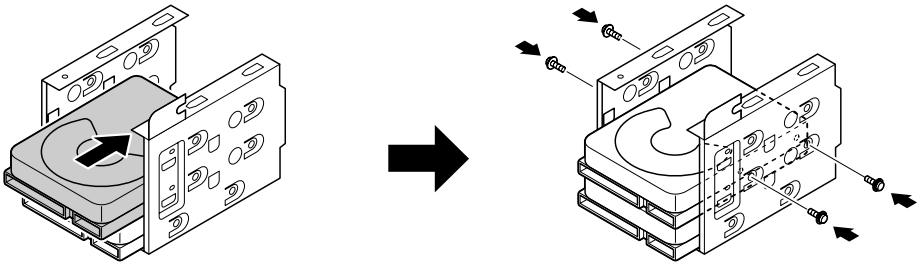
3 内蔵 3.5 型ベイを取り外す

内蔵3.5型ベイを固定している本体前面のネジ2本を取り外し、ベイ全体を本体背面側に引くと、取り外せます。

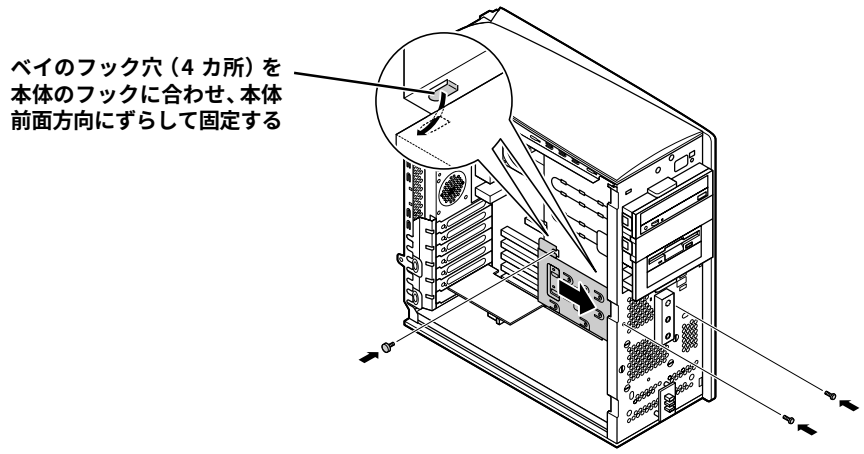


4 内蔵 3.5 型ベイに機器を取り付けて、ネジ 4 本で固定する

ネジは、ハードディスクに添付されているものを使います。ハードディスクがぐらつかないように、しっかりと固定してください。添付されていない場合は、市販のインチネジを使って固定してください。

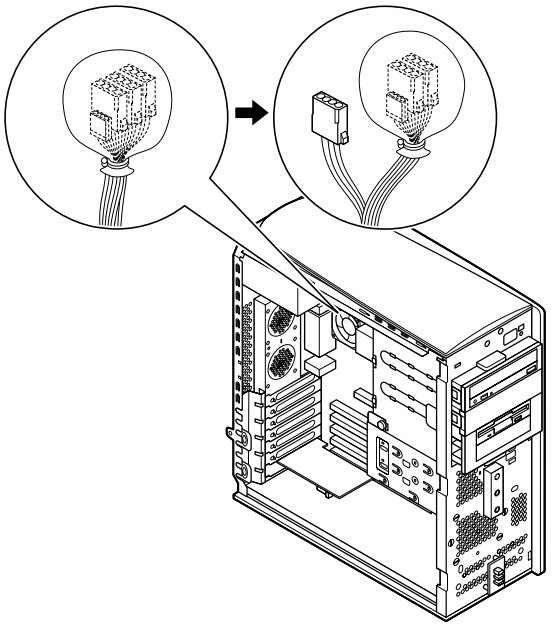


5 手順 3 と逆の手順で内蔵 3.5 型ベイを元通りに取り付けて、手順 2、手順 3 で取り外したネジ 3 本で固定する



6 すべてのケーブルを接続して、正しい手順で本体のカバーを取り付ける

3台目のハードディスクを取り付けたときは、帯電防止ポリ袋に入っている電源ケーブルを取り出して接続し、セカンダリ・スレーブの IDE コネクタを接続します。



参照 ・内蔵 3.5 型ベイに取り付けた機器へのケーブルの接続→この PART の「IDE 機器」(P.42)
・カバーの取り付け方→この PART の「本体の開け方と閉め方」(P.6)

内蔵 3.5 型ベイからハードディスクを取り外す

ハードディスクの取り外しは、取り付けと逆の手順で行ってください。

5型ベイ

このパソコンには、5 型ベイが 2 つあります。標準で取り付けられている CD/DVD ドライブに加え、もう 1 台の 5 型ベイ対応の機器を増設できます。

⚠注意

シールドの取り付け／取り外しの際は、ケガをしないよう、注意してください。

5 型ベイに機器を取り付ける

ここでは、もう 1 台の CD/DVD ドライブを取り付ける方法について説明します。
以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。作業を始める前に、必ずこの PART の「取り付けるときのポイント」(P.2)、「取り外すときのポイント」(P.5)をご覧になり、作業上の注意事項を確認してください。

1 正しい手順で本体のリアカバー、レフトカバー、フロントマスクを取り外す

参照 カバーの外し方→この PART の「本体の開け方と閉め方」(P.6)

2 5 型ベイと 3.5 型ベイに取り付けられている機器のすべてのケーブルを外す

標準で取り付けられている CD/DVD ドライブの電源ケーブルとフラットケーブルとオーディオケーブル、フロッピーディスクドライブの電源ケーブルと FDD ケーブルを取り外します。

参照 ケーブルの外し方→この PART の「3.5 型ベイに機器を取り付ける」(P.34)

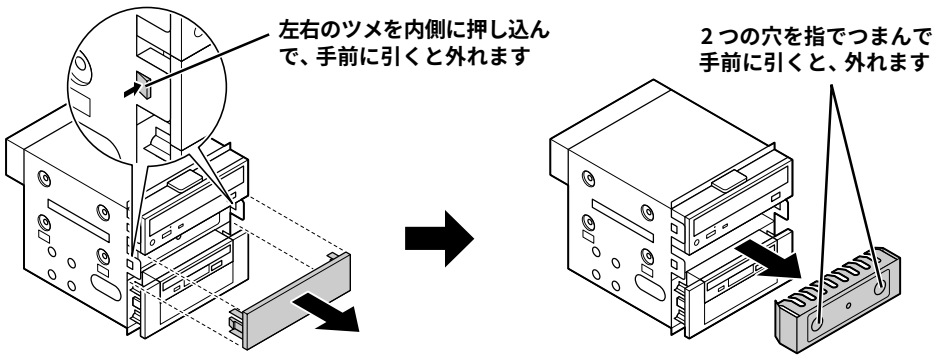
3 本体前面からドライブユニットを取り外す

ユニットを固定しているネジを取り外して、ユニットの上と下にあるツメを押しながら手前に引くと、ユニット全体を取り外せます。

参照 ドライブユニットの取り外し方→この PART の「3.5 型ベイに機器を取り付ける」(P.34)

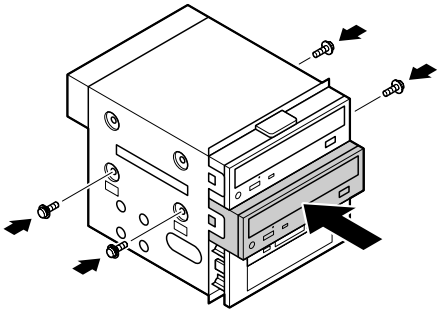
4 5 型ベイのフロントパネルとシールドを取り外す

ユニットの穴に引っかけてある左右のツメを内側に押し込んでから、手前に引くと外れます。
また、空いている 5 型ベイには、金属製のシールドが付いているので、2 つの穴を指でつまんで手前に引くと外れます。



5 5型ベイに機器を取り付ける

ユニットの前面から機器を滑らすように押し込みます。ユニット側面からドライブのネジ穴とユニットのネジ穴が一致していることを確認して、左右2本ずつ、計4本のネジで固定します。



ネジは5型ベイ対応機器に添付のものをお使いください。添付されていない場合は、市販のインチネジまたはミリネジを使って機器を固定してください。

6 ドライブユニットを本体に戻して、手順3で取り外したネジで固定する

ツメが固定されるまで、ユニット全体を静かに押し込みます。

7 すべてのケーブルを接続して、正しい手順で本体のカバーを取り付ける

参照 ・5型ベイに取り付けたCD/DVDドライブへのケーブルの接続→このPARTの「IDE機器」(P.42)
・カバーの取り付け方→このPARTの「本体の開け方と閉め方」(P.6)

5型ベイから機器を取り外す

5型ベイからの機器の取り外しは、取り付けと逆の手順で行ってください。

IDE機器

ハードディスクやCD/DVDドライブのインターフェイスには、外部増設の機器まで含めるとさまざまな規格がありますが、内蔵型の機器で数多く普及しているのは「IDE」規格です。

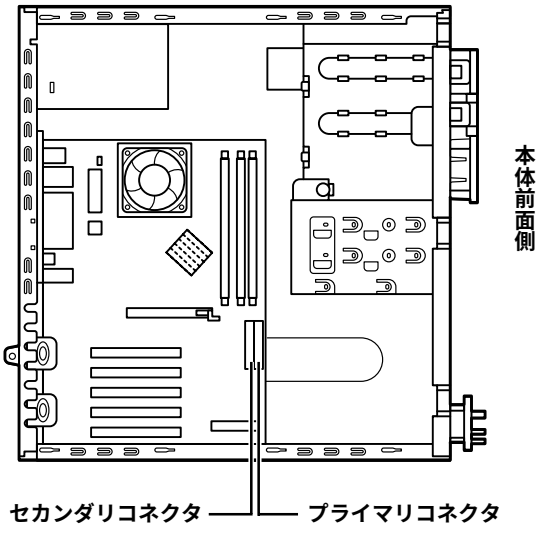
ポイント

- 5型ベイや3.5型ベイ、内蔵3.5型ベイに取り付けたIDE機器は、マザーボードのIDEコネクタに接続します。
- IDEコネクタは2個あり、それぞれに2台ずつ、合計4台のIDE機器を接続できます。このパソコンには、標準で2台（ハードディスクとCD/DVDドライブ）または3台（ハードディスク2台とCD/DVDドライブ）のIDE機器が取り付けられています。
- このパソコンのIDEコネクタは、「Ultra ATA/100」および「Ultra ATA/66」に対応しています。
- より多くのIDE機器を取り付けるには、PCIスロットにIDEボードを取り付けます。
- このパソコンに搭載されている電源ユニットは、最大250W対応のものです。ATX12Vコネクタも搭載しています。

IDE機器を取り付ける前に

◆ IDEコネクタについて

IDEコネクタは、本体内部に2つあります。



本体前面側から、「IDE1」、「IDE2」と番号がついています。「IDE1」は「プライマリコネクタ」、「IDE2」は「セカンダリコネクタ」と呼びます。通常、プライマリコネクタには、Windowsなどの起動ドライブとなるハードディスクを接続します。セカンダリコネクタには、CD/DVDドライブなどの機器を接続します。

◆ IDE ケーブルについて

IDE コネクタと IDE 機器のインターフェイスコネクタは、IDE ケーブルで接続します。

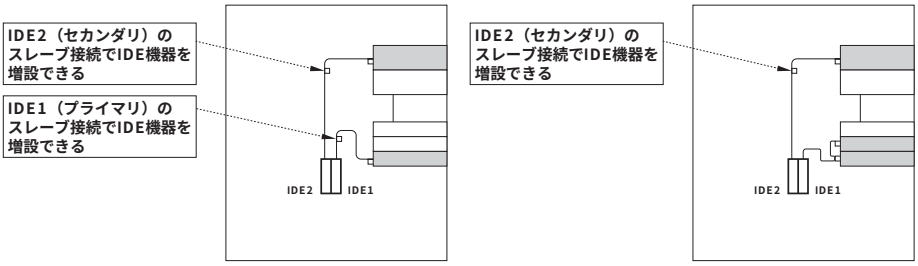
IDE ケーブルのコネクタには、1 カ所だけ突起があります。これは、コネクタの誤接続（上下の逆挿し）を防ぐためのものです。接続先となるIDE コネクタやインターフェイスコネクタには、突起に対応する位置に切り欠きがあり、この切り欠きと突起を合わせて接続します。また、IDE ケーブルの端にある赤い線をインターフェイスコネクタのピン番号「1」とマークされた側に合わせて接続しても、正しく接続できます。

◆ IDE ケーブルと IDE 機器の優先順位について

1 本のIDE ケーブルには、2 台のIDE 機器を接続できます。このとき、それぞれの機器に優先順位を設定する必要があります。優先順位の高い方を「マスター」、低い方を「スレーブ」と呼び、IDE機器のジャンパスイッチで設定します。ジャンパスイッチの位置や設定については、各IDE機器に添付のマニュアルで確認してください。

◆ このパソコンに増設できる IDE 機器の設定

このパソコンでは、標準で 2 台または 3 台の IDE 機器が取り付けられています。



増設できる IDE 機器は、次のようになります。

	標準搭載のIDE機器と設定	増設できるIDE機器と設定
ハードディスクが1台の場合	起動用ハードディスク ： プライマリ・マスター CD/DVDドライブ ： セカンダリ・マスター	ハードディスク(内蔵3.5型ベイ)： プライマリ・スレーブ CD/DVDドライブなど(5型ベイ)： セカンダリ・スレーブ
ハードディスクが2台の場合	起動用ハードディスク ： プライマリ・マスター ハードディスク ： プライマリ・スレーブ CD/DVDドライブ ： セカンダリ・マスター	CD/DVDドライブなど(5型ベイ)： セカンダリ・スレーブ

※増設できる IDE 機器の種類は、一例です。

チェック!!

IDE 機器は、IDE コネクタの「プライマリ」と「セカンダリ」、IDE 機器の「マスター」と「スレーブ」の設定、IDE ケーブルのコネクタの接続位置など、それぞれを正しく設定および接続しなければ、正常に動作しないことがあります。

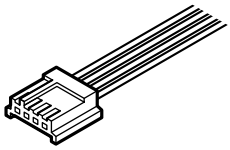
IDE 機器を接続する

ここでは、IDE 機器へのケーブル接続について説明します。

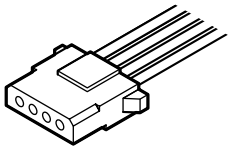
参照 ドライブベイへの機器の取り付けについて→IDE 機器に添付のマニュアル、このPARTの「3.5 型ベイ」(P.34)、「内蔵 3.5 型ベイ」(P.37)、「5 型ベイ」(P.40)

◆ 電源ケーブルについて

本体に内蔵するIDE機器には、本体の電源ユニットから電力が供給されます。電源ユニットには、複数の電源ケーブルが付いています。一般的に大きなコネクタの電源ケーブルは、ハードディスクやCD/DVDドライブに接続します。小さなコネクタの電源ケーブルは、フロッピーディスクドライブに接続します。
コネクタは、誤接続（逆挿し）を防ぐように上下が区別できる形状になっています。



フロッピーディスク
ドライブなど



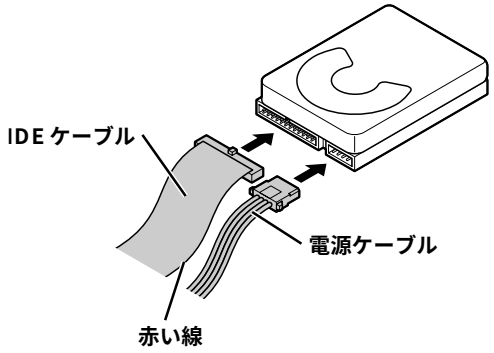
ハードディスクドライブや
CD/DVD ドライブなど

◆ 内蔵ハードディスクを接続する

電源ケーブルを電源コネクタに、IDEケーブルをインターフェイスコネクタに接続します。接続するときには、コネクタの向きに注意してください。

チェック!!

ハードディスクのジャンパスイッチの設定、コネクタの向きなど、詳細はハードディスクのマニュアルで確認してください。

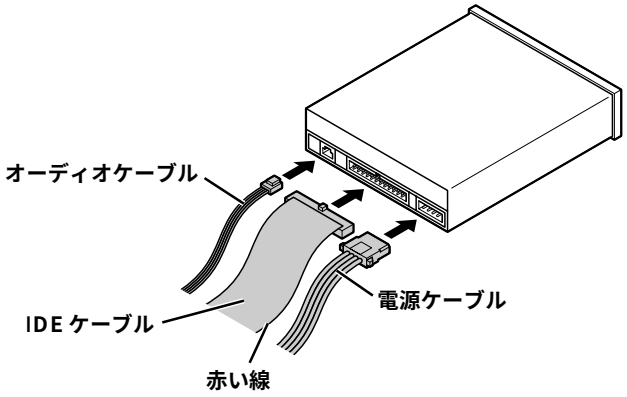


◆ CD/DVD ドライブを接続する

電源ケーブルを電源コネクタに、IDEケーブルをインターフェイスコネクタに接続します。サウンドボードやこのパソコンのサウンド機能を使う場合は、オーディオケーブルも接続します。接続するときには、コネクタの向きに注意してください。

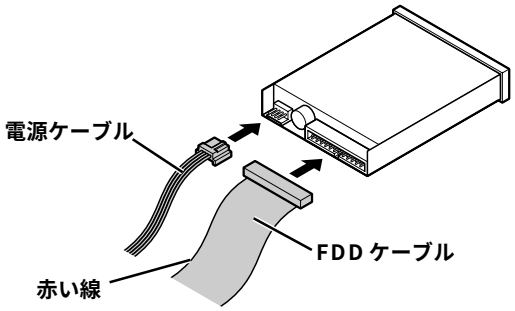
チェック!!

CD/DVD ドライブのジャンパスイッチの設定、コネクタの向きなど、詳細は CD/DVD ドライブのマニュアルで確認してください。



◆ フロッピーディスクドライブを接続する

フロッピーディスクドライブはIDE 機器ではありませんが、5 型ベイと 3.5 型ベイにIDE 機器を増設するときに、ケーブルの取り外しと取り付けが必要となるため、ここで説明します。
電源ケーブルを電源コネクタに、FDD ケーブルをインターフェイスコネクタに接続します。接続するときには、コネクタの向きに注意してください。



PART 2

このパソコンの機能

マウス …… 48
キーボード …… 50
CD/DVD ドライブ …… 54
フロッピーディスクドライブ …… 59
省電力機能 …… 61

マウス

「コントロールパネル」の「マウスのプロパティ」では、ダブルクリックの速さの調整、マウスポインタの形の変更や動きの調整、左ききの方のためのマウスの設定などを行えます。

参照 マウスの設定→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「マウスの設定」

スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、画面を上下左右にスクロールさせたり、画面を拡大縮小させることができます。

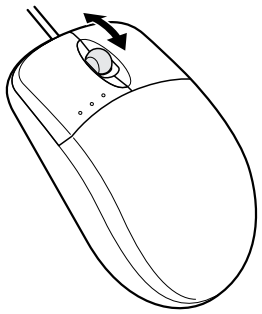
チェック!!
スクロールボタンの機能に対応していないアプリケーションでは、スクロールボタンは使えません。

◆ ウィンドウ内の表示内容を上下方向にスクロールする

1 **アプリケーションの上下スクロールバーがあるウィンドウをクリックしてアクティブにする**

2 **スクロールボタンを前方に押す（または手前に引く）**

前方に押すと表示内容が上にスクロールし、手前に引くと表示内容が下にスクロールします。
スクロールボタンを押しつづけると、表示内容が連続的にスクロールします。

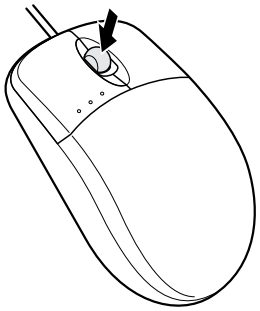


◆ 画面を上下、左右方向にスクロールする

1 スクロールさせたい画面にマウスポインタを移動する

2 スクロールボタンを真下に押す

マウスポインタの形が ⊕ や ⇕ のように変わります。

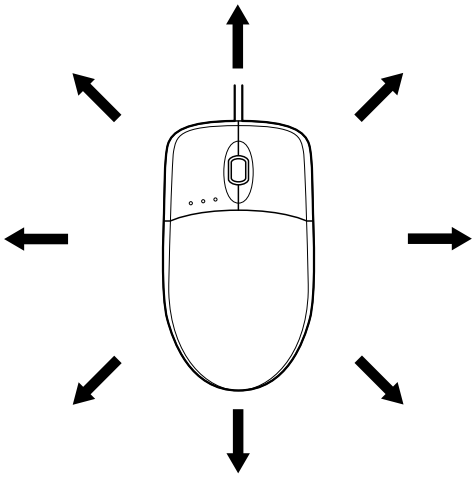


チェック!!

スクロールボタンは、真下に押し込むようにしてください。スクロールボタンを前後に動かすと、通常の上下のスクロールになります。

3 ⊕ や ⇕ が表示されたら、スクロールしたい方向にマウスを動かす

マウスを動かした方向に画面がスクロールしていきます。



もう一度スクロールボタンを押すと、マウスポインタの形が元に戻ります。

チェック!!

アプリケーションによってスクロールできる方向は異なります。

⇕ が表示されているときは上下にだけスクロールできます。

キーボード

参照 キーボードの設定について→「ぱそガイド」または Windows のヘルプ

キーの名称と役割

キーの役割

キーボードのキーは、一般的に次のように 2 種類に分けられます。

・文字を入力するキー

英数字やカタカナ、記号などの文字を入力します。次ページの図で白くなっている部分のキーです。

・コンピュータに指示を与えるためのキー

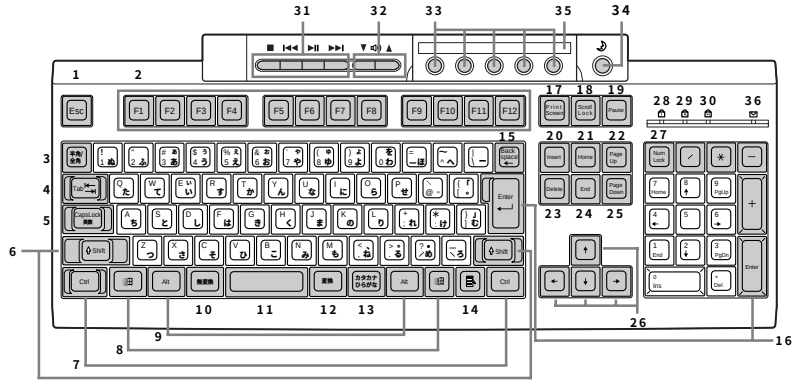
コンピュータに直接指示を与えるためのキーです。次ページの図でグレーの色が付いている部分のキーです。このキーの働きは、お使いになるアプリケーションによって異なります。詳しくは、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

キーボード正面

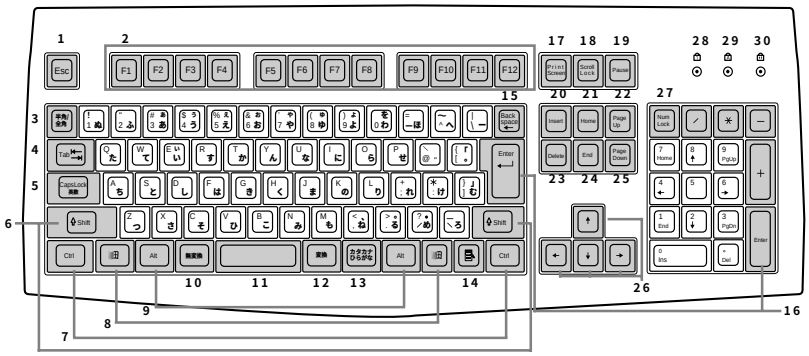
1 【Esc】：エスケープキー
2 【F1】～【F12】：ファンクションキー
3 【半角 / 全角 / 漢字】：半角 / 全角 / 漢字キー
4 【Tab】：タブキー
5 【CapsLock】：キャップスロックキー
6 【Shift】：シフトキー
7 【Ctrl】：コントロールキー
8 【 】：Windows キー
9 【Alt】：オルトキー
10 【無変換】：無変換キー
11 スペースキー
12 【変換】：変換キー
13 【カタカナ / ひらがな / ローマ字】：カタカナ / ひらがな / ローマ字キー
14 【 】：アプリケーションキー
15 【BackSpace】：バックスペースキー
16 【Enter】：エンターキー
17 【PrintScreen/SysRq】：プリントスクリーンキー / システムリクエストキー
18 【ScrollLock】：スクロールロックキー
19 【Pause/Break】：ポーズ/ブレークキー
20 【Insert】：インサートキー
21 【Home】：ホームキー
22 【PageUp】：ページアップキー
23 【Delete】：デリートキー
24 【End】：エンドキー
25 【PageDown】：ページダウンキー
26 【↑】【↓】【←】【→】：カーソルキー
27 【NumLock】：ニューメリックロックキー
28 ニューメリックロックキーランプ
29 キャップスロックキーランプ
30 スクロールロックキーランプ
31 CD/DVD プレーヤボタン
32 ボリュームボタン
33 ワンタッチスタートボタン
34 【スリープ】ボタン
35 ガイドラベル
36 メール着信ランプ

※

※31～36　USBキーボードのみ



USB キーボード



PS/2 キーボード

キーボードの形状は、機種によって異なります

キーボード裏面（USB キーボードの場合）

キーボード裏面には、USB コネクタが 2 つあります。このコネクタには、添付のマウスをはじめとする USB 対応の周辺機器を接続できます。

参照 接続できる機器について→ PART1 の「USB コネクタにプラグを差し込む」(P.10)

キーのロック

【NumLock】と【CapsLock】がロックされているかいないかでキーの機能は異なります。
ロック状態は【NumLock】ではキーを押すたびに、【CapsLock】は【Shift】を押したままキーを押すと切り替わります。
それぞれのキーがロックされているときには、キーボード正面のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【NumLock】	テンキーから数字を入力できます。	テンキーの数字の下に表示されている機能が使えます。
【CapsLock】	アルファベットが表示されているキーを押すと大文字を入力できます。	アルファベットが表示されているキーを押すと小文字を入力できます。

アプリケーションキーと Windows キーについて

アプリケーションキーと Windows キーは、Windows で使用できるキーです。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、標準で次のような機能が割り当てられています。

- **アプリケーションキー（）**

  アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じ状態になります。

- **Windows キー（）**

  Windows キーを押すと、「スタート」メニューが表示されます。

  Windows キーを押しながら次のキーを押すと、次のような機能を利用できます。

【】＋【R】	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示する
【】＋【M】	現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する
【Shift】＋【】＋【M】	【】＋【M】でアイコン化しているウィンドウを元に戻す
【】＋【F1】	Windows のヘルプを起動する
【】＋【F】	ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する
【Ctrl】＋【】＋【F】	コンピュータを検索するウィンドウを表示する
【】＋【Tab】	タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える
【】＋【E】	エクスプローラを起動する

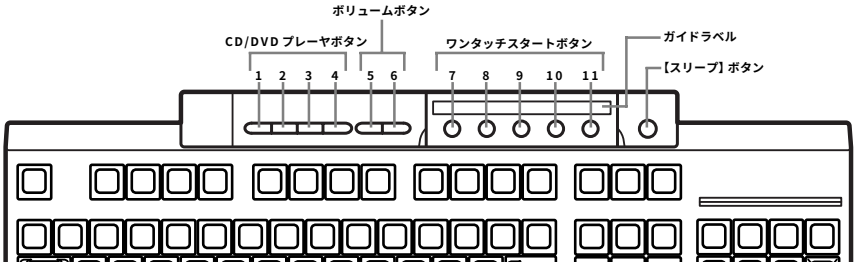
チェック!!

キーボードの詳細な設定については、コントロールパネルの「プリンタとその他のハードウェア」→「キーボード」をクリックし、「キーボードのプロパティ」ウィンドウで行います。また、「日付、時刻、地域と言語のオプション」→「地域と言語のオプション」→「言語」タブの「詳細」ボタンで表示される「テキストサービスと入力言語」ウィンドウでも設定ができます。

参照 キーボードの設定→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「キーボードの設定」

ワンタッチスタートボタンについて（USB キーボードの場合）

ボタンを押すだけでアプリケーションを起動できるボタンを「ワンタッチスタートボタン」といいます。「ワンタッチスタートボタン」はキーボード上部に並んでいます。また、「ワンタッチスタートボタン」の左側には「CD/DVD プレーヤボタン」、「ボリュームボタン」、右側には【スリープ】ボタンがあります。



●CD/DVD プレーヤボタン（USB キーボードの場合）

音楽 CD やカラオケ CD、ビデオ CD、DVD-Video ディスクなどの再生をコントロールできます。
各ボタンの役割は次のとおりです。

1 【■】：停止
2 【⏮】：前のトラック / 巻き戻し
3 【⏯】：再生 / 一時停止
4 【⏭】：次のトラック / 早送り

チェック!!
このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」は削除しないでください。CD/DVD プレーヤボタンの一部の機能が利用できなくなります。

●ボリュームボタン（USB キーボードの場合）

パソコンから出る音楽 CD やビデオ CD などの音の大きさを調節できます。
各ボタンの役割は次のとおりです。

5 【▼】：ボリュームダウン
6 【▲】：ボリュームアップ

●ワンタッチスタートボタン（USB キーボードの場合）

7 【メール】ボタン
このボタンを押すと、「Outlook Express」が起動します。

8 【インターネット】ボタン
このボタンを押すと、インターネットエクスプローラが起動します。

9 【ユーザ 1】ボタン
このボタンを押すと、「ワンタッチスタートボタンの設定」が起動します。好きなアプリケーションを登録できます。

10 【ユーザ 2】ボタン
このボタンを押すと、「ワンタッチスタートボタンの設定」が起動します。好きなアプリケーションを登録できます。

11 【ユーザ 3】ボタン
このボタンを押すと、「ワンタッチスタートボタンの設定」が起動します。好きなアプリケーションを登録できます。

参照 ワンタッチスタートボタンの設定→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「ワンタッチスタートボタンの設定」

●【スリープ】ボタン（USB キーボードの場合）

パソコン本体をスタンバイ状態にします。

チェック!!
Windows のセーフモードなど、Windows のキーボードドライバが動作しない状態では、CD/DVD プレーヤボタン、ボリュームボタン、ワンタッチスタートボタン、【スリープ】ボタンの機能は使えません。

CD/DVDドライブ

CD-Rメディアや DVD-Rメディアは、大容量の記録メディアとして、ハードディスクのバックアップや大きなデータのやりとりに利用できます。また、CD-RWメディアや DVD-RWメディア、DVD-RAMメディアは、何度も書き換えて利用でき、日々更新されるデータの保存にも活用できます。

ドライブとメディアの互換性について

各種CD/DVDドライブと、それぞれのドライブで読み書きできるメディアは、次の表のとおりです。

ドライブ＼メディア	CD-ROM	CD-R	CD-RW	DVD-ROM (DVD-Video)	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM
CD-ROM ドライブ	○	○	○	×	×	×	×
CD-R/RW ドライブ	○	◎	◎	×	×	×	×
CD-R/RW with DVD-ROM ドライブ	○	◎	◎	○	○	○	×
DVD-R/RW ドライブ	○	◎	◎	○	◎	◎	×
DVD-RAM/ R/RWドライブ	○	◎	◎	○	◎	◎	◎(注)

◎ 書き込み・読み込み可
○ 読み込みのみ
× 読み込み不可

（注）：片面2.6GバイトのDVD-RAMおよび、両面5.2GバイトのDVD-RAMは、読み込みのみ可（書き込み、フォーマット不可）。なお、カートリッジから取り外せないタイプのDVD-RAMは利用できません。

チェック!!

コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDでは、再生や音楽CDの作成ができない場合があります。

ディスクの取り扱い上の注意

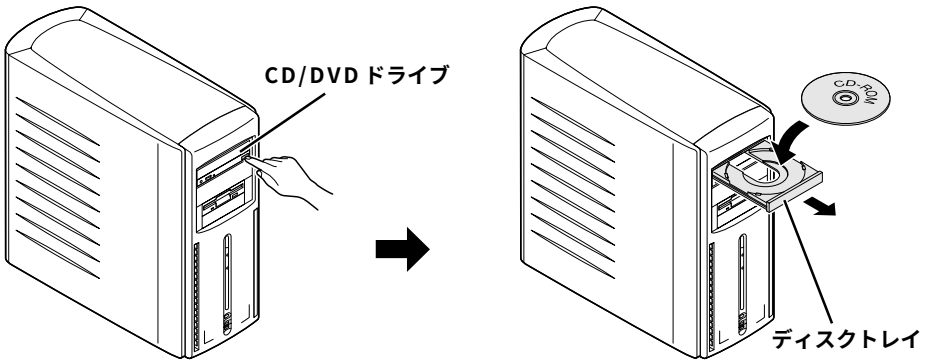
- 信号面（文字などが印刷されていない面）に手を触れないでください。
- 表面にラベルを貼ったり、文字を書いたり、傷を付けたりしないでください。
- 上に重いものを載せたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 汚れたときは、やわらかい布で内側から外側に向けて拭いてください。
- 清掃の際はディスク専用のスプレーをお使いください。
- ベンジン、シンナーなどで拭かないようにしてください。
- ゴミやホコリの多い場所での使用は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や、温度の高い場所に保管しないでください。
- 使用後は、収納ケースに入れてください。

ディスクの入れ方と出し方

◆ ディスクの入れ方

1 ドライブのイジェクトボタンを押し、出てきたディスクトレイにディスクをラベル面（文字などが印刷されている面）を上にして、静かに置く

トレイの円形のくぼみにきちんと収めます。



チェック!!

8cm ディスクの場合は、小さい円形のくぼみに収めます。

2 ディスクトレイを軽く押す

ディスクトレイが収納されて、カバーも閉じます。イジェクトボタンを押して収納することもできます。

◆ ディスクの出し方

チェック!!

CD/ハードディスクアクセスランプが点灯しているときは、CD-ROMなどを取り出さないでください。

1 ドライブのイジェクトボタンを押す

ディスクトレイが出てきます。

2 ディスクトレイからディスクを取り出す

記録面にキズをつけないように注意してください。

3 ディスクトレイを軽く押す

ディスクトレイが収納されます。

ディスクにデータを書き込む

◆ データを書き込むソフトについて

CD-RやCD-RW、DVD-R、DVD-RWにデータを書き込むには、専用アプリケーション（ライティングソフト）「RecordNow DX」を利用します。
「RecordNow DX」には、次のような特長があります。

- いろいろな形式の CD や DVD をガイドに沿って簡単に作成できる
- 作成した CD や DVD を他のパソコンでそのまま読み込むことができる
- 大きなデータをまとめて書き込むのに適している
- デジタルカメラで撮った写真データやデジタルビデオカメラで撮った映像などの受け渡しに適している

参照 「RecordNow DX」の操作について→ 「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「RecordNow DX」

チェック!!

TV モデルには、専用アプリケーション「DVD MovieWriter」、また、DVD-RAM/R/RW モデルには、「DVD-MovieAlbum」がインストールされています。TV モデルで録画したテレビ番組や、デジタルビデオカメラから取り込んだ映像を編集して、DVD-RやDVD-RWに記録したりできます。

参照 ・「DVD-MovieAlbum」の操作について→『TV モデルガイド』（TV モデルのみ）や DVD-MovieAlbum のヘルプ

・「DVD MovieWriter」の操作について→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「DVD MovieWriter」、『TV モデルガイド』（TV モデルのみ）、DVD MovieWriter のヘルプ

◆ データを書き込む際の注意

- データの書き込みには、このパソコンに添付されているアプリケーションをお使いください。
- 書き込みを行う前には必ず、他のアプリケーションを終了し、スクリーンセーバーや常駐プログラムを解除してください。
- データの書き込みを行った後に、データが正しく書き込まれているかどうか確認してください。
- 書き込みに失敗したメディアは再生できなくなります。書き損じによるメディアの補償はできませんので、ご注意ください。
- データを書き込むときは、書き込み中に省電力状態にならないように、省電力の設定を「なし」に設定してください。
- 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のドライブでは使用できない場合がありますので、ご注意ください。

参照 自動的に省電力状態にならないように設定する→この PART の「省電力機能」（P.61）

DVD-RAMにデータを書き込む

DVD-RAM/R/RWドライブでDVD-RAMメディアを利用するときは、カートリッジなしのタイプ、またはメディア取り出し可能なカートリッジ（メディアを取り出して利用）タイプのものをご購入ください。
このパソコンのDVD-RAM/R/RWドライブは、片面2.6Gバイト/両面5.2GバイトのDVD-RAMの書き込みとフォーマットには対応していません。片面2.6Gバイト/両面5.2GバイトのDVD-RAMは、読み込みのみ対応しています。
片面1.4Gバイト/両面2.8Gバイト/片面4.7Gバイト/両面9.4GバイトのDVD-RAMは、読み込み・書き込み・フォーマットに対応しています。

◆ DVD-RAMの特長

DVD-RAM/R/RWドライブでは、DVD-R、DVD-RWに加えて、DVD-RAMへの書き込みも行えます。DVD-RやDVD-RWと異なり、データの書き込みに書き込み専用ソフトは不要で、ハードディスクやフロッピーディスクと同様に、ファイルのコピーや削除ができます。

チェック!!

DVD-RAMを利用するために、次の設定が必要です。

①「マイ コンピュータ」で表示されるDVD-RAM/R/RWドライブのアイコンを右クリック

②表示されたメニューで、「プロパティ」をクリック

③「書き込み」タブにある「このドライブでCD書き込みを有効にする」のチェックをオフに設定

「CDの書き込みを有効にする」がオンになっていると、CDに対する書き込みが優先され、DVD-RAMへの書き込みができなくなります。

◆ DVD-RAMをフォーマットする

フォーマットされていないDVD-RAMにデータを書き込むにはフォーマットが必要です。なお、フォーマットするときには、Norton AntiVirusのAuto-Protectを無効にしてください。

1 DVD-RAM/R/RWドライブに、DVD-RAMメディアをセットする

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「DVD-RAM」→「DVD-RAMドライバー」→「DVDForm」の順にクリックする

次のような画面が表示されます。

3 「フォーマット種別」、「ボリュームラベル」の項目をそれぞれ設定して、「開始」をクリックする

フォーマットがはじまります。

4 フォーマットが終わって、次の画面が表示されたら、「OK」をクリックする

他の CD/DVD ドライブで作成したディスクを読み込むときの注意

◆ CD-R/RW ドライブまたは CD-R/RW with DVD-ROM ドライブ、DVD-R/RW ドライブ、DVD-RAM/R/RW ドライブで作成した CD-R/RW ディスク

書き込みに使用したアプリケーションによっては、他のCD/DVDドライブで読み込めなくなる場合があります。詳しくは、アプリケーションのマニュアルやヘルプで確認してください。
また、CD-R/RWメディアによっては、お使いのCD/DVDドライブでは読み込めない場合があります。マルチリード対応のCD/DVDドライブであれば読み込むことができます。マルチリード対応の CD/DVD ドライブについては、各メーカーにお問い合わせください。

◆ DVD-R/RW ドライブおよび DVD-RAM/R/RW ドライブで作成した DVD-R/RW ディスク

このパソコンの DVD-R/RW ドライブおよび DVD-RAM/R/RW ドライブは、DVD-R for General Ver.2.0 および DVD-RW Ver.1.1 に準拠したディスクの書き込みに対応しています。これらの規格に準拠したDVDプレーヤーなどでも再生できます。また、これらの規格に準拠したDVDレコーダーで録画したDVD-R/RWメディアは、このパソコンのDVD-R/RWドライブおよび DVD-RAM/R/RW ドライブで再生できます。
書き込みに使用したアプリケーションによっては、DVDプレーヤーなどで再生できない場合があります。詳しくは、アプリケーションのマニュアルやヘルプで確認してください。

◆ DVD-RAM/R/RW ドライブで作成した DVD-RAM ディスク

このパソコンの DVD-RAM/R/RW ドライブは、片面 2.6G バイトの DVD-RAM および、両面 5.2GバイトのDVD-RAMの書き込みとフォーマットに対応していません（読み込みのみ対応。片面 1.4G バイト / 両面 2.8G バイト / 片面 4.7G バイト / 両面 9.4G バイトの DVD-RAM の読み込み・書き込み・フォーマットに対応しています）。書き込んだ DVD-RAM は、対応した DVD プレーヤーや DVD-ROM ドライブであれば再生できます。詳しくは、お使いの DVD プレーヤーや DVD-ROM ドライブのマニュアルで確認してください。

チェック!!

- このパソコンのDVD-R/RWドライブでは、DVDビデオフォーマットによる記録・再生が可能です。ビデオレコーディング規格には対応していません。
- 「VR モード」で録画した DVD-R/RW ディスクをこのパソコンで再生するには、対応ソフトウェアを別途購入する必要があります。
- お客様がオリジナルの CD-ROM、音楽 CD、ビデオ CD、DVD-ROM、DVD-Video などの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD等について著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製等の際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製等に関する注意事項にしたがってください。

フロッピーディスクドライブ

このパソコンで使えるフロッピーディスクの種類と、フロッピーディスクのセットのしかたを説明します。

このパソコンで使えるフロッピーディスク

このパソコンでは、フロッピーディスクは、1.44Mバイトでフォーマットされたものを使用できます。フロッピーディスクのフォーマットについては、Windows のヘルプをご覧ください。

チェック!!

720K バイトでフォーマットされたフロッピーディスクは、読み書きすることはできますが、フォーマットすることはできません。

フロッピーディスクの入れ方と出し方

フロッピーディスクを用意して、次の図のように本体のフロッピーディスクドライブに差し込みます。

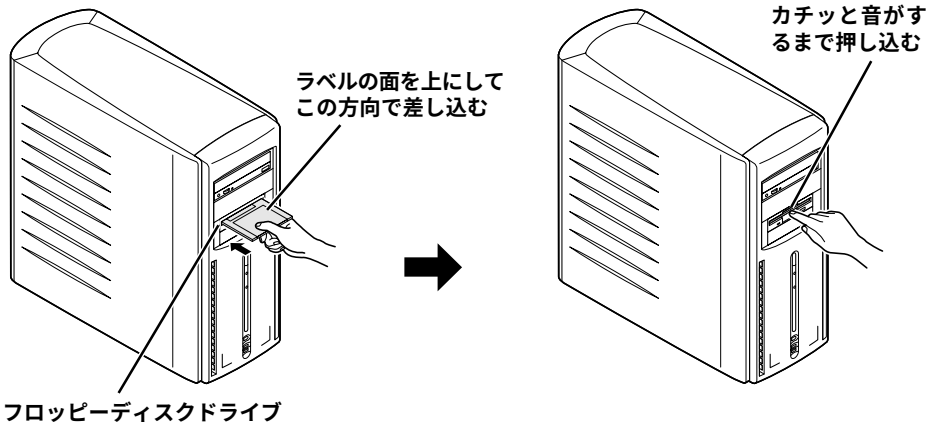
◆ フロッピーディスクを入れる

チェック!!

フロッピーディスクは、パソコンの電源を入れて Windows が起動したあとでセットしてください。

1 フロッピーディスクドライブに、ラベル面を上にしてフロッピーディスクを入れて、カチッと音がするまで押し込む

イジェクトボタンが飛び出した状態になります。



◆ フロッピーディスクを取り出す

チェック!!

フロッピーディスクのランプが点滅しているときは、フロッピーディスクドライブがデータを読み書きをしている最中です。この状態でフロッピーディスクを取り出そうとすると、フロッピーディスクやフロッピーディスクドライブが壊れることがあります。
取り出す前に、フロッピーディスクドライブのランプが消えていることを確認します。

1 フロッピーディスクドライブのランプが消えたら、イジェクトボタンを押し込む

フロッピーディスクが途中まで飛び出します。

2 フロッピーディスクを引き出す

省電力機能

パソコンを使っていないときに消費電力を節約する、省電力機能について説明します。

- Windowsを終了せずにパソコンの電源を切った状態を「休止状態」といいます。作業中のデータは自動的に保存されます。
- パソコンの操作をせずに一定時間が経過したときや、電源スイッチを押したときなどに休止状態になります。休止状態に移行する条件の設定は、変更できます。
- Windowsは起動したままで、ディスプレイやハードディスクの電源が切れている状態を「スタンバイ状態」といいます。
- パソコンを操作せずに一定時間が経過したときや、USB キーボードの【スリープ】ボタンを押したときなどにスタンバイ状態になります。スタンバイ状態に移行する条件の設定は、変更できます。

省電力機能について

作業を中断したいことがあるたびにパソコンの電源を切ると、電源を切る前にデータを保存したり、次に電源を入れたときに Windows が起動するのに時間がかかるなど、手間が多いものです。このパソコンには、こうした手間をかけずに消費電力を抑え、すぐに作業を再開できる「省電力機能」があります。

◆ 電源の状態

パソコンの電源の状態には、次の 4 種類があります。

- **電源が入っている状態**

  パソコンの電源を入れて、Windows が起動している状態です。

- **電源が切れている状態**

  Windows を終了して、パソコンの電源を切った状態です。

- **休止状態**

  作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずにパソコンの電源を切ります。消費電力は、Windowsを終了してパソコンの電源を切ったときとほとんど同じです。普通に電源を切るのとは異なり、Windowsを終了せずに電源を切るため、休止状態から元の状態に戻すときにWindowsが起動する時間は省かれます。ただし、スタンバイ状態から元の状態に戻すよりも時間がかかります。

- **スタンバイ状態**

  ディスプレイの表示を消し、ハードディスクの電源を切りますが、パソコンの電源は完全に切れているわけではありません。作業中のデータをメモリに保存しているためわずかに電力を消費しますが、すぐに作業を再開できます。
  購入時には、マウスやキーボードを操作しなかったり、ハードディスクなどへのアクセスがない状態が 20 分以上続くと、自動的に「スタンバイ状態」になるように設定されています。

このような、休止状態にする機能やスタンバイ状態にする機能などを「省電力機能」といいます。

チェック!!

アプリケーションによっては、休止状態のことを「ハイバネーション」、スタンバイ状態のことを「サスペンド」、休止状態やスタンバイから復帰させることを「レジューム」と呼ぶこともあります。

◆ 電源ランプ、ディスプレイの表示

パソコン本体の電源の状態によって、電源ランプ、ディスプレイの表示は次のように変化します（ディスプレイの電源は入っている状態）。

パソコン本体の電源の状態	パソコン本体の電源ランプ	ディスプレイの電源ランプ	ディスプレイの表示
入っている	緑色に点灯する	緑色に点灯する※	表示される
切れている	消灯する	オレンジ色に点灯する※	何も表示されない
休止状態	消灯する	オレンジ色に点灯する※	何も表示されない
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯する	オレンジ色に点灯する※	何も表示されない

※ディスプレイにより、異なることがあります。

省電力機能を使う

◆ 休止状態やスタンバイ状態にできないとき

次のようなときには、休止状態やスタンバイ状態にできなかったり、休止状態やスタンバイ状態から復帰するときに作業前の内容を復元できなかったり、パソコンが正しく動作しなかったりします。このようなときは休止状態やスタンバイ状態にしないでください。また、自動的に休止状態やスタンバイ状態になる設定も行わないでください。

チェック!!

このパソコンは、ご購入時には、マウスやキーボードからの入力やハードディスクへのアクセスがない状態が20分以上続くと、自動的にスタンバイ状態になるように設定されています。自動的にスタンバイ状態にならないようにするには、この項の「省電力の設定を変える」をご覧ください。

- SCSIを使って周辺機器を接続しているとき
- プリンタが出力しているとき
- 音声や動画を再生しているとき
- フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROMなどを読み書きしているとき
- 休止状態またはスタンバイ状態に対応していないアプリケーションや周辺機器を使っているとき
- 「デバイスマネージャ」でドライバなどの設定をしているとき
- 「プリンタの追加ウィザード」や「ハードウェアの追加ウィザード」を実行しているとき
- モデムを使ってインターネットに接続しているとき
- LANを使ってネットワークにアクセスしているとき

また、休止状態やスタンバイ状態にする前の内容の記憶中または復元中には、フロッピーディスク、CD-ROMなどを入れ替えないでください。

◆ 省電力状態への移行と復帰

	移行する	復帰する
休止状態	省電力の設定を変更すると、電源スイッチでも休止状態にできます。 詳しくは、Windowsの「ヘルプとサポート」をご覧ください。	・パソコン本体の電源スイッチを押す ・FAX モデムによるリング機能を使う パソコンに電話がかかってきたときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。 チェック!! ・電源スイッチを押しても元の状態に戻らないときは、ディスプレイが省電力状態になっていることがあります。その場合は、マウスを軽く動かしてください。 ・電源スイッチを4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。
スタンバイ状態	・キーボードの【スリープ】ボタンを押す（USB キーボードのみ） ・「コンピュータの電源を切る」ウィンドウで「スタンバイ」を選ぶ 1「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックする 2「スタンバイ」をクリックする	・パソコン本体の電源スイッチを押す ・FAX モデムによるリング機能を使う パソコンに電話がかかってきたときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。 チェック!! ・電源スイッチを押しても元の状態に戻らないときは、ディスプレイが省電力状態になっていることがあります。その場合は、マウスを軽く動かしてください。 ・電源スイッチを4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。
一定時間後、自動的にスタンバイ状態	このパソコンは、ご購入時には、マウスやキーボードからの入力やハードディスクへのアクセスがない状態が20分以上続くと、自動的にスタンバイ状態になるように設定されています。	・パソコン本体の電源スイッチを押す ・FAX モデムによるリング機能を使う パソコンに電話がかかってきたときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。 チェック!! ・電源スイッチを押しても元の状態に戻らないときは、ディスプレイが省電力状態になっていることがあります。その場合は、マウスを軽く動かしてください。 ・電源スイッチを4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

◆ 省電力機能を使うときの注意

通信ソフトやモデムなどを使ってインターネットに接続しているときに省電力機能が有効になると、次のような現象が起きることもあります。

・休止状態にすると、強制的に通信が切断されることがあります。休止状態にする前に必ず通信を終了させてください。

・通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。スタンバイ状態にする前に必ず通信を終了させてください。

・CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDが再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。

・スタンバイ状態のときでも、使用環境、温度などによっては、ファンは回りつづけることがあります。

◆ 休止状態またはスタンバイ状態になっているときの注意

・パソコン本体へ周辺機器を取り付けたり、パソコン本体から周辺機器を取り外したりしないでください。

・スタンバイ状態になっているときに次のことが起こると、電源が切れた状態になるため、スタンバイ状態にする前の内容は失われます。

- 電源ケーブルが本体やACコンセントから外れた
- 停電が起きた
- 電源スイッチを4秒以上押し続けて、強制的に電源を切った

このような場合は、次に電源を入れたときに、「Windowsが正しく終了されませんでした…」と表示されますので、画面の指示にしたがってください。

◆ 省電力状態からの復帰がうまくいかなかったときは

次のような場合には、省電力状態からの復帰が正しく実行されなかったことを示しています。

・復帰直後にアプリケーションが正常に動作しない

・省電力状態にする前の内容を復元できない

・パソコン本体の電源スイッチを押しても復帰しない

◆ 休止状態からの復帰がうまくいかなかったときには

PART4の「省電力機能」（P.94）をご覧ください。

◆ スタンバイ状態からの復帰がうまくいかなかったとき

電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、再度電源を入れてください。この場合、BIOSセットアップユーティリティの内容が、ご購入時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は再設定してください。また、コマンドプロンプトがアクティブのときにスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態から復帰させても画面が復帰しないことがあります。この場合は【Alt】キーを押しながら【Tab】キーを押してタスクを切り替えることで正常に動作します。

省電力の設定を変える

省電力の設定は「コントロールパネル」の「パフォーマンスとメンテナンス」の「電源オプション」で行います。

◆ 自動的に休止状態やスタンバイ状態にならないように設定する

アプリケーションや周辺機器によっては、休止状態やスタンバイ状態に対応していないものもあります。このようなアプリケーションや周辺機器を利用するときは、自動的に休止状態やスタンバイ状態にならないように設定を変更する必要があります。また、休止状態やスタンバイ状態になるまでの時間を変更することもできます。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックする

2 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックする

3 「電源オプション」をクリックする

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 「電源設定」タブをクリックする

休止状態にならないようにするには「システム休止状態」で「なし」を選択します。スタンバイ状態にならないようにするには「システムスタンバイ」で「なし」を選択します。

チェック!!

休止機能を使いたくない場合は、「休止状態」タブで「休止状態を有効にする」の☑を☐にしてください。

5 「OK」をクリックする

◆ その他の設定を変更する

「電源オプション」では、次の設定も変更できます。

- **省電力の設定ファイルの変更**

  省電力の設定にファイル名をつけて保存できます。また、保存したファイルの設定を変更できます。

- **電源スイッチの役割**

  本体の電源スイッチを押したときの動作の設定をします。

- **パスワードの設定**

  スタンバイ状態からの復帰時にパスワードの入力が必要ないように設定できます。

参照 「電源オプション」での設定→Windowsの「ヘルプとサポート」、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「50音別目次」-「省電力機能の設定」

PART 3

パソコンの設定を変更する

BIOS セットアップユーティリティ …… 68
ストラップスイッチの設定 …… 82

BIOSセットアップユーティリティ

周辺機器を増設した後や、パソコンの内部設定を変更するときなどは、BIOS セットアップユーティリティを使います。

こんなときに BIOS セットアップユーティリティを使います

◆ ハードディスクなどの IDE 機器を増設した後に

一般にIDE機器は、増設後にパソコンを再起動すると、自動的に認識されます。増設したIDE機器の名称は、次の手順で確認できます。

1 トップメニューの「Standard CMOS Features」を選んで【Enter】キーを押す

「Standard CMOS Features」の設定画面が表示されます。

2 IDE機器の一覧から、増設したハードディスクやCD/DVDドライブの機器名を確認する

もし機器名が正しく表示されていないときは、各 IDE 機器を正しく設定します。

参照 BIOSセットアップユーティリティの設定内容の詳細→このPARTの「BIOSセットアップユーティリティの設定項目」(P.72)

◆ サウンドボードを増設した後に

サウンドボードを増設した後、パソコンの内蔵サウンド機能を無効にしないと正しく動作しません。次の手順で内蔵のサウンド機能を無効にします。

1 トップメニューの「Integrated Peripherals」を選んで【Enter】キーを押す

「Integrated Peripherals」の設定画面が表示されます。

2 「MCP OnChip PCI Device」を選んで【Enter】キーを押す

「MCP OnChip PCI Device」の設定画面が表示されます。

3 「MCP AC97 Audio」を選んで【Enter】キーを押す

設定値の一覧が表示されます。

4 「Disabled」を選んで【Enter】キーを押す

一覧が消えて値が変更されます。

5 続けて「MCP SPDIF Out」選んで【Enter】キーを押す

設定値の一覧が表示されます。

6 「Disabled」を選んで【Enter】キーを押す

一覧が消えて値が変更されます。

7 設定を保存して BIOS セットアップユーティリティを終了する

◆ AGPボードを増設した後に

AGPボードを増設するとパソコンの内蔵グラフィック機能は自動的に無効になるため、BIOSセットアップユーティリティで設定を変更することなく、AGPボードが使えるようになります。AGPボードの動作に関する詳細な設定を行いたいときだけ、BIOSセットアップユーティリティを実行してください。

参照 BIOSセットアップユーティリティの設定内容の詳細→このPARTの「BIOSセットアップユーティリティの設定項目」(P.72)

◆ 割り込みレベルを解放するには

複数のPCIボードを利用するなど、多くの周辺機器を増設すると、割り込みレベルの競合や不足が発生して、各機器が正しく動作しないこともあります。パソコンのシリアルコネクタやパラレルコネクタに何も機器を接続していなければ、これらのコネクタ（ポート）を無効にして、使っている割り込みレベルを解放できます。

シリアルポートの割り込みレベルの解放

1 トップメニューの「Integrated Peripherals」を選んで【Enter】キーを押す
「Integrated Peripherals」の設定画面が表示されます。

2 「Onboard SuperIO Device」を選んで【Enter】キーを押す
「Onboard SuperIO Device」の設定画面が表示されます。

3 「Onboard Serial Port」を選んで【Enter】キーを押す
設定値の一覧が表示されます。

4 「Disabled」を選んで【Enter】キーを押す
一覧が消えて値が変更されます。

5 設定を保存してBIOSセットアップユーティリティを終了する

パラレルポートの割り込みレベルの解放

1 トップメニューの「Integrated Peripherals」を選んで【Enter】キーを押す
「Integrated Peripherals」の設定画面が表示されます。

2 「Onboard SuperIO Device」を選んで【Enter】キーを押す
「Onboard SuperIO Device」の設定画面が表示されます。

3 「Onboard Parallel Port」を選んで【Enter】キーを押す
設定値の一覧が表示されます。

4 「Disabled」を選んで【Enter】キーを押す
一覧が消えて値が変更されます。

5 設定を保存してBIOSセットアップユーティリティを終了する

設定をデフォルトに戻す

1 トップメニューから「Load Optimized Defaults」を選択し、【Enter】キーを押す

「Load Optimized Defaults (Y/N)?」と表示されます。

メモ　この他、【F9】キーを押しても上記メッセージが表示されます。

2 【Y】キーを押し、【Enter】キーを押す

すべての選択項目をデフォルト値（初期値）に戻します。

メモ　【N】キーを押し、【Enter】キーを押すと、元の画面に戻ります。

BIOS セットアップユーティリティの使い方

◆ BIOS セットアップユーティリティを起動する

1 パソコンの電源が入っていない状態で、電源スイッチを押す

チェック!!

パソコンの電源が入っている場合には、パソコンを再起動します。

2 パソコンを起動して、「NEC ロゴ」の画面で、「Press〈F2〉 to Enter Setup, 〈F12〉 to Network Boot.」と表示されたら、【F2】キーを押す

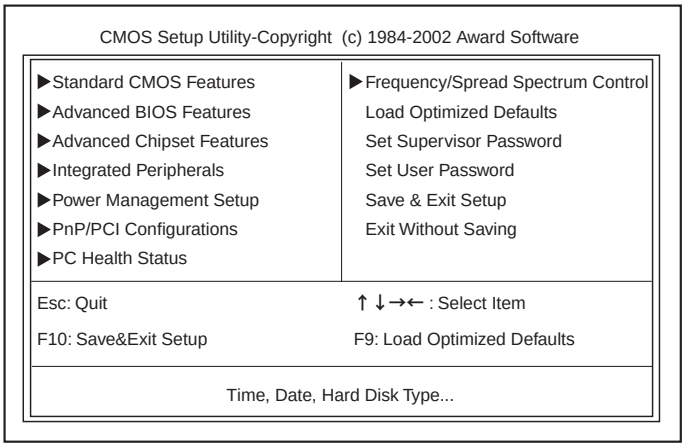
BIOS セットアップユーティリティが起動します。

チェック!!

- 【F2】キーを押すタイミングを逃してWindowsが起動したときは、Windowsを終了して電源を切り、もう一度手順 1 からやり直してください。
- ディスプレイによっては、「NEC」のロゴ画面が表示されないことがあります。【F2】キーを押せなかったときは、本体の電源を入れた直後に【F2】キーを何度か押してください。

◆ BIOS セットアップユーティリティの基本操作

BIOS セットアップユーティリティを起動すると、トップメニューが表示されます。



基本操作

1 トップメニューから設定したい項目を【↑】、【↓】、【←】、【→】キーで選択し、【Enter】キーを押す

選択した項目の設定画面が表示されます。サブメニューがある項目は、サブメニューが表示されます。

2 各設定画面から、BIOS の設定項目を設定する

【Esc】キーを押すと、元の画面に戻ります。トップメニューで【Esc】キーを押すと、「Quit Without Saving (Y/N)?」と表示されます。

◆ BIOS セットアップユーティリティを終了する

変更した設定を保存して終了する場合

1 トップメニューから「Save & Exit Setup」を選択し、【Enter】キーを押す

「Save to CMOS and EXIT (Y/N)?」と表示されます。

メモ　この他、【F10】キーを押しても上記メッセージが表示されます。

2 【Y】キーを押し、【Enter】キーを押す

変更した設定を保存して BIOS セットアップユーティリティが終了します。

メモ　【N】キーを押し、【Enter】キーを押すと、元の画面に戻ります。

変更した設定を保存しないで終了する場合

1 トップメニューから「Exit Without Saving」を選択し、【Enter】キーを押す

「Quit Without Saving (Y/N)?」と表示されます。

メモ　この他、【Esc】キーを押しても上記メッセージが表示されます。

2 【Y】キーを押し、【Enter】キーを押す

変更した設定を保存しないで BIOS セットアップユーティリティが終了します。

メモ　【N】キーを押し、【Enter】キーを押すと、元の画面に戻ります。

BIOS セットアップユーティリティの設定項目

◆ トップメニュー

項　目	説　明
Standard CMOS Features	日時の設定や、ハードディスクのようなIDE機器の設定など、BIOSの基本的な項目を設定します。
Advanced BIOS Features	BIOS固有の機能の詳細について設定します。
Advanced Chipset Features	チップセットの機能の詳細について設定します。
Integrated Peripherals	周辺機器の機能について設定します。
Power Management Setup	システムの省電力機能について設定します。
PnP/PCI Configurations	Plug & PlayおよびPCIバスに取り付けられたボードについて設定します。
PC Health Status	CPU警告温度の設定や、CPUをシャットダウンする温度の設定など、パソコンの動作条件について設定します。
Frequency/Spread Spectrum Control	CPUの実動作クロックの表示や、メモリの動作周波数などを設定します。
Load Optimized Defaults	すべての選択項目をデフォルト値（初期値）に戻します。
Set Supervisor Password	スーパバイザパスワードの設定をします。
Set User Password	ユーザパスワードの設定をします。 ユーザパスワードは、スーパバイザパスワードを設定しないと設定できません。
Save & Exit Setup	変更した設定を保存してから終了します。 【F10】キーを押す終了方法と同じです。
Exit Without Saving	変更した設定を保存せずに終了します。 【Esc】キーを押す終了方法と同じです。

◆ Standard CMOS Features

設定項目		選択項目	説　明
Date（mm:dd:yy)		Weekday, mm/dd/yyyy	日付を「月/日/年」で入力して設定します。年は4桁で指定します。 なお、Windows上で日時を設定すると、この項目も変更されます。
Time(hh:mm:ss)		hh:mm:ss	現在の時刻を24時間形式の「時/分/秒」で入力して設定します。
IDE Primary Master			現在Primary Masterに接続されているIDE機器が表示されます。 この項目にカーソルを合わせ【Enter】キーを押すと、サブメニューの設定画面が表示されます。 サブメニューでは、【Esc】キーを押すと、元の画面に戻ります。
	IDE HDD Auto-Detection		自動的にシリンダ、ヘッド、セクタ等を設定します。
	IDE Primary Master	None / Auto / Manual	Primary Masterに接続されているIDE機器を設定します。
	Access Mode	CHS / LBA / Large / Auto	アクセスモードを設定します。
	Capacity	(Auto Detect)	ハードディスクの容量(Mバイト)を表示します。
	Cylinder	0 - 65535（Auto Detect)	ハードディスクのシリンダ数を表示します。
	Head	0 - 255（Auto Detect)	ハードディスクのヘッド数を表示します。
	Precomp	0 - 65535（Auto Detect)	ハードディスクの書き込み補修シリンダ番号を表示します。
	Landing Zone	0 - 65535（Auto Detect)	ハードディスクのヘッド退避シリンダ位置を表示します。
	Sector	0 - 255（Auto Detect)	ハードディスクのセクタ数を表示します。
IDE Primary Slave			現在Primary Slaveに接続されているIDE機器が表示されます。 「Primary Master」の設定と同様です。
	IDE HDD Auto-Detection		
	IDE Primary Slave	None / Auto / Manual	
	Access Mode	CHS / LBA / Large / Auto	
	Capacity	(Auto Detect)	
	Cylinder	0 - 65535（Auto Detect)	
	Head	0 - 255（Auto Detect)	
	Precomp	0 - 65535（Auto Detect)	
	Landing Zone	0 - 65535（Auto Detect)	
	Sector	0 - 255（Auto Detect)	
IDE Secondary Master			現在Secondary Masterに接続されているIDE機器が表示されます。「Primary Master」の設定と同様です。
	IDE HDD Auto-Detection		
	IDE Secondary Master	None / Auto / Manual	
	Access Mode	CHS / LBA / Large / Auto	
	Capacity	(Auto Detect)	
	Cylinder	0 - 65535（Auto Detect)	
	Head	0 - 255（Auto Detect)	
	Precomp	0 - 65535（Auto Detect)	
	Landing Zone	0 - 65535（Auto Detect)	
	Sector	0 - 255（Auto Detect)	
IDE Secondary Slave			現在Secondary Slaveに接続されているIDE機器が表示されます。 「Primary Master」の設定と同様です。
	IDE HDD Auto-Detection		
	IDE Secondary Slave	None / Auto / Manual	
	Access Mode	CHS / LBA / Large / Auto	
	Capacity	(Auto Detect)	
	Cylinder	0 - 65535（Auto Detect)	
	Head	0 - 255（Auto Detect)	
	Precomp	0 - 65535（Auto Detect)	
	Landing Zone	0 - 65535（Auto Detect)	
	Sector	0 - 255（Auto Detect)	
Drive A		None / 360K,5.25in. / 1.2M,5.25in. / 720K,3.5in. / 1.44M,3.5in. / 2.88M,3.5in.	フロッピーディスクドライブAのモードを設定します。 ケーブルの一部がねじれている側のコネクタを接続しているフロッピーディスクドライブがドライブAとして認識されます。 このパソコンでは「1.44M, 3.5in.」のままで変更しないでください。

設定項目	選択項目	説　明
Drive B	None / 360K,5.25in. / 1.2M,5.25in. / 720K,3.5in. / 1.44M,3.5in. / 2.88M,3.5in.	フロッピーディスクドライブBのモードを設定します。 ケーブルの途中にあるコネクタを接続しているフロッピーディスクドライブがドライブBとして認識されます。 このパソコンは出荷時にはドライブBはありません。 通常は「None」のままで問題ありませんが、フロッピーディスクドライブを追加したときに変更します。
Halt On	All Errors / No Errors / All, But Keyboard / All, But Diskette / All, But Disk/Key	起動時にエラーが発生した場合、システムを停止するかどうかを設定します。 ・All Errors:すべてのエラーでシステムは停止します。 ・No Errors:エラーが発生してもシステムは停止しません。 ・All, But Keyboard:キーボードエラーを除くすべてのエラーでシステムは停止します。 ・All, But Diskette:ディスクエラーを除くすべてのエラーでシステムは停止します。 ・All, But Disk/Key:ディスクエラーおよびキーボードエラーを除くすべてのエラーでシステムは停止します。
CPU Type	(Auto Detect)	搭載されているCPUを表示します。
BIOS Revision	(Auto Detect)	BIOSのリビジョンを表示します。
Video Memory	(Auto Detect)	ビデオアダプタに使用されるメモリ容量を表示します。
System Memory	(Auto Detect)	搭載されている拡張メモリ容量を表示します。
Total Memory	(Auto Detect)	搭載されているメモリ総容量を表示します。

◆ Advanced BIOS Features

設定項目	選択項目	説　明
Quick Boot	Disabled / Enabled	システム起動時のクイックブートの使用を設定します。「Enabled」の場合、一部のテストをスキップして起動時間を短縮します。 通常は「Enabled」のままで問題ありません。
Full Screen LOGO Show	Disabled / Enabled	「Disabled」に設定すると起動時にシステム設定状況を表示します。 「Enabled」に設定すると起動時にNECロゴ画面を表示します。
CPU Internal Cache	Disabled / Enabled	内部キャッシュ（L1）の有効/無効を設定します。
External Cache	Disabled / Enabled	外部キャッシュ（L2）の有効/無効を設定します。
First Boot Device	Floppy / LS120 / HDD-0 / SCSI / CDROM / HDD-1 / HDD-2 / HDD-3 / ZIP100 / LAN / Disabled	起動する機器の優先順位を設定します。 First→Second→Thirdの順番で起動する機器の対象とします。
Second Boot Device	Floppy / LS120 / HDD-0 / SCSI / CDROM / HDD-1 / HDD-2 / HDD-3 / ZIP100 / LAN / Disabled	
Third Boot Device	Floppy / LS120 / HDD-0 / SCSI / CDROM / HDD-1 / HDD-2 / HDD-3 / ZIP100 / LAN / Disabled	
Boot Other Device	Disabled / Enabled	「Enabled」に設定すると、「First/Second/Third Boot Device」で指定した機器から起動できない場合に、他の機器から起動します。
HDD S.M.A.R.T.	Disabled / Enabled	ハードディスクのS.M.A.R.T.(Self-Monitoring, Analysis, And Reporting Technology)機能を設定します。「Enabled」と指定した場合、ハードディスクの状態を監視することにより、異常を検知できます。S.M.A.R.T.機能を使用するには、対応するハードディスクが必要です。
Swap Floppy Drive	Disabled / Enabled	2台のフロッピーディスクドライブを装着している場合、フロッピーディスクドライブのスワップ機能を設定します。「Enabled」の場合、ドライブのAとBの割り当てが交換されます。
Boot Up Floppy Seek	Disabled / Enabled	システム起動時のフロッピーディスクドライブAのシークを設定します。
Boot Up NumLock LED	Off / On	システム起動時にNum Lockをオンにするかどうかを設定します。
Typematic Rate Setting	Disabled / Enabled	キーボードの「Typematic Rate」と「Typematic Delay」の有効/無効を設定します。
Typematic Rate (Chars/Sec)	6 / 8 / 10 / 12 / 15 / 20 / 24 / 30	キーボードのキーを押し続けた場合に、1秒間に入力される文字数を設定します。 数字が大きければ、高速になります。単位は文字数です。
Typematic Delay (Msec)	250 / 500 / 750 / 1000	キーボードのキーを押し続けた場合に、何秒後にリピート入力が実行されるかを設定します。単位はミリ秒です。
Security Option	Setup / System	パスワード機能を設定している場合、どのタイミングでパスワード入力を要求させるかを指定します。 ・Setup:BIOSセットアップユーティリティ起動時に要求します。 ・System:システム起動時とBIOSセットアップユーティリティ起動時に要求します。
APIC Mode	Disabled / Enabled	APIC機能の有効/無効を設定します。本項目の設定は変更しないでください。
Video BIOS Shadow	Disabled / Enabled	ビデオBIOSをメインメモリにコピーして使用するかどうかを設定します。

設定項目	選択項目	説　明
C8000-CBFFF Shadow	Disabled / Enabled	指定されたアドレスをメインメモリにコピーして使用するかどうかを設定します。
CC000-CFFFF Shadow	Disabled / Enabled	
D0000-D3FFF Shadow	Disabled / Enabled	
D4000-D7FFF Shadow	Disabled / Enabled	
D8000-DBFFF Shadow	Disabled / Enabled	
DC000-DFFFF Shadow	Disabled / Enabled	
DMI Event Log	Disabled / Enabled	「Enabled」に設定すると、DMIイベントログを記録します。
Clear All DMI Event Log	No / Yes	「Yes」に設定すると、再起動後すべてのDMIイベントログをクリアします。
View DMI Event Log		【Enter】キーを押すと、DMIイベントログを表示します。
Mark DMI Events as Read	No / Yes	【Enter】キーを押すと、"Mark DMI Event Log(Y/N)?"と表示され、「Y」を選択すると表示されているログは既読状態となります。

◆ Advanced Chipset Features

設定項目	選択項目	説　明
System BIOS Cacheable	Disabled / Enabled	システムBIOS ROMをキャッシュメモリにコピーして使用するかどうかを設定します。
Video RAM Cacheable	Disabled / Enabled	ビデオRAMをキャッシュメモリにコピーして使用するかどうかを設定します。
DDRAM Auto Precharge(W/R)	Disabled / Enabled	メモリの自動プリチャージを設定します。
CAS Latency Override	2Clocks / 2.5Clocks / 3Clocks / Auto	本項目の設定は変更しないでください。
AGP Aperture Size (MB)	32MB / 64MB / 128MB / 256MB / 512MB	AGPボードがメインメモリ上に設定する3D用メモリのサイズ（アパーチャサイズ）を設定します。
Monochrome Access	AGP / PCI	モノクロディスプレイアダプタアクセスを、AGPかPCIのどちらに送信するか設定します。
AGP BUS Driving Control	Auto / Manual	AGPの設定を行います。本項目の設定は変更しないでください。
AGP BUS Driving Value	Weakest / Medium / Strongest	AGPの設定を行います。本項目の設定は変更しないでください。
Frame Buffer Size	8M / 16M / 32M	ビデオアダプタで使用するメインメモリサイズを設定します。本設定はStandard CMOS FeatuesのVideo Memoryに表示されます。

◆ Integrated Peripherals

設定項目		選択項目	説　明
MCP OnChip IDE Device			この項目にカーソルを合わせ【Enter】キーを押すとサブメニューの設定画面になります。 サブメニューでは、【Esc】キーを押すと元の画面に戻ります。
	OnChip IDE Channel0	Disabled / Enabled	内蔵IDEチャネル0の有効/無効を設定します。 「Disabled」の場合、Primary IDEが無効になります。
	OnChip IDE Channel1	Disabled / Enabled	内蔵IDEチャネル1の有効/無効を設定します。 「Disabled」の場合、Secondary IDEが無効になります。
	IDE Prefetch Mode	Disabled / Enabled	IDE Prefetchの有効/無効を設定します。
	Primary Master PIO	Auto / Mode0 / Mode1 / Mode2 / Mode3 / Mode4	Primary Master IDEのPIOモードを設定します。
	Primary Slave PIO	Auto / Mode0 / Mode1 / Mode2 / Mode3 / Mode4	Primary Slave IDEのPIOモードを設定します。
	Secondary Master PIO	Auto / Mode0 / Mode1 / Mode2 / Mode3 / Mode4	Secondary Master IDEのPIOモードを設定します。
	Secondary Slave PIO	Auto / Mode0 / Mode1 / Mode2 / Mode3 / Mode4	Secondary Slave IDEのPIOモードを設定します。
	Primary Master UDMA	Disabled / Auto	Primary Master IDEのUDMA転送の有効/無効を設定します。
	Primary Slave UDMA	Disabled / Auto	Primary Slave IDEのUDMA転送の有効/無効を設定します。
	Secondary Master UDMA	Disabled / Auto	Secondary Master IDEのUDMA転送の有効/無効を設定します。
	Secondary Slave UDMA	Disabled / Auto	Secondary Slave IDEのUDMA転送の有効/無効を設定します。
	IDE DMA transfer access	Disabled / Enabled	本項目の設定は変更しないでください。
MCP OnChip PCI Device			この項目にカーソルを合わせ【Enter】キーを押すとサブメニューの設定画面になります。 サブメニューでは、【Esc】キーを押すと元の画面に戻ります。
	MCP AC97 Audio	Disabled / Enabled	内蔵サウンド機能の有効/無効を設定します。
	MCP SPDIF Out	Disabled / Enabled	内蔵S/PDIF機能の有効/無効を設定します。
Onboard SuperIO Device			この項目にカーソルを合わせ【Enter】キーを押すとサブメニューの設定画面になります。 サブメニューでは、【Esc】キーを押すと元の画面に戻ります。
	Onboard FDC Controller	Disabled / Enabled	内蔵フロッピーディスクコントローラの有効/無効を設定します。
	Onboard Serial Port	Disabled / 3F8/IRQ4 / 2F8/IRQ3 / 3E8/IRQ4 / 2E8/IRQ3 / Auto	シリアルポートのI/OポートアドレスとIRQを設定します。
	Onboard Parallel Port	Disabled / 378/IRQ7 / 278/IRQ5 / 3BC/IRQ7	パラレルポートのI/OポートアドレスとIRQを設定します。
	Parallel Port Mode	SPP / EPP / ECP / ECP+EPP	パラレルポートの動作モードを設定します。 転送速度はECPが一番速く、以降EPP、SPPの順で速くなります。 ・SPP:Standard Parallel Portを指定します。 ・EPP:Enhanced Parallel Portを指定します。 ・ECP:Extended Capabilities Parallel Portを指定します。 ・ECP+EPP:ECPとEPPの両方のモードを指定します。
	EPP Mode Select	EPP1.9 / EPP1.7	パラレルポートのEPPモードを設定します。 「Parallel Port Mode」の設定が「EPP」、「ECP+EPP」の場合に設定可能となります。
	ECP Mode Use DMA	1 / 3	パラレルポートで使用するDMAチャネルを設定します。 「Parallel Port Mode」の設定が「ECP」、「ECP+EPP」の場合に設定可能となります。

設定項目	選択項目	説　明
Onboard SuperIO Device		この項目にカーソルを合わせ【Enter】キーを押すとサブメニューの設定画面になります。 サブメニューでは、【Esc】キーを押すと元の画面に戻ります。
Restore On AC/Power Loss	Power Off / Power On / Last State	停電などでAC電源(AC100V)が失われ、電源復旧したときの動作を設定します。 ・Power Off:AC電源復旧時に電源が入らないように設定します。 ・Power On:AC電源復旧時に電源が入るように設定します。 ・Last State:AC電源が失われたときの状態に戻します。
Init Display First	PCI Slot / Onboard/AGP	AGPスロットとPCIスロットの両方にグラフィックボードを装着した場合、どちらのボードを優先して使用するかを指定します。 ・PCI Slot:PCIスロットに搭載されたビデオボードを優先して使用します。 ・Onboard/AGP:内蔵ビデオアダプタ、またはAGPスロットに搭載されたビデオボードを優先して使用します。
OnChip USB	Disabled / Enabled	USB機能の有効/無効を設定します。
USB Keyboard Support	Disabled / USB A / USB B	USBキーボードのレガシー機能の有効/無効を設定します。
BIOS Protect	Enabled / Disabled	BIOS保護機能の有効/無効を設定します。 BIOSをアップデートする時は、本機能を「Disabled」に設定する必要があります。
IDE HDD Block Mode	Disabled / Enabled	IDE HDDのブロックモードの有効/無効を設定します。
Network Boot Agent	Disabled / Enabled	ネットワークブート機能の有効/無効を設定します。

◆ Power Management Setup

設定項目	選択項目	説　明
Sleep State	S1(POS) / S3(STR)	ACPIモードのスリープ状態を設定します。本項目の設定は変更しないでください。
Power Management Option	User Define / Min Saving /Max Saving	パワーマネージメント機能を設定します。本項目はACPIモード時は無効です。 ・User Define:節電モードに入るまでの時間を指定します。 ・Min Saving:1時間程度の比較的長時間でdoze、standby、suspendモードになります。 ・Max Saving:数分程度の短い時間でdoze、standby、suspendモードになります。
Video Off Method	Blank Screen / V/H SYNC+Blank /DPMS Support	ディスプレイの画面をオフにする方法を設定します。本項目はACPIモード時は無効です。 ・Blank Screen:映像信号がないとき、画面をオフにします。 ・V/H SYNC+Blank:VGAからディスプレイへの垂直同期/水平同期信号を停止し、なおかつ画面をオフにします。 ・DPMS Support:DPMSモードに設定します。
MODEM Use IRQ	NA / 3 / 4 / 5 / 7 / 9 / 10 / 11	モデムに割り当てるIRQを設定します。
Soft-Off by PBTN	Delay 4 Sec / Instant-Off	本項目の設定は変更しないでください。
IRQ/Event Activity Detect		この項目にカーソルを合わせ【Enter】キーを押すとサブメニューの設定画面になります。 サブメニューでは、【Esc】キーを押すと元の画面に戻ります。
USB Resume from S3	Disabled / Enabled	本項目の設定は変更しないでください。
Wake-Up by PCI card (PME)	Disabled / Enabled	PME信号によるレジュームを行うかどうかを設定します。本項目はACPIモード時は無効です。
IRQ Activity Monitoring		この項目にカーソルを合わせ【Enter】キーを押すとサブメニューの設定画面になります。 サブメニューでは、【Esc】キーを押すと元の画面に戻ります。
IRQs Activity	Disabled / Primary / Secondary	IRQの監視を設定します。
IRQ3	Disabled / Enabled	IRQ3に対する監視の有効/無効を設定します。
IRQ4	Disabled / Enabled	IRQ4に対する監視の有効/無効を設定します。
IRQ5	Disabled / Enabled	IRQ5に対する監視の有効/無効を設定します。
IRQ6	Disabled / Enabled	IRQ6に対する監視の有効/無効を設定します。
IRQ7	Disabled / Enabled	IRQ7に対する監視の有効/無効を設定します。
IRQ8	Disabled / Enabled	IRQ8に対する監視の有効/無効を設定します。
IRQ9	Disabled / Enabled	IRQ9に対する監視の有効/無効を設定します。
IRQ10	Disabled / Enabled	IRQ10に対する監視の有効/無効を設定します。
IRQ11	Disabled / Enabled	IRQ11に対する監視の有効/無効を設定します。
IRQ12	Disabled / Enabled	IRQ12に対する監視の有効/無効を設定します。
IRQ13	Disabled / Enabled	IRQ13に対する監視の有効/無効を設定します。
IRQ14	Disabled / Enabled	IRQ14に対する監視の有効/無効を設定します。
IRQ15	Disabled / Enabled	IRQ15に対する監視の有効/無効を設定します。

◆ PnP/PCI Configurations

設定項目	選択項目	説　明
PNP OS Installed	No / Yes	Windows XPなどプラグ＆プレイ対応OSを使用している場合には、「Yes」を選択します。
Reset Configuration Data	Disabled / Enabled	「Enabled」を選択すると、システム設定値の初期化を行います。ただし、再起動時には「Disabled」に戻ります。
Resources Controlled By	Auto(ESCD) / Manual	プラグ＆プレイ対応デバイスへのリソース設定方法を選択します。
IRQ Resources		この項目にカーソルを合わせ【Enter】キーを押すと、サブメニューの設定画面になります。 サブメニューでは、【Esc】キーを押すと元の画面に戻ります。 「Resources Controlled By」の設定が「Manual」の場合に設定可能となります。
IRQ-3 assigned to	PCI Device / Reserved	IRQ3の設定を行います。
IRQ-4 assigned to	PCI Device / Reserved	IRQ4の設定を行います。
IRQ-5 assigned to	PCI Device / Reserved	IRQ5の設定を行います。
IRQ-7 assigned to	PCI Device / Reserved	IRQ7の設定を行います。
IRQ-9 assigned to	PCI Device / Reserved	IRQ9の設定を行います。
IRQ-10 assigned to	PCI Device / Reserved	IRQ10の設定を行います。
IRQ-11 assigned to	PCI Device / Reserved	IRQ11の設定を行います。
IRQ-12 assigned to	PCI Device / Reserved	IRQ12の設定を行います。
IRQ-14 assigned to	PCI Device / Reserved	IRQ14の設定を行います。
IRQ-15 assigned to	PCI Device / Reserved	IRQ15の設定を行います。
PCI/VGA Palette Snoop	Disabled / Enabled	本項目の設定は変更しないでください。

◆ PC Health Status

設定項目	選択項目	説　明
CPU Warning Temperature	Disabled / 50℃/122˚F / 53℃/127˚F / 56℃/133˚F / 60℃/140˚F / 63℃/145˚F / 66℃/151˚F / 70℃/158˚F	CPU警告温度を設定します。
Current System Temp.	(Auto Detect)	CPUやFAN等のシステムの状態を表示します。
Current CPU Temperature	(Auto Detect)	
System fan	(Auto Detect)	
Power fan	(Auto Detect)	
CPU fan	(Auto Detect)	
Vcore	(Auto Detect)	
3.3V	(Auto Detect)	
＋ 5V	(Auto Detect)	
＋12V	(Auto Detect)	
－12V	(Auto Detect)	
－ 5V	(Auto Detect)	
VBAT(V)	(Auto Detect)	
5VSB(V)	(Auto Detect)	
CPU FAN Detection	Yes / No	CPU FAN検出機能の有効/無効を設定します。
Shutdown Temperature	Disabled / 80℃/176˚F / 85℃/185˚F / 90℃/194˚F	CPUをシャットダウンする温度を設定します。 CPUの温度が設定値を超えた場合、システムはシャットダウンします。
Warning_Beep	Enabled / Disabled	警告ビープ音機能の有効/無効を設定します。

◆ Frequency/Spread Spectrum Control

設定項目	選択項目	説　明
Current CPU Speed	(Auto Detect)	CPUの実動作クロックを表示します。
Clock Spread Spectrum	0.50% / 1.00% / 2.00% / Disabled	本項目の設定は変更しないでください。
Memory Frequency	SPD / 200MHz / 266MHz	メモリ周波数を設定します。本項目の設定は変更しないでください。

◆ Load Optimized Defaults

すべての選択項目をデフォルト値（初期値）に戻します。

◆ Set Supervisor Password

スーパバイザパスワードの設定をします。

◆ Set User Password

ユーザパスワードの設定をします。
ユーザパスワードは、スーパバイザパスワードを設定しないと設定できません。

◆ Save & Exit Setup

変更した設定を保存してから終了します。
【F10】キーを押す終了方法と同じです。

◆ Exit Without Saving

変更した設定を保存せずに終了します。
【Esc】キーを押す終了方法と同じです。

ストラップスイッチの設定

パスワードの解除

BIOSセットアップユーティリティで設定したスーパバイザパスワード、ユーザパスワードは、次の手順で解除できます。

1 パソコンの電源を切り、本体に接続されたケーブルをすべて取り外す

2 正しい手順でリアカバー、レフトカバーを取り外す

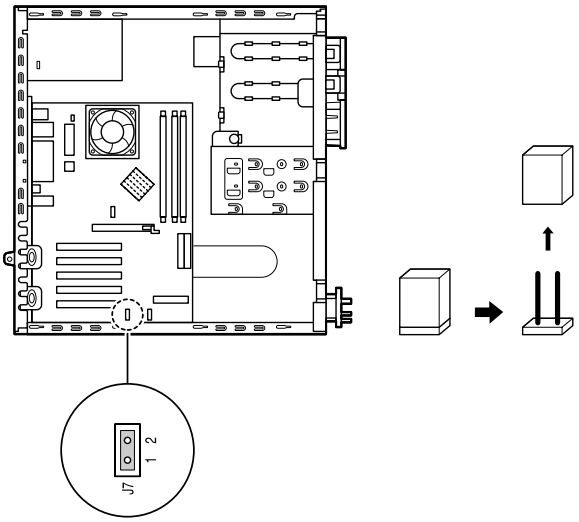
参照 カバーの取り外し方→ PART1 の「本体の開け方と閉め方」(P.6)

3 ストラップスイッチを上に引き抜く

ストラップスイッチを引き抜くには、ピンセットなどを使ってください。

チェック!!

抜いたストラップスイッチは、なくさないように注意してください。



4 正しい手順でレフトカバー、リアカバーを取り付ける

参照 カバーの取り付け方→ PART1 の「本体の開け方と閉め方」(P.6)

5 本体から外したケーブルを元通りに接続して、パソコンの電源を入れて Windows を起動する

6 Windowsを終了して、パソコンの電源を切り、本体に接続されたケーブルをすべて取り外し、正しい手順でリアカバー、レフトカバーを取り外す

7 手順 3 で取り外したストラップスイッチを元通りに取り付ける

8 正しい手順でレフトカバー、リアカバーを取り付ける

9 本体から外したケーブルを元通りに接続する

CMOS クリア

「BIOSセットアップユーティリティ」で設定を変更したり、機器を増設した後などに、パソコン本体の電源スイッチを押しても電源が入らないなど正常に動作しない場合は、本体内部の設定をリセットする「CMOS クリア」をすると正常に動作するようになることがあります。

チェック!!

この操作を行うと、「BIOS セットアップユーティリティ」で設定した内容はすべて購入時の状態に戻ります。

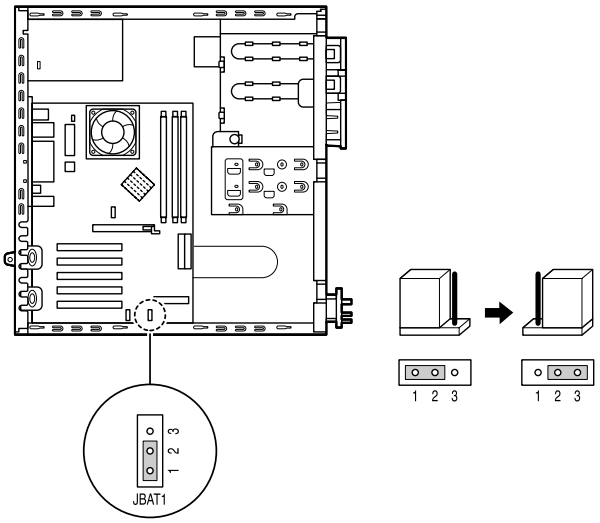
1 パソコンの電源を切り、本体に接続されたケーブルをすべて取り外す

2 正しい手順でリアカバー、レフトカバーを取り外す

参照 カバーの取り外し方→ PART1 の「本体の開け方と閉め方」(P.6)

3 ストラップスイッチを上に引き抜き、次の図のように差し替えて 30 秒待つ

ストラップスイッチを引き抜くには、ピンセットなどを使ってください。



4 30 秒経った後、ストラップスイッチを元の位置に戻す

5 正しい手順でレフトカバー、リアカバーを取り付ける

参照 カバーの取り付け方→ PART1 の「本体の開け方と閉め方」(P.6)

6 本体から外したケーブルを元通りに接続して、パソコンの電源を入れて Windows を起動する

この操作を行ってもパソコンが起動しない場合は、パソコン本体の故障が考えられます。ご購入元または NEC にお問い合わせください。

参照 NEC のお問い合わせ先→『121ware ガイドブック』

PART 4

困ったときのQ&A

パソコンの様子がおかしい …… 87
マウス、キーボード …… 89
電源のオン / オフ …… 90
省電力機能 …… 94
アプリケーション …… 97
周辺機器 …… 98
パスワード …… 99
その他 …… 100

当てはまるトラブル事例がないか、マニュアルで探してみる

◆ 電子マニュアル「ぱそガイド」で

このパソコンに入っている「ぱそガイド」の「トラブル解決Q&A」コーナーでは、パソコン使用中に発生するさまざまなトラブル事例をカテゴリごとに紹介しています。

◆ 次ページ以降のトラブル事例で

次ページ以降でも、さまざまなトラブル事例を紹介しています。パソコンが動かなくて「ぱそガイド」が使えない場合などは、こちらもご覧ください。

◆ Windows の「ヘルプとサポート」で

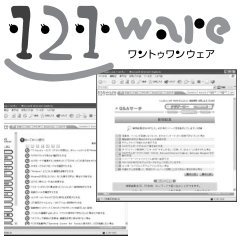
ここにも多くのトラブル事例が紹介されています。

◆ 使用中のソフトや周辺機器のマニュアルで

そのソフトや機器を使っているときによくあるトラブル事例が掲載されている場合があります。重要なヒントを提供してくれるかもしれません。

インターネットでトラブル事例を探してみる

◆ NEC のパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」



「ぱそガイド」やこの本で事例が見つからなくても大丈夫。「121ware.com（http://121ware.com）」には、さらに膨大な量のトラブル事例や最新情報が掲載されています。

◆ マイクロソフトサポート技術情報

WindowsやOffice XPなどのソフトウェアに関するトラブル情報が検索できます。http://www.microsoft.com/japan/support/ をご覧ください。

◆ ソフトや周辺機器の開発元のホームページ

お使いのソフトや周辺機器のメーカーのホームページでも、Q&A情報が提供されている場合があります。

それでも駄目なら、サポート窓口に電話する

どうしても解決できないときは、サポート窓口に問い合わせてみましょう。トラブルの原因がソフトや周辺機器にあるようならば、それぞれの開発元に問い合わせます。NECのサポート窓口「121コンタクトセンター」については、「ぱそガイド」の「NEC のサービス＆サポート」をご覧ください。

パソコンの様子がおかしい

パソコンが異常に熱を持ったとき、変なにおいがしたときなど、様子がおかしいと思ったらここをご覧ください。いきなり電源プラグを抜いたりせず、落ち着いて対処しましょう。

メモ　このパソコンを安全に使うための注意事項を『安全にお使いいただくために』に記載しています。必ず読んで注意事項を守ってください。

パソコンの様子がおかしい。煙や異臭、異常な音がしたり、手でさわれないほど熱い。パソコンやケーブル類に目に見える異常が生じた

すぐに電源を切って、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜き、ご購入元またはNECにお問い合わせください。

電源が切れないときは、パソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けてください。

参照 NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』

急に動かなくなった、フリーズした

アプリケーションや周辺機器に異常が発生すると、どんな操作をしてもパソコンやアプリケーションが反応しなくなることがあります（この状態をフリーズ、またはストール、ハングアップといいます）。このような場合は、次の操作を行ってください。

異常が起きているアプリケーションを終了させる

1 **【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【Delete】キーを1回押す**

「Windows タスクマネージャ」の画面が表示されます。

チェック!!

- 【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【Delete】キーは、2回以上押さないでください。
- 「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されるまで時間がかかる場合があります。表示されない場合は、しばらくお待ちください。
- アプリケーションで編集していた文書、画像などのデータは保存できません。

2 **「アプリケーション」タブをクリックし、右側に「応答なし」と表示されているプログラム（アプリケーション）をクリックして、「タスクの終了」をクリックする**

この方法でアプリケーションが終了できなかったり、終了できても、正しい電源の切り方で電源が切れないときは、次の操作を行ってください。

強制的に電源を切る

1 パソコン本体の電源スイッチを、電源が切れて電源ランプが消えるまで押しつづける

通常、4 秒以上押しつづけるとパソコンの電源が切れます。

チェック!!

- ひんぱんに強制終了を行うとハードディスクが故障することがあります。
- 強制終了を行うと直後の再起動時に「ディスクのチェック」が自動的に起動することがあります。

2 5 秒以上待ってから、電源スイッチを押す

パソコンの電源が入り、場合によっては、「ディスクのチェック」が自動的に始まり、ハードディスクがチェックされます。
「ディスクのチェック」で異常が発見されなかったときや、「ディスクのチェック」が実行されなかったときは、そのまま Windows が起動します。

チェック!!

「ディスクのチェック」の結果、なにかメッセージが表示された場合は、メッセージにしたがってください。うまく起動できなかった場合は、「PART5 再セットアップ」(P.103) をご覧になり、システムの修復または再セットアップを行ってください。

3 「スタート」ボタンをクリックして、「終了オプション」をクリックする

「コンピュータの電源を切る」ウィンドウが表示されます。

4 「電源を切る」をクリックする

パソコンの電源が切れます。

この方法で電源が切れないときは、もう1度電源スイッチを押しつづけてください。パソコンの電源ランプがオレンジ色に点灯している場合は、いったん電源ケーブルをコンセントから抜き、『はじめにお読みください』をご覧になって、もう 1 度パソコンの電源ケーブルを接続し直して、電源を入れてみてください。

それでもトラブルが解決しないときは、「PART5 再セットアップ」(P.103) をご覧になり、システムの修復または再セットアップを行ってください。

マウス、キーボード

マウス、キーボードが正しく動作しなかったり、反応しないときはここをご覧ください。

この他「ぱそガイド」も参照してください（「ぱそガイド」-「トラブル解決Q&A」の「マウス / リモコン」、「文字入力 / キーボード」）。

マウス、キーボードを動かしても反応しない、反応が悪い

マウスポインタが砂時計の形に変わっていませんか？

砂時計のマウスポインタ

マウスポインタが砂時計の形になっているときは、パソコンが処理をしているので、マウス、キーボードの操作が受け付けられない場合があります。処理が終わるまで待っていてください。

マウス、キーボードは正しく接続されていますか？

PS/2 マウス、PS/2 キーボードの場合は、マウス、キーボードとパソコン本体それぞれがしっかり接続されていないと、マウス、キーボードが正しく動作しません。
USB マウス、USB キーボードの場合は、マウスとキーボード、キーボードとパソコン本体がしっかり接続されていないと、マウス、キーボードが正しく動作しません。
『はじめにお読みください』をご覧になり、正しく接続されているか、またプラグがきちんと差し込まれているかを確認してください。正しく接続されていない場合は、接続し直してください。

しばらく待っても、マウス、キーボードの操作ができないとき

アプリケーションや周辺機器に異常が発生して動かなくなった（フリーズした）ものと考えられます。この PART の「急に動かなくなった、フリーズした」（P.87）をご覧になり、異常が起きているアプリケーションを強制終了してください。このとき、保存していなかったデータは失われます。

マウス、キーボードに飲み物をこぼしてしまった

やわらかい布などで拭き取ってください。キーボードのキーとキーの間に入ってしまったときは、水分が乾くのを待ってからお使いください。乾いたあとで、キーを押しても文字が入力されないなどの不具合があるときは、ご購入元または NEC にお問い合わせください。

メモ　ジュースなどをこぼしたときは、きれいに拭き取っても内部に糖分などが残り、マウス、キーボードが故障することがあります。また、パソコンのそばで、飲食、喫煙をすると、飲食物やタバコの灰がパソコン内部に入り、故障の原因となります。

参照 ・マウス、キーボードのお手入れ→付録の「パソコンのお手入れ」（P.130）
・NEC のお問い合わせ先→『121ware ガイドブック』

電源のオン/オフ

電源を入れたとき、電源を切ろうとしたときにトラブルが発生したときは、こちらをご覧ください。

「文書を作成中に電源を切ってしまった」など電源のオン / オフに関するQ&Aは「ぱそガイド」も参照してください（「ぱそガイド」-「トラブル解決 Q&A」の「電源のオン / オフ」）。

参照 電源の入れ方、切り方→『はじめにお読みください』の「PART3 セットアップする」

電源が切れない。強制的に電源を切りたい

CD-ROMやフロッピーディスクなどがCD/DVDドライブやフロッピーディスクドライブにセットされている場合は、すべて取り出してから電源を切ってください。

正しい電源の切り方

チェック!!

電話回線を使うアプリケーションを起動しているときは、アプリケーションを終了させてから電源を切ってください。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「終了オプション」をクリックする

「コンピュータの電源を切る」ウィンドウが表示されます。

2 「電源を切る」をクリックする

しばらくすると、自動的に電源が切れます。

この方法で電源が切れないときは、アプリケーションに異常が起きていると考えられます。このPARTの「急に動かなくなった、フリーズした」（P.87）をご覧になり、異常が起きているアプリケーションを終了してください。それでも電源が切れないときは、このPARTの「強制的に電源を切る」（P.88）の操作を行ってください。

ディスプレイに何も表示されない

パソコンの電源を入れたときにディスプレイに何も表示されないときや、パソコンを使っていて画面が真っ暗になったときは、パソコン本体およびディスプレイの電源ランプの状態を確認してください。

チェック!!

電源が入っているとき（スタンバイ状態のときも含む）に、4秒以上電源スイッチを押し続けると強制的に電源が切れてしまうので注意してください。強制的に電源を切ると元の状態に復帰できなくなります。

パソコン本体の電源スイッチを押してください。画面が表示されますか？

画面が表示されるときは、電源が切れていたか、パソコン本体の省電力機能が働いて省電力状態になっていたものと考えられます。
このパソコンは、20分間何も操作しないと自動的に省電力状態になるように、ご購入時には設定されています。

参照 省電力機能について→ PART2 の「省電力機能」（P.61）

パソコン本体の電源ケーブルなどは正しく接続されていますか？

一度、電源ケーブルをコンセントから抜き、『はじめにお読みください』をご覧になって、もう一度パソコンの各ケーブルを接続し直してください。
電源ケーブルなどすべてのケーブルを正しく接続し直して、電源を入れても本体の電源ランプが点灯しないときは、パソコン本体の故障が考えられます。ご購入元またはNECにお問い合わせください。

参照 NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』

フロッピーディスクやCD-ROMなどのディスクがセットされていませんか？

フロッピーディスクやCD-ROMなどがセットされているときは、いったん取り出します。パソコン本体の電源スイッチを押して電源を切り、もう一度電源を入れ直してください。

メモ フロッピーディスクやCD-ROMから起動したいときは、システムファイルが入ったものと入れ替えてから、電源を入れ直してください。

パソコン起動後にディスプレイの接続を行っていませんか？

パソコン起動後にディスプレイを接続しても、ディスプレイには何も表示されない場合があります。このような場合は、パソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けていったん強制的に電源を切り、もう一度電源を入れ直してください。

休止状態の間に、コンピュータの設定を変更したり周辺機器などの接続を変更しませんでしたか？

休止状態のときに周辺機器を接続したり、接続されていた周辺機器を取り外したりすると、Windowsが起動しなくなることがあります。その場合は、周辺機器の接続を元の状態に戻して電源スイッチを押してください。

電源スイッチを押しても電源が入らない

まれに、パソコン本体に電荷が帯電し、電源スイッチを押しても電源が入らない状態になることがあります。次の操作を行い、放電してみてください。

1 電源ケーブルをコンセントから抜く

2 パソコン本体の電源スイッチを 2、3 回押す

電源ケーブルをコンセントから抜いた状態で電源スイッチを2、3回押すことで、本体に帯電した電荷が放電されます。

チェック!!
放電を確実に行うため、電源ケーブルはしばらくコンセントから抜いたままにしておいてください。

3 そのまましばらく放置した後、電源ケーブルを正しく接続し直す

4 パソコン本体の電源スイッチを押して、電源を入れる

上記の方法でも電源が入らない場合は、「CMOSのクリア」をしてみると、パソコンが正常に動作することがあります。

参照 CMOSのクリア→ PART3の「ストラップスイッチの設定」（P.82）

この2種類の操作を行ってもパソコンの電源が入らない場合は、パソコン本体の故障が考えられます。ご購入元またはNECにお問い合わせください。

参照 NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』

「Windows 拡張オプション メニュー」が表示された

「セーフ モード」を選んで、【Enter】キーを押し、Windows をセーフモードで起動します。
セーフモードで起動すると画面のデザイン、配色や解像度などが通常とは異なりますが、必要最低限の機能は使えるようになります。
「スタート」メニューの「終了オプション」から「再起動」をクリックし、再起動して問題がなければ、元の状態に戻ります。
セーフモードで起動できなかった場合や、再起動しても問題が解決しなかった場合は、システムに障害が発生している可能性があります。「システムの修復」または「再セットアップ」を行ってください。

参照 システムの修復、再セットアップ→「PART5 再セットアップ」(P.103)

「オペレーティングシステムの選択」が表示された

「Microsoft Windows XP Professional」を選んで【Enter】キーを押してください。Windows が起動します。

チェック!!

- ここで「VALUESTAR Recovery System」は選択しないでください。「再セットアップ」(P.103) がはじまってしまいます。
- 「VALUESTAR Recovery System」を選択して、【再セットアップとは】の画面が表示された場合は、画面の指示にしたがってまず【F3】キーを押して、それからパソコン本体の電源スイッチを押してパソコンの電源を切ってください。

パソコンの電源を入れると、NECロゴが表示された後、画面がまっくらになる

電源を入れると、「NEC」ロゴが表示された後、画面が真っ暗になるときは、「PART5 再セットアップ」(P.103) をご覧になり、パソコンを「セーフモード」で起動してみてください。

画面に英語のエラーメッセージが表示される

「Checking file system on」と表示された場合

パソコンの電源を切る際に、Windowsは作業中のファイルをディスクに保存し直すなどのいくつかの処理を行います。その処理が正しく行われなかった場合に、このメッセージが表示されます。このメッセージが表示された後しばらくすると、自動的に、ハードディスクに異常が発生していないかどうかチェックする処理がはじまります。ハードディスクに異常がなければそのまま Windows が起動します。以降は問題なくお使いいただけます。
Windowsが正常に起動しなかった場合は、画面にメッセージが表示されますので、その内容をよく読んで対処してください。

「Invalid system disk」、「Operating System not found」などのメッセージが表示された場合

フロッピーディスクや CD-ROM などのディスクがセットされていませんか？

フロッピーディスクやCD-ROMなどを取り出してから、何かキー(【Enter】キーなど)を押してください。ハードディスクから Windows が起動します。
フロッピーディスクや CD-ROM などがセットされていないのにこれらのメッセージが表示される場合は、ハードディスクがフォーマットされたか、システムが壊れていて起動できない状態です。システムの修復または再セットアップを行ってください。

参照 システムの修復、再セットアップ→「PART5 再セットアップ」(P.103)

カーソルが表示されたきり、なにも表示されない

フロッピーディスクや CD-ROM などのディスクがセットされていませんか？

フロッピーディスクや CD-ROM などを取り出してから、再起動してください。
ハードディスクから Windows が起動します。

電話回線を使用中のまま、パソコンの電源を切ってしまった

パソコンに異常があると、電源を切っても電話回線での接続が切断されない場合があります。その場合は一度、パソコンの電話回線用モジュラーコネクタからモジュラーケーブルを抜いてください。接続が切断されます。
パソコンの電源を切ると、ダウンロード中のデータは正常に保存されません。

チェック!!

電話回線を使うアプリケーションを起動しているときは、アプリケーションを終了させてから電源を切ってください。

パソコンの使用環境を変更したら、Windows が起動しない

BIOSセットアップユーティリティで、パソコンの使用環境を変更して、このような状態になったときは、システムの設定が正しくない可能性があります。次の手順でシステムの設定をご購入時の状態に戻してから、再起動してください。

1 別売の周辺機器や拡張ボードを取り付けているときは、取り外して、購入時の状態に戻す

2 パソコン本体の電源を入れる

「NEC」ロゴの画面が表示されます。

3 【F2】キーを押す

BIOS セットアップユーティリティが起動します。

4 【F9】キーを押す

「Load Optimized Defaults（Y/N）？」と表示されます。

5 ＜Y＞が選択されていることを確認して【Enter】キーを押す

システムの設定が初期値に戻ります。

6 【F10】キーを押す

「Save to CMOS and EXIT（Y/N）？」と表示されます。

7 ＜Y＞が選択されていることを確認して【Enter】キーを押す

システムの設定が保存されて、自動的に再起動します。

チェック!!

「BIOS セットアップユーティリティ」で設定したパスワードは、上の操作を行っても初期値には戻りません。

参照 BIOS セットアップユーティリティについて→ PART3 の「BIOS セットアップユーティリティ」（P.68）

チェック!!

手順 3 で【F2】キーを押しても BIOS セットアップユーティリティが起動しないときまたは手順 2 で「NEC」のロゴが表示されないときは、いったん電源を切り、もう一度電源を入れ、電源を入れた直後に何回か【F2】キーを押してください。

省電力機能

省電力状態（休止状態 / スタンバイ状態）から元の状態に戻れなくなったときや、省電力機能が使えないときは、ここをご覧ください。

「ディスプレイの省電力機能が設定できない」など、省電力機能に関するQ&Aは「ぱそガイド」も参照してください（「ぱそガイド」-「トラブル解決 Q&A」の「省電力機能」）。

参照 ・省電力機能について→ PART2 の「省電力機能」（P.61）
・省電力状態の確認のしかた→この PART の「ディスプレイに何も表示されない」（P.90）

省電力状態にする前の状態の画面が表示されない

省電力状態から元の状態に戻すときは、パソコン本体の電源スイッチを押します。電源スイッチを押しても元に戻らない場合は、以下の点を確認してください。

アプリケーションや周辺機器は省電力機能（休止状態／スタンバイ）に対応していますか？

対応していないアプリケーションや周辺機器で省電力状態にすると、正常に動作しなくなることがあります。このようなアプリケーションや周辺機器を使うときは、省電力状態にしないでください。

電源ケーブルは正しく接続されていますか（スタンバイ状態のとき）？

電源ケーブルを正しくコンセントに接続します。電源ケーブルが正しく接続されていなかった場合、作業内容は保持（記憶）されません。

スタンバイ状態のときに停電したり、電源ケーブルが抜けたりしませんでしたか?

スタンバイ状態のときに停電したり、電源ケーブルが抜けたりすると、保持（記憶）した内容は消えてしまいます。

スタンバイ状態のときやディスプレイの省電力機能によって画面が暗くなっているときに、電源スイッチを 4 秒以上押し続けませんでしたか？

スタンバイ状態のときやディスプレイの省電力機能によって画面が暗くなっているときに電源スイッチを4秒以上押し続けると、強制的に電源が切れ、保持（記憶）した内容は消えてしまいます。

フロッピーディスクや CD-ROM などのディスクがセットされていませんか？

フロッピーディスクや CD-ROM などのディスクがセットされている状態で休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにフロッピーディスクや CD-ROM から起動してしまうことがあります。休止状態にする場合には、フロッピーディスクやCD-ROMを取り出してから休止状態にするようにしてください。なお、フロッピーディスクを取り出す前に、必要なファイルは保存してください。

省電力状態にする前の内容の復元が保証されない場合

次のような場合は、省電力状態にする前の内容は保証されません。

- 省電力状態にする前の内容の記憶中、または復元中に CD-ROM などを入れ替えたとき
- 省電力状態にする前の内容の記憶中、または復元中にこのパソコンの環境を変更したとき
- 省電力状態のときにこのパソコンの周辺機器の接続などを変更したとき

チェック!!

休止状態からの復帰（再開）に失敗したときは、Windows が起動しても休止状態にする前の作業内容が復元されない場合があります。その場合、保存していないデータは失われてしまいますので、休止状態にする前に必要なデータは必ず保存するようにしてください。

また、次のような状態で省電力状態にしても、復帰後の内容は保証されません。
・プリンタへ出力中のとき
・モデムなどを使って通信中のとき
・サウンド機能により音声を再生しているとき
・ハードディスクを読み書き中のとき
・CD-ROM などを読み取り中のとき
・省電力状態に対応していない周辺機器を取り付けたとき

「スタンバイ状態に入ることができません。」と表示され省電力状態にできない

実行中のプログラムをすべて終了してから、もう一度、設定をし直してください。

電話回線を使用中のときは、回線を切ってから省電力状態にしてください。

「コントロールパネル」の「電源オプション」で設定しても省電力状態にならない

メモ 手動で省電力状態にするには「スタート」ボタン-「終了オプション」をクリックして、「スタンバイ」をクリックします。

アプリケーションや周辺機器は、省電力状態に対応していますか?

アプリケーションや周辺機器によっては、省電力機能を使おうとすると、正常に動作しなくなることがあります。一度本機の電源を切って、もう一度電源を入れ直してください。また、このようなアプリケーションや周辺機器を使うときは、省電力状態にしないでください。

実行中のプログラムをすべて終了してから、もう一度、設定をし直してください。

通信中、省電力状態にできないアプリケーションもあります。電話回線を使用中のときは、回線を切ってから省電力状態にしてください。

スタンバイ状態から復帰中に、電源スイッチを押しませんでしたか？

スタンバイ状態から復帰中に電源スイッチを押すと、再度スタンバイ状態にしようとしてもスタンバイ状態にできなくなる場合があります。このような場合には、次の手順でパソコンを再起動してください。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「終了オプション」をクリックする

2 「再起動」をクリックする

SCSI を使って周辺機器を接続していませんか？

SCSI を使って機器を接続した場合は、休止状態にできません。また、パソコンが自動的に休止状態にならないように設定を変更してください。

参照 パソコンが自動的に省電力状態にならないようにするには→ PART2 の「省電力機能」(P.61)

プリンタなど双方向通信を行う周辺機器を接続していませんか？

プリンタなど双方向通信を行う周辺機器を使用している場合は、自動的に省電力状態にできません。使用中の周辺機器の動作を中止するか、周辺機器の電源を切ってください。

省電力を設定しても自動休止機能または自動スタンバイ機能が利用できない

チェック!!

SCSIを使って周辺機器を接続した場合は、パソコンを休止状態にできません。また、SCSI対応機器をご利用になる場合は、パソコンが自動的に休止状態にならないように設定を変更してください。

実行中のプログラムをすべて終了してから、もう一度設定し直してください。

電話回線を使用中のときは、回線を切ってから省電力状態にしてください。

アプリケーションや周辺機器は、省電力機能に対応していますか?

アプリケーションや周辺機器によっては、この機能を使おうとすると、正常に動作しなくなることがあります。一度本機の電源を切って、もう一度電源を入れ直してください。また、このようなアプリケーションや周辺機器を使うときは、省電力状態にしないでください。

参照 パソコンが自動的に省電力状態にならないようにするには→ PART2 の「省電力機能」(P.61)

スクリーンセーバーは省電力機能に対応していますか?

「3D テキスト」などのOpenGL対応のスクリーンセーバーが動いているときは、自動的に省電力状態にはなりません。
OpenGL 対応のスクリーンセーバーに設定している場合は、他のものに変更してください。

アプリケーション

アプリケーションを使っていてトラブルが起きたときは、ここをご覧ください。

「アプリケーションがインストールできない」といったトラブルなど、アプリケーションに関するQ&Aは「ぱそガイド」も参照してください（「ぱそガイド」-「トラブル解決Q&A」の「アプリケーション」）。

アプリケーションが起動しなくなった

そのアプリケーションは省電力機能（休止状態 / スタンバイ）に対応していますか？

対応していないアプリケーションが起動しているときに省電力状態にすると、正常に動作しなくなることがあります。対応していないアプリケーションでは、省電力状態にしないでください。
この機能を使って、電源を切ることができなくなったときは、4秒以上電源スイッチを押し続けて、強制的に電源を切ってください。

参照 省電力機能について→ PART2 の「省電力機能」（P.61）

インターネットエクスプローラを終了しても回線が切断されない

インターネットにダイヤルアップネットワーク接続している場合、インターネットエクスプローラを終了しても、回線が接続されたままになることがあります。回線を切断するには、画面右下の通知領域の をクリックし、表示された画面で「切断」をクリックしてください。

パソコンに添付のアプリケーションを追加または削除したい

インストーラ-NXを使うと、パソコンに添付のアプリケーションを追加したり削除したりできます。詳しくは「ぱそガイド」の「アプリケーションの追加と削除」をご覧ください。

アプリケーションについて問い合わせをしたい

パソコンに添付のアプリケーションについて問い合わせるときは、「ぱそガイド」の「サービス＆サポート」や付録の「アプリケーションのサポート窓口一覧」（P.141）をご覧になり、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。また、パソコンご購入後、ご自分で追加された別売のアプリケーションについては、そのアプリケーションの販売元にお問い合わせください。

周辺機器

別売の周辺機器をこのパソコンに取り付けたときに、周辺機器が正しく動作しなかったり、パソコンの動作がおかしくなったりしたときはここをご覧ください。

ドライバのインストールや取り付けた機器の動作など、周辺機器に関するQ&Aは「ぱそガイド」も参照してください（「ぱそガイド」-「トラブル解決 Q&A」の「周辺機器」）。

別売の周辺機器を取り付けたが、正しく動作しない

取り付けた周辺機器が正しく動作しないときは、以下のチェック項目を確認した上で、その機器に添付のマニュアルをご覧になり、その機器がこのパソコンやWindows XPに対応しているかどうか、パソコンへの接続のしかたやドライバの設定などに誤りがないか、などを確認してください。また、「スタート」メニューの「ヘルプとサポート」をクリックし、「問題を解決する」、「ハードウェアおよびシステム デバイスの問題」の順にクリックして、必要なトラブルシューティングを行ってみてください。

参照 周辺機器について→周辺機器のマニュアル、「PART1 周辺機器を接続する」、「PART6 BTOオプションガイド」

デバイスマネージャに赤い「×」や黄色い「！」や緑の「？」マークがついていませんか？

取り付けた周辺機器に赤い「×」マークや黄色い「！」マークや緑の「？」マークがついているときは、その周辺機器が何らかの理由で正常に動作していないことが考えられます。周辺機器のマニュアルやWindowsの「ヘルプとサポート」をご覧になり、赤い「×」や黄色い「！」や緑の「？」マークがつかないように設定し直してください。

チェック!!

TVモデルでは、SmartVision/TVが起動していない場合、次のデバイスに赤い「×」マークがつくことがありますが、故障ではありません。

・「サウンド、ビデオ、およびゲーム コントローラ」の「Sigma Designs NEC VENTURA 8470 MPEG Decoder」

別売の周辺機器を取り付けたら、パソコンが起動しなくなった

参照 ・セーフモードでパソコンを起動する方法→ PART5 の「セーフモードで起動してみる」(P.105)
・ドライバのインストール→ PART1 の「取り付けるときのポイント」(P.2)

メモ ドライバを最新のものに更新すると正しく動作することがあります。
最新のドライバは周辺機器メーカーのホームページなどでダウンロードしてください。また、Windows Update を行うと最新のドライバをダウンロードして、更新できることがあります。Windows Updateをするには「スタート」ボタン-「すべてのプログラム」-「Windows Update」をクリックしてください。

周辺機器がパソコンに正しく接続されていますか。取り付けた周辺機器の設定は正しいですか？

周辺機器がパソコンと正しく接続されているか、ケーブルやコネクタを確認してください。また、周辺機器の設定が正しいか、確認してください。
正しく接続できているのに起動できない場合は、周辺機器のドライバが原因でパソコンが起動できなくなったと考えられます。セーフモードでパソコンを起動して、トラブルの原因になったドライバを無効にして、正しいドライバをインストールするか、ドライバ自体を削除する必要があります。詳しくは、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。または「スタート」メニューの「ヘルプとサポート」をクリックし、「問題を解決する」、「ハードウェアおよびシステム デバイスの問題」の順にクリックして、必要なトラブルシューティングを行ってください。
セーフモードでパソコンを起動できないときは、パソコンの電源を切ってから新しく取り付けた周辺機器を外してください。また、新しく取り付けた周辺機器を使用したいときは、周辺機器に添付のマニュアルをご覧になり、ドライバのインストールを再度行ってください。

パスワード

Windowsを起動したときにパスワードを入力してもログオンできない場合や、パスワードを忘れてしまった場合は、ここをご覧ください。

パスワードを入力すると「パスワードを忘れてしまいましたか？」と表示される

キーボードのキャップスロックキーランプが点灯していませんか？

キャップスロックキーランプは、キーボード右上についています。キャップスロックキーランプが点灯しているときは英字の入力が大文字入力になります。【Shift】キーを押しながら、【Caps Lock】キーを押して、キャップスロックを解除してから、パスワードを入力し直してください。

パスワードを忘れてしまった

Windowsのパスワードを忘れてしまったとき

パスワードを思い出せない場合は、パスワードを設定し直す必要があります。「マルチユーザー機能」でこのパソコンに他のユーザー名を登録してあれば、そのユーザー名でログオンして、「コントロールパネル」の「ユーザー アカウント」で、パスワードを忘れてしまったユーザーのパスワードを設定し直してください。
詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」をご覧ください。

チェック!!

- 他のユーザー名でログオンしてパスワードを設定し直すと、そのユーザー向けに保存されていた個人証明書や、Webサイトまたはネットワークリソース用のパスワードもすべて失われます。
- 「制限付きユーザー」として登録されたユーザー名でログオンした場合、パスワードの設定操作は行えません。

ユーザパスワード、スーパバイザパスワードを忘れてしまったとき

「BIOSセットアップユーティリティ」で設定したこれらのパスワードを忘れてしまった場合は、パソコンを起動できません。パスワードを解除する必要があります。

参照 ・BIOSセットアップユーティリティ→ PART3の「BIOSセットアップユーティリティ」（P.68）
・パスワードの解除→ PART3の「ストラップスイッチの設定」（P.82）

その他

ここまでで、あなたのパソコンのトラブルが見つからなかったときは、ここをご覧ください。ここでも見つからないときは、「ぱそガイド」や他のマニュアル、ヘルプ、Readme ファイルをご覧ください。

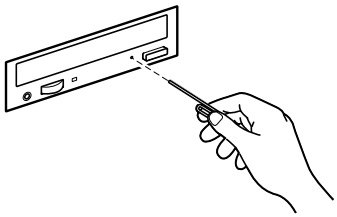
CD-ROM などのディスクが取り出せない

停電やアプリケーションの異常な動作などにより、CD/DVD ドライブから CD-ROM などのディスクを取り出せなくなった場合は、次の手順で強制的に取り出してください。

メモ　パソコンの電源が切れているときは、通常の方法ではディスクトレイの出し入れができません。

1 パソコン本体の電源を切る

2 クリップなどを引き伸ばした丈夫な先の細いものをディスクトレイの下の直径2mm程度の穴に差し込み、強く押し込む



3 ディスクトレイを手前に引き出し、ディスクを取り出す

4 ディスクトレイの前面を、イジェクトボタンを押さないように注意しながら、ディスクトレイがもとどおりに収納されるまで押し込む

コンピュータウイルスが検出された

Norton AntiVirusなどを実行したときに、コンピュータウイルスに感染したファイルが検出された場合は、すぐにウイルスを駆除し、被害を届け出てください。

参照 Norton AntiVirus について→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」

- **ウイルスを駆除する**

ウイルスを駆除するには、ウイルスが感染したファイルを削除するのがいちばん確実です。アプリケーションのファイルであれば、削除してインストールし直してください。バックアップがあるファイルは、削除したあと、コピーし直してください。バックアップも感染している可能性があるので、ウイルス検査をしてください。
削除できないファイルの場合は、「Norton AntiVirus」などのウイルス除去機能があるアプリケーションでそのファイルのウイルスを削除してください。
さらに、二次感染を防ぐため、使っていたハードディスク、フロッピーディスク、CD-R/RW などはすべてウイルス検査してください。

チェック!!

- 本機のNorton AntiVirusでは新種のウイルスを検出できない場合があります。常に最新のウイルスに対応するためには、ウイルス定義ファイルの更新が必要です。
  なお、このソフトウェアはサポート期間に限りがあります。
- インターネットに接続できる環境（プロバイダに入会済みの場合）では、自動Live Update機能を有効にするか、メインウィンドウ上部の［Live Update］をクリックし、「次へ」をクリックすることにより最新版のウイルス定義ファイルをダウンロードできます。
- ウイルス定義ファイルの更新だけでは検出できないウイルスが発生する場合があります。その場合はNorton AntiVirusを別途ご購入し、バージョンアップしてください。

・被害を届け出る

日本では、コンピュータウイルスを発見したら、企業、個人に関わらず、次の届け出先に届けることが義務づけられています（1997年9月24日付通商産業省告示第535号）。届け出をしなくても罰則の規定はありませんが、被害対策のための貴重な情報になるので積極的に報告してください。

・届け出先

情報処理振興事業協会（通称IPA）セキュリティーセンターウイルス対策室
本部： 〒113-6591
東京都文京区本駒込2-28-8
文京グリーンコート センターオフィス16階
IPAセキュリティセンターウイルス対策室
電話： 03-5978-7509
FAX： 03-5978-7518
ホームページアドレス：http://www.ipa.go.jp/

音楽CDやDVDを再生中に急に動かなくなった

このパソコンでは、一定時間何も操作しなかったときに自動的にハードディスクの電源が切れるように設定できますが、この機能を設定していると、音楽CDやDVDを再生中に、急に動かなくなる場合があります。
このような場合は、次の操作を行って、自動的にハードディスクの電源が切れないように設定を変更してください。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリックする

2 「パフォーマンスとメンテナンス」、「電源オプション」の順にクリックする
「電源オプションのプロパティ」の画面が表示されます。

3 「電源設定」タブをクリックし、「ハードディスクの電源を切る」を「なし」に設定する

4 「OK」をクリックする

安全ピン、クリップなど異物を本体内部に入れてしまった

すぐに電源を切って、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜き、ご購入元またはNECにお問い合わせください。
そのまま使用すると発煙、発火や故障の原因となります。

このパソコンで使えるOSの種類を知りたい

このパソコンにあらかじめインストールされているWindows XP Professional（市販のWindows XP Professionalは、利用できません）だけが利用できます。
Windowsのアップグレードはできません。
また、Windows 95、Windows 98、Windows Me、Windows NT、Windows 2000、Windows XP Home Editionはご利用になれません。

参照 NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』

このパソコンを廃棄したい

このパソコンの所有者が個人の場合は一般廃棄物として、事業者の場合は産業廃棄物として、廃棄処理を行います。詳しくは、付録の「このパソコンを廃棄するには」(P.134)をご覧ください。

チェック!!

パソコン内のデータには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように、廃棄の際にはこれらの情報を削除することをおすすめします。

PART 5

再セットアップ

再セットアップをはじめる前に …… 104
セーフモードで起動してみる …… 105
データのバックアップを取る …… 106
システムを修復してみる …… 108
再セットアップする …… 110

再セットアップをはじめる前に

このマニュアルの「PART4 困ったときのQ&A」や電子マニュアル「ぱそガイド」の「トラブル解決 Q&A」でトラブル事例が見つからない場合でも、すぐに再セットアップしたりせず、次のことを試してみてください。

◆ ウイルスチェックをしてみる

「知らないうちにデータがなくなった」、「見たことのない文字（または画像、映像）が表示された」といったトラブルが起きた場合、パソコンがウイルスに感染している可能性があります。「Norton AntiVirus」を使って、ウイルスに感染していないかチェックしてみましょう。

参照「Norton AntiVirus」について→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」

◆「ディスクのチェック」を試してみる

ハードディスクにトラブルが起きている場合は、「ディスクのチェック」を行うことでトラブルが改善されることがあります。

参照「ディスクのチェック」について→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」

◆ Windows XP の「ヘルプとサポート」や、周辺機器またはアプリケーションのヘルプやマニュアルに解決方法がないか探してみる

◆ インターネットで解決方法を探してみる

インターネットに接続できる場合は、NECのパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」やマイクロソフトサポート技術情報などでトラブル事例がないか探してみましょう。

これまでのところでトラブルが解決できなかった場合は、次の順番で試してみてください。それでもトラブルが解決されなかった場合は、再セットアップが必要になります。

セーフモードで起動してみる（P.105）
↓
データのバックアップを取る（P.106）
↓
システムを修復してみる（P.108）
↓
再セットアップする（P.110）

セーフモードで起動してみる

電源を入れてもパソコンが正常に起動しないときなどに、「セーフモード」でいったん起動して、「ディスクのチェック」などを行ってからパソコンを再起動すると、正常な状態に戻せる場合があります。

チェック!!

- セーフモードでは、最小限の機能しか使えません。
- セーフモードで起動した後、「スタート」メニューの「終了オプション」から「再起動」をクリックし、再起動して問題がなければ正常な状態に戻ります。

1 **パソコン本体の電源を入れる**

2 **「NEC」のロゴ画面が表示されたら、【F8】キーを何回か押す**

「Windows 拡張オプション メニュー」が表示されます。

チェック!!

ディスプレイによっては、「NEC」のロゴ画面が表示されないことがあります。【F8】キーを押せなかったときは、本体の電源を入れた直後に【F8】キーを何回か押してください。

3 **【↑】キー、【↓】キーを使って「セーフモード」を選び、【Enter】キーを押す**

4 **「オペレーティング システムの選択」が表示された場合は、「Microsoft Windows XP Professional」を選んで【Enter】キーを押す**

5 **ユーザー選択の画面が表示された場合は、適当なユーザー名を選んでクリックする**

「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。

6 **「はい」をクリックする**

これで、パソコンはセーフモードで起動しました。続けて「ディスクのチェック」などのトラブル解決を行うときは、「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」で調べてみてください。

この方法でトラブルが解決しなかった場合は、次の「データのバックアップを取る」（P.106）で大切なデータをバックアップした後で、「システムを修復してみる」（P.108）へ進んでください。

データのバックアップを取る

システムを修復したり、再セットアップしたりすると、一般に自分で作成した文書や、住所録、電子メール、インターネットの設定などは元には戻せません。これらの作業の前に、大切なデータは必ず「バックアップ-NX」などを使ってバックアップしてください。

参照「バックアップ -NX」→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」

「バックアップ-NX」を使ってバックアップできるものには、次のようなものがあります。

- このパソコンに添付されているアプリケーションで作成したデータ
- インターネット接続の設定

ここでは、ハードディスクの「D ドライブ」にデータをバックアップする手順を説明します。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」、「アプリケーション」、「バックアップ -NX（パソコン乗換機能付）」の順にクリックする

2 「このコンピュータのデータをバックアップまたは復元する」をクリックして、「次へ」をクリックする

3 「機能選択」の「バックアップする」が（オン）になっていることを確認した後、「次へ」をクリックする

4 「バックアップするアプリケーション」欄でデータをバックアップしたいアプリケーションが（オン）になっていることを確認する

5 「バックアップ先ファイル名」を確認する

6 「開始」をクリックする

データのバックアップが始まります。しばらくすると「バックアップは正常終了しました」と表示されます。

7 「閉じる」をクリックし、画面右上の×をクリックする

これでデータのバックアップは終了です。

メモ　バックアップデータをハードディスク以外の場所に保管したいときは、DVD-RAM、DVD-R/RW、CD-R/RW などをご利用ください。

●家族など、複数のユーザーでパソコンを共有している場合

家族など、複数のユーザーでパソコンを共有している場合は、ユーザーの人数分だけバックアップが必要になります。例えばユーザーAとユーザーBで共有している場合は、次の順序でバックアップできます。

① ユーザー A でログオンする→ ② 上記の手順 1 から手順 7 を行う→ ③ ユーザー B でログオンする→ ④② と同じ操作を行う

ユーザーの切り替えは、「スタート」ボタン、「ログオフ」、「ユーザーの切り替え」の順にクリックすると表示される「ようこそ」画面で行います。

チェック!!

「バックアップ -NX」では、複数ユーザーのデータを同時にバックアップすることはできません。

「バックアップ-NX」では別売のアプリケーションで作成したデータのバックアップを取るように設定もできます。詳しくは、「ぱそガイド」の「パソコンでできること」-「バックアップ-NX」をご覧ください。
なお、アプリケーションによっては、「バックアップ-NX」でバックアップできません。詳しくは、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「50音別目次」-「パソコンのデータ移動」の「アプリケーションのデータを移す」をご覧ください。

システムを修復してみる

ここに示した方法では、壊れてしまったWindowsのシステムだけを復旧するので、「マイドキュメント」に保存したデータファイルなどの多くは、そのまま残しておけます。再セットアップの前に、この方法で復旧を試みることをおすすめします。

「システムの復元」をしてみる

「システムの復元」の機能を使うと、トラブルが発生する前の「復元ポイント」を指定して、その時点での Windows システムの状態を復元できます。

メモ　このパソコンでは、ご購入後最初の「セットアップ」作業を行ったときに、自動的に復元ポイントが作成されるようになっています。

チェック!!

- システムの復元を行うときは、あらかじめ起動中のアプリケーションを終了させてください。
- セーフモードでは、復元ポイントの作成はできません。

1 **「スタート」ボタンから、「すべてのプログラム」、「アクセサリ」、「システムツール」、「システムの復元」の順にクリックする**

「システムの復元」画面が表示されます。

2 **「コンピュータを以前の状態に復元する」が(オン)になっていることを確認して、「次へ」をクリックする**

「復元ポイントの選択」画面が表示されます。

3 **カレンダーから適当な日付を選ぶ**

4 **復元ポイントを選ぶ**

画面右のカレンダーに表示されている時間のうち、適当な時間を選びます。

5 **「次へ」をクリックする**

「復元ポイントの選択の確認」の画面が表示されます。

6 **内容を確認して「次へ」をクリックする**

選択した「復元ポイント」の時点にさかのぼって、パソコンのシステムが復元されます。

7 **「OK」をクリックする**

前回正常起動時の構成を使用してシステムを修復する

セーフモードでもパソコンが起動できず、「システムの復元」が行えなかった場合でも、次の操作で起動できる場合があります。この操作を行うと、最後にWindowsが正常に動いていたときのシステム状態で Windows が起動されます。詳しくは、「スタート」ボタン-「ヘルプとサポート」-「問題を解決する」-「問題のトラブルシューティング」-「前回正常起動時の構成を使ってコンピュータを起動する」をご覧ください。

1 パソコンの電源を入れる

2 「NEC」のロゴ画面が表示されたら、【F8】キーを何回か押す

「Windows 拡張オプション メニュー」が表示されます。

チェック!!

ディスプレイによっては、「NEC」のロゴ画面が表示されないことがあります。【F8】キーを押せなかったときは、本体の電源を入れた直後に【F8】キーを何回か押してください。

3 「前回正常起動時の構成」を選択し、【Enter】キーを押す

「オペレーティングシステムの選択」の画面が表示された場合は、「Microsoft Windows XP Professional」を選んで【Enter】キーを押してください。
これで、前回正常起動時の構成を使用して Windows XP が起動します。

再セットアップする

再セットアップを行うと、このパソコンのハードディスクの C ドライブの内容をご購入時と同じ状態に戻すことができます。

チェック!!

- 再セットアップは中断しないでください。もし、中断したときは、最初からやり直してください。
- 再セットアップにかかる時間はモデルによって異なります。それぞれ、再セットアップ中に表示される画面で確認してください。

1 必要なものを準備する

再セットアップの作業をはじめる前に、このパソコンに添付されている次のものを準備してください。

- 「Microsoft® Office XP Personal」CD-ROM（Office XP モデルのみ）
- 『はじめにお読みください』

準備するものは、モデルによって異なります。再セットアップ中に表示される「再セットアップの準備」の画面で確認して、すべて準備してください。また、このパソコンを購入後に自分でインストールしたアプリケーションを使うときは、そのインストール用ディスクも準備しておくとよいでしょう。

2 バックアップしたデータを確認する

「データのバックアップを取る」(P.106)で D ドライブにバックアップしたデータの内容を、もう一度確認してください。バックアップに失敗していたり、バックアップし忘れたデータが見つかった場合は、バックアップを取り直してください。

3 インターネットや LAN などの設定を控える

インターネットを使っているときは、インターネットの ID やアドレスなど、インターネット接続に必要な情報をメモしてください。「バックアップ-NX」を使うと、電話回線を使ってインターネットへ接続するときに設定する情報の一部をバックアップできます。

参照「バックアップ -NX」について→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」

チェック!!

- 再セットアップしても、サインアップで得たインターネットの ID などは無効にはなりません。必ず書き留めて、あとで設定し直してください。
- ダイヤルアップネットワークのパスワードはバックアップされません。

4 ユーザー名を控える

●家族など、複数のユーザーでパソコンを共有している場合

家族など、複数のユーザーでこのパソコンを共有している場合は、必ずパソコンを共有しているユーザー名すべてを正しく控えてください。「8 Windows XP の設定をする」（P.112）で登録するユーザー名が一致しなかったユーザーのデータは復元できません。

	ユーザー名
1 人目	
2 人目	
3 人目	
4 人目	
5 人目	

5 BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの設定を変更した場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動して、BIOSの設定を初期値(デフォルト値)に戻してください。なお、初期値に戻す前に、現在の設定内容をメモに取るなどして控えておくことをおすすめします。

参照 BIOSの設定を初期値に戻すには→ PART3の「BIOSセットアップユーティリティ」(P.68)

6 別売の周辺機器(メモリ、プリンタ、スキャナなど)を取り外す

別売の周辺機器は、すべて取り外してください。
『はじめにお読みください』をご覧になって、このパソコンに付属していた機器のみを接続した状態にしてください。
USBカメラセットモデルの場合、USBカメラも取り外してください。

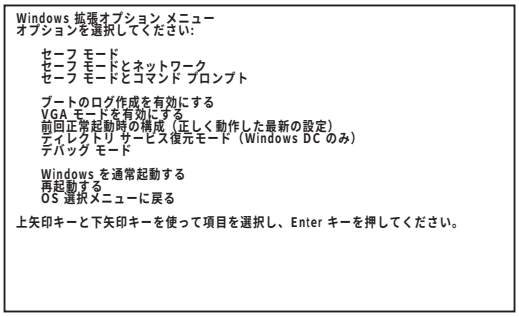
チェック!!

外付けのハードディスクドライブなどを接続したまま再セットアップを行うと、ハードディスク内のデータが削除される場合があります。

7 システムを再セットアップする

① パソコンの電源を入れます。

② 「NEC」のロゴ画面が表示されたら、「Windows 拡張オプション メニュー」が表示されるまで【F8】キーを何回か押します。



チェック!!

- 手順②で左の画面が表示されずにWindowsが起動してしまった場合は、いったんWindowsを終了し、もう一度手順①からやり直してください。
- ディスプレイによっては、「NEC」のロゴ画面が表示されないことがあります。【F8】キーを押せなかったときは、本体の電源を入れた直後に【F8】キーを何回か押してください。

③ 「Windows 拡張オプション メニュー」が表示されたら、「OS選択メニューに戻る」を選んで、【Enter】キーを押します。

④ 「オペレーティングシステムの選択」の画面が表示されたら、「VALUESTAR Recovery System」を選んで【Enter】キーを押します。

⑤ 「再セットアップとは」の画面が表示されたら、【Enter】キーを押します。

⑥ 「準備するもの」の画面が表示されたら、【↓】キー、【↑】キーを使って<次へ>を選び、【Enter】キーを押します。

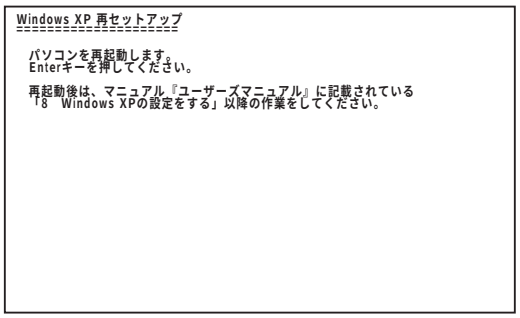
⑦ 「再セットアップを始める前に」の画面が表示されたら、【↓】キー、【↑】キーを使って<次へ>を選び、【Enter】キーを押します。

⑧「再セットアップを開始」の画面が表示されたら、【↓】キー、【↑】キーを使って＜再セットアップを開始する＞を選び、【Enter】キーを押します。
再セットアップが始まります。

チェック!!

- 再セットアップにかかる時間はモデルによって異なります。手順⑧の「再セットアップを開始」の画面で確認してください。
- 再セットアップがはじまったら、画面からの指示がない限り、パソコン本体の電源スイッチを押さないでください。再セットアップ中に数回ビープ音(ピーという音)が鳴ることがありますが、これは再セットアップの処理が正しく進んでいることを示すもので、故障ではありません。

⑨ しばらくして画面に「パソコンを再起動します。Enterキーを押してください。」と表示されたら、【Enter】キーを押します。



システムが再起動します。次の「8 Windows XP の設定をする」に進んでください。

チェック!!

上の画面が表示されなかったときは、再セットアップが正常に行われていません。前ページの手順① からやり直してください。

8 Windows XP の設定をする

手順⑪で登録するユーザー名は、『はじめにお読みください』で控えたユーザー名と同じものにしてください。また、再セットアップする前に複数のユーザーでこのパソコンを共有していた場合は、「4 ユーザー名を控える」(P.110)で控えたユーザー名を、再セットアップした後に登録してください。ユーザー名が再セットアップする前のものと一致しない場合は、そのユーザーのデータは復元できません。

① 「Microsoft Windowsへようこそ」の画面が表示されていることを確認します。

② 「次へ」をクリックします。
「使用許諾契約」の画面が表示されます。

③ 「同意します」の左の○をクリックして◉にして、「次へ」をクリックします。
「コンピュータに名前を付けてください」の画面が表示されます。

④ 「次へ」をクリックします。
「管理者パスワードを設定してください」の画面が表示されます。

メモ
- ここでコンピュータ名をつけても構いません。入力するときは、半角英数字を使ってください。
- コンピュータ名はセットアップ後にも変更できます。詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」で「コンピュータ名」で検索し、「コンピュータ名を変更する」の項目をご覧ください。

⑤ 「管理者パスワード」の欄をクリックして、管理者パスワードを入力します。

メモ
- パスワードは覚えやすく、忘れないようなものにしてください。
- パスワードには大文字 / 小文字の区別があります。
- 入力したパスワードは「●」で表示されます。

⑥ 「パスワードの確認入力」の欄をクリックして、もう一度同じパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。
- 「このコンピュータをドメインに参加させますか？」の画面が表示された場合→手順 ⑦ へ進む
- 「インターネット接続が選択されませんでした」または、「インターネットに接続する方法を指定してください」の画面が表示された場合→手順 ⑧ へ進む

⑦ 「いいえ、このコンピュータをドメインのメンバにしません」の左の○が◉になっていることを確認して、「次へ」をクリックします。
コンピュータをドメインに参加させる場合は、セットアップ終了後に設定してください。設定方法については、「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」で「ドメイン」を検索し、「ドメインに参加する」の項目をご覧ください。

⑧ 「インターネット接続が選択されませんでした」または、「インターネットに接続する方法を指定してください。」の画面が表示された場合は、「省略」をクリックします。

⑨ 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか?」の画面が表示された場合は、「いいえ、今回はユーザー登録しません」の○をクリックして◉にして、「次へ」をクリックします。
ユーザー登録はセットアップが終わった後で、「ユーザー登録ウィザード」で行うことができます。詳しくは「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」で「ユーザー登録」を検索し、「オンラインユーザー登録を使用する」の項目をご覧ください。

⑩ 「今すぐインターネット アクセスのセットアップを行いますか?」の画面が表示された場合は、「いいえ、今回はインターネットに接続しません」の○をクリックして◉にして、「次へ」をクリックします。
「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」の画面が表示されます。

チェック!!
インターネット接続の設定は、セットアップ終了後に行ってください。

⑪ 『はじめにお読みください』で控えたユーザー名を「ユーザー1」欄に正確に入力して、「次へ」をクリックします。
「設定が完了しました」の画面が表示されます。
ここでは、「ユーザー 1」欄のみ入力してください。ユーザー名は後で追加や変更ができます。
詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」をご覧ください。

⑫「完了」をクリックします。
しばらくすると、Windowsのデスクトップ画面上に「パソコンの診断が終了しました。」の画面が表示されます。

⑬「次へ」をクリックします。
「パソコンの設定をしてください。」の画面が表示されます。

⑭「標準(推奨)」を選択して、「次へ」をクリックします。
パソコンの設定が行われ、Windows が再起動します。
これで Windows XP の設定は終了です。

メモ ここで「最小」を選択した場合は、パソコンの設定が異なります。詳しくは『はじめにお読みください』をご覧ください。

Office XP モデルの場合は、次の「9 Office XP Personal を再セットアップする」に進んでください。
Office XP モデル以外の場合は、「10 別売の周辺機器(メモリ、プリンタ、スキャナなど)を取り付けて設定し直す」(P.116)に進んでください。

9 Office XP Personalを再セットアップする(Office XP モデルの場合)

Office XP モデルをお使いの場合は、Office XP Personal を再セットアップしてください。

◆ Office XP Personalのセットアップ

本機にセットアップされている「Office XP Personal」は、機能を厳選してセットアップされています。必要のない機能を削除する方法や、削除した機能を再追加する方法については、添付の「Office XP Personal」のマニュアルをご覧ください。
ここでは、「カスタム」でご購入時の機能をセットアップする方法を説明します。

①「Microsoft® Office XP Personal」CD-ROMをCD/DVDドライブにセットします。
「Microsoft Office XP セットアップ」ウィンドウが表示されます。
「Microsoft Office XP セットアップ」ウィンドウが自動表示されない場合は、「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」をクリックし、CD-ROM アイコンをダブルクリックしてください。

②「ユーザー情報」(ユーザー名など)を入力します。

③「次へ」をクリックします。
「使用許諾契約書」と表示されます。

④ 内容に同意の上、「「使用許諾契約書」の条項に同意します」の☐をクリックして☑にして、「次へ」をクリックします。
「インストールの種類を指定してください」と表示されます。

⑤「カスタム」の◯をクリックして◉にします。
インストール先を変更する場合は「参照」をクリックし、インストール先を選び、「OK」をクリックしてください。

⑥「次へ」をクリックします。

⑦「アプリケーションごとにオプションを指定してインストールします」の◯をクリックして◉にします。

⑧「次へ」をクリックします。
「Office のアプリケーションとツールのインストール オプションを指定してください」と表示されます。

⑨「Microsoft Office」の左側に表示されているアイコンをクリックします。
プルダウンメニューが表示されます。

⑩「マイコンピュータからすべて実行」をクリックします。

⑪「Microsoft Excel for Windows」-「読み上げ」の左側に表示されているアイコン をクリックします。
プルダウンメニューが表示されます。

チェック!!
灰色で表示されたフォルダがないことを確認してください。灰色で表示されているフォルダがあった場合は、手順⑨からやり直してください。

⑫「インストールしない」をクリックします。

⑬「Office共有機能」-「入力システムの拡張」-「音声」の左側に表示されているアイコン をクリックします。
プルダウンメニューが表示されます。

⑭「インストールしない」をクリックします。

⑮「Office共有機能」-「入力システムの拡張」-「IME」-「IME パッド アプレット」-「音声アプレット」の左側に表示されているアイコン をクリックします。
プルダウンメニューが表示されます。

⑯「インストールしない」をクリックします。

⑰「次へ」をクリックします。
「インストールを開始します」と表示されます。

⑱「完了」をクリックします。
インストールが始まります。

⑲ 再起動を促すメッセージが表示された場合は「はい」をクリックします。
Windows が再起動します。
「Microsoft Office XP Personal セットアップが正常に終了しました。」と表示された場合は「OK」をクリックします。

次に「Office XP Service Pack 1」をインストールします。
「Office XP Service Pack 1」について詳しくは、マイクロソフトのホームページをご覧ください。
http://www.microsoft.com/japan/office/downloads/xpsp1/

⑳ デスクトップの「Office XP Service Pack 1」アイコンをダブルクリックします。
「このアップデートプログラムをインストールしますか?」と表示されます。

㉑「はい」をクリックします。
「使用許諾契約」の画面が表示されます。

㉒ 内容を確認して、「はい」をクリックします。
インストールがはじまります。インストールには数分かかることがあります。しばらくお待ちください。

㉓「選択した機能はCD-ROM、または現在使用できないほかのリムーバブル ディスクにあります。」と表示された場合は、「Microsoft® Office XP Personal」CD-ROMをCD/DVDドライブにセットして、「OK」をクリックします。

㉔「アップデートは正常に適用されました。」と表示されたら、「OK」をクリックします。

㉕ CD/DVDドライブから、「Microsoft® Office XP Personal」CD-ROMを取り出します。
これで Office XP を使う準備ができました。

◆ 再セットアップ後、Office XP Personalを利用するときの注意

パソコンの再セットアップ後、Office XP Personalの各アプリケーション(WordやExcelなど)を最初に起動したときに、「Office XP 使用許諾契約書」ウィンドウが表示されます。この場合は、次の手順で、ライセンス認証手続きを行ってください。

チェック!!

ライセンス認証手続きは、必ず、パソコンの再セットアップの作業がすべて終わった後に行ってください。

① 「同意する」をクリックします。
「Microsoft Office XP Personal ライセンス認証ウィザード」が表示されます。

② ウィザードの画面の案内にしたがって、ライセンス認証手続きを行います。
認証手続きのしかたについて、詳しくは添付の「Office XP Personal」のマニュアルをご覧ください。

10 別売の周辺機器（メモリ、プリンタ、スキャナなど）を取り付けて設定し直す

① 「スタート」ボタンをクリックし、「終了オプション」をクリックします。

② 「電源を切る」をクリックします。
パソコンの電源が切れます。

③ 「6 別売の周辺機器(メモリ、プリンタ、スキャナなど)を取り外す」(P.111)で取り外した別売の周辺機器を取り付けて、それぞれのセットアップや設定を行います。

11 購入後に行ったインターネットなどの設定をやり直す

パソコン購入後に行った設定は、再セットアップによってすべて購入時の状態になっているので、設定し直してください。
インターネットやLANを使っていたり、BIOSの設定を変更したりしていたときは、「3 インターネットやLANなどの設定を控える」(P.110)であらかじめとっておいたバックアップや設定、控えたメモの設定に戻してください。
「バックアップ-NX」を使ってインターネットの設定をバックアップしていた場合は、簡単にインターネットなどの設定を元に戻すことができます。
IDやアドレスはすでに取得しているものを使えます。サインアップをやり直す必要はありません。

参照 インターネットの再設定→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「バックアップ-NX」

12 別売のアプリケーションをインストールし直す

パソコン購入後にインストールしたアプリケーションも消去されているので、インストールし直してください。

13 バックアップしたデータを復元する

「データのバックアップを取る」(P.106)でバックアップしたアプリケーションのデータを復元してください。
詳しい手順については、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「バックアップ-NX」をご覧ください。

PART 6

BTO オプションガイド

FAX モデムボードガイド ····· 118
ヘッドフォンマイク /USB カメラガイド ····· 120
2.4GHz ワイヤレス LAN ガイド ····· 124

FAXモデムボードガイド

ポイント

- このパソコンに内蔵のFAXモデムボードは、データ通信で最大56Kbps(K56flex™、V.90)、FAX通信で最大14.4Kbps(V.17)の速度まで対応しています。
- このパソコンを電話回線に接続するためのケーブルは、2mの長さのものが添付されています。添付のモジュラーケーブルでは長さが足りない場合は、電器店などで必要な長さのモジュラーケーブルをお買い求めください。
- 2つ並んでいるコネクタのうち、電話回線のケーブルは左側の⎍マークが付いているコネクタに、電話機のケーブルは右側の☎マークが付いているコネクタに接続します。

電話回線に接続する

⚠注意

感電注意

モジュラーケーブル(電話線)の取り外しや接続を行うときは、プラグの端子部分に触れないでください。

感電の原因になります。

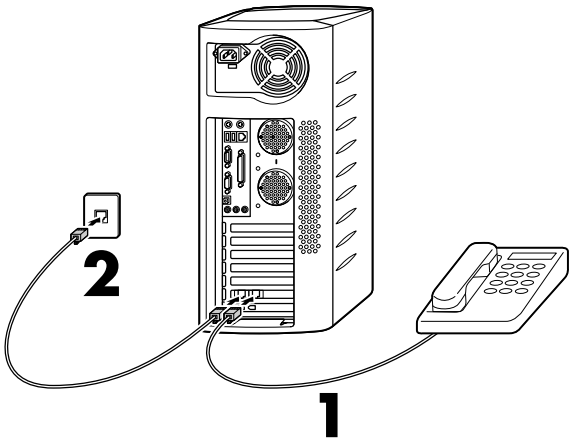
発火注意

内蔵のFAXモデムは、一般の電話回線のみ対応しています。一般の電話回線以外に接続しないでください。

故障、発熱の原因になります。

1 電話機につながっているモジュラーケーブルを、壁などのモジュラーコンセントから外し、向きに気をつけて、本体背面の☎の付いたコネクタに差し込む

2 添付のモジュラーケーブルのプラグを、向きに気をつけて、本体背面の⎍の付いたコネクタに差し込み、もう一方のプラグを壁などのモジュラーコンセントに差し込む



チェック!!

- このパソコンの背面には品マークの付いたLAN コネクタがあります。このコネクタは、100BASE-TX/10BASE-TLAN に対応したネットワーク機器を接続するときに使うものです。間違ってモジュラーケーブルを接続しないように注意してください。
- パソコンと電話回線をつなぐモジュラーケーブルや、電話機とパソコンをつなぐモジュラーケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。うまく配線できないときは、お近くの電話工事店やパソコンのご購入元などにご相談ください。

ヘッドフォンマイク/USBカメラガイド

ポイント

- インターネット電話やボイスチャット、テレビ電話を使う時にヘッドフォンマイクとUSBカメラを使います。
- Windows Messengerについては、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「Windows Messenger」またはWindows Messengerのヘルプをご覧ください。
- ヘッドフォンマイクの音量の調節のしかたについて詳しくは、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「サウンドの設定」をご覧ください。

ヘッドフォンマイクを接続する

⚠警告

注意

マイクカバーは、小さなお子様が誤って飲み込まないように注意してください。万一飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

⚠注意

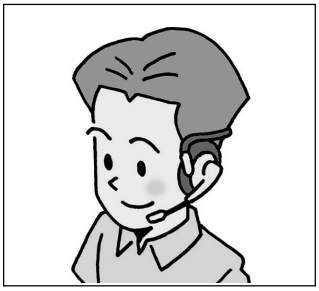
注意

ヘッドフォンマイクをお使いになるときは、音量を上げすぎないように注意してください。

大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与えることがあります。

ヘッドフォンマイクを耳に装着した状態で、プラグの抜き挿し、パソコン本体の電源の入切、省電力状態/復帰の操作をしないでください。

聴力に悪い影響を与えることがあります。

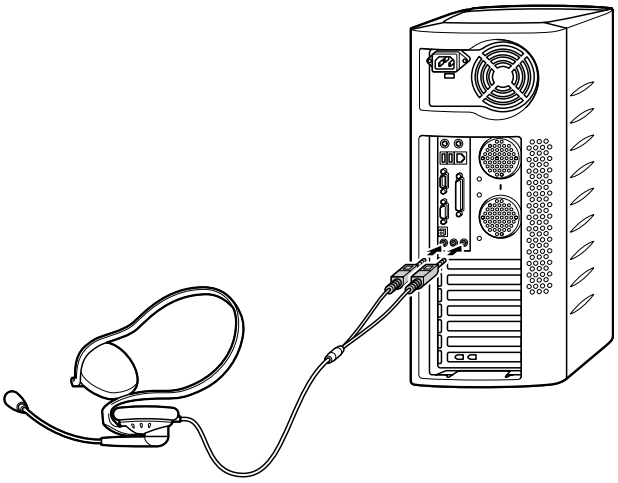


ヘッドフォンマイクを使うときは、後頭部から両耳にヘッドフォン部をかけ、マイク部を口元に向けます。

チェック!!

- 音声出力端子の使用は、外付けスピーカまたはセットの液晶ディスプレイに添付のオーディオケーブルと排他になります。
- ヘッドフォンマイクで音量を調節した後でスピーカを接続すると、スピーカから出る音が大きくなっていることがあります。スピーカを使うときは、音を小さくしてから接続してください。

1 **ヘッドフォンマイクの(黒色)のプラグを本体背面の(( ))の付いたコネクタに差し込み、(桃色) のプラグをの付いたコネクタに差し込む**



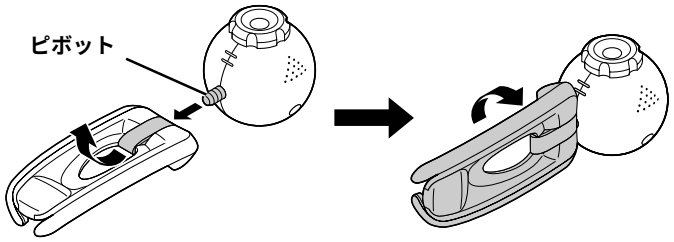
USB カメラを接続する

USBカメラを三脚に取り付けて使います。三脚の脚を広げてカメラを固定し、続いてUSBカメラのケーブルを本体前面の USB コネクタに接続します。

◆ USB カメラを三脚に取り付ける

1 **ネジ穴がUSBカメラに向くように三脚の芯部を回転させ、ピボットをネジ穴にまっすぐ差し込む**

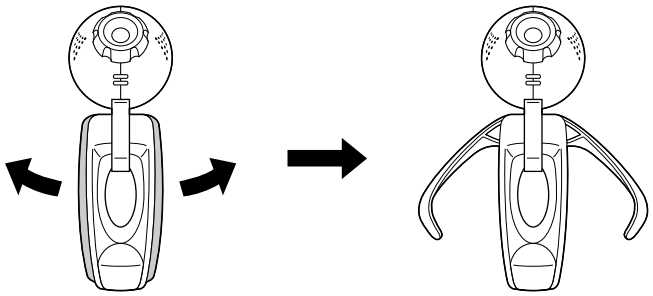
2 **三脚を矢印の向きに回して USB カメラに固定する**



◆ 三脚を広げて USB カメラを設置する

1 三脚の左右の脚を広げる

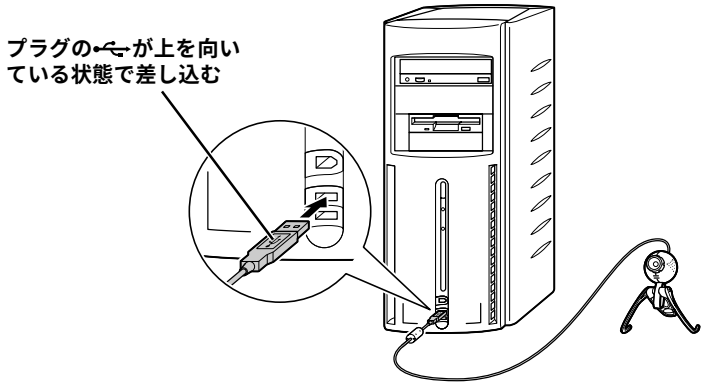
2 広げた状態のまま机の上などに設置する



チェック!!

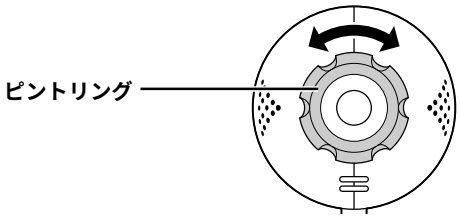
ディスプレイの上にUSBカメラを設置しないでください。また、その他の不安定なところにUSBカメラを設置しないでください。落下して壊れるおそれがあります。

◆ USB カメラのケーブルを USB コネクタに接続する



◆ USB カメラの映像を表示させる

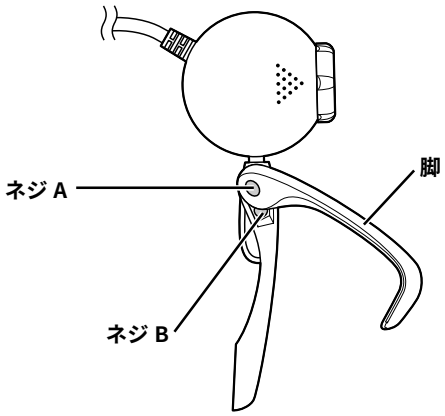
「スタート」-「マイ コンピュータ」をクリックし、「スキャナとカメラ」にある「Logitech QuickCam Express」をダブルクリックすると、USBカメラの映像が表示されます。映像がぼやけているときは、図の「ピントリング」の部分を回すとピントを合わせることができます。このとき、回しきったら反対の向きに回してください。同じ向きに無理に回すと壊れることがあります。



右に回すとより遠くに、左に回すと
より近くにピントが合います

チェック!!

使用している間にUSB カメラの首のネジがゆるんで角度の固定ができなくなることがあります。三脚を止めているネジ A を外して脚を取り外し、ネジ B を締めてください。USB カメラの首が固定されたら、元通り脚を取り付けてネジ A を締めてください。



2.4GHzワイヤレスLANガイド

ポイント

・このパソコンに内蔵の2.4GHzワイヤレスLANボードは、「IEEE802.11b」規格に対応しています。
・規格上は、11Mbpsまでの通信速度に対応していますが、実際の通信はその1/2～1/3程度の速度が最大となります。
・外付けのアンテナを必ず取り付けてください。

2.4GHzワイヤレスLAN機能の紹介

⚠警告

感電注意

埋め込み型心臓ペースメーカーを装着されている方は、本製品をペースメーカー装着部から22cm以上離して使用してください。

けが注意

本製品の電波出力は、携帯電話などに比べて低く抑えられており、医療機器に与える影響はきわめて少ないものですが、使用に際しては各医療機関の指示にしたがってください。

⚠注意

感電注意　けが注意

補聴器を装着されている方は、本製品の使用により、補聴器にノイズなどを引き起こす可能性がありますので、使用前に確認してください。

◆ どんな機器とつなげられるの?

このパソコンの2.4GHzワイヤレスLAN機能は、「IEEE802.11b」という規格に対応しています。このため、相手側の2.4GHzワイヤレスLAN機器も「IEEE802.11b」に対応していればつながります。ただし、一部の機器では、「IEEE802.11b」に対応していても使えないものもあります。機器を購入する前にメーカーや販売店に確認してください。

参照 ・このパソコンの設定について→「2.4GHzワイヤレスLAN機能の設定をする」(P.127)
・相手側機器の設定について→相手側機器添付のマニュアル

なお、次のNEC製品は、このパソコンの2.4GHzワイヤレスLAN機能を使って接続できます。

・無線LANアクセスポイント
- PK-WL002H　無線LANアクセスポイント
- PK-WL003　無線LANアクセスポイントN
- PK-WL005　無線LANアクセスポイントE
- PK-WL007　無線LANアクセスポイントS
- PC-WL20R1　Aterm WL20R
- PC-WB20R1　Aterm WB20R
- PC-WL30A1　Aterm WL30A
- PC-WL50T1　Aterm WL50T
- PC-WB50T1　Aterm WB50T

- PA-WB55TL1　Aterm WB55TL
- PA-WB45RL1　Aterm WB45RL
- PA-WB65DSL1　Aterm WB65DSL
- PA-WBR75H　Aterm WBR75H

・2.4GHz ワイヤレス LAN 周辺機器

- PK-WL001H　無線 LAN カード（11Mbps）
- PK-WL001　無線 LAN カード（11Mbps）
- PK-WL004　無線 LAN USB ボックス（11Mbps）
- PK-WL006　無線 LAN（11Mbps）カード E
- PR-WL-11　無線 LAN プリンタボード
- PR-WL-01　無線 LAN プリンタアダプタ

・2.4GHz ワイヤレス LAN 機能内蔵パソコン

次の 2.4GHz ワイヤレス LAN 機能を持つパソコンとも 2.4GHz ワイヤレス接続できます。

- 2001 年 11 月以降出荷の VALUESTAR、Mate の 2.4GHz ワイヤレス LAN モデル
- 2001 年 7 月以降出荷の LaVie、VersaPro の 2.4GHz ワイヤレス LAN モデル

チェック!!

上記は、2002 年 5 月現在の情報です。その他の製品については、NEC のパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」（http://121ware.com）をご覧ください。

◆ どのくらい離れていても使えるの?

このパソコンと相手側機器の間に壁や障害物が何もない場合は、70m 程度まで通信ができます。ただし、家庭やオフィスには通信の障害になるものがいろいろとあるため、電波が届く距離はもっと短くなります。どんなものが通信の障害になるかは、このページで紹介しています。
また、通信状態が悪くなって通信が途切れそうになると、確実に通信を続けるために通信速度を自動的に低くする機能があります。

◆ 安定して通信するにはどんなことに注意したらいい?

- 相手側機器との距離を近づける
- 相手側機器との間に障害物を置かないようにする
- 添付のアンテナを高い位置に置くなど設置場所を変えてみる
- 金属製のパソコンラックなどにこのパソコンを設置しない
- 電子レンジが近くにあるときは、電子レンジから遠ざける
- Bluetooth 対応機器が近くにあるときは、Bluetooth 機能をオフにする

◆ どのくらいの通信スピードで使えるの?

規格上は、11Mbps が最大の通信速度です。しかし、一般にその 50%以下の速度で通信が行われます。また、電波の状況や相手側機器との距離などによっても通信速度は大きく変動します。
現在の通信速度は、画面右下の をダブルクリックして表示される画面で調べることができます。

◆ 盗聴されたり、無関係なパソコンとつながったりしない?

このパソコンに内蔵の 2.4GHz ワイヤレス LAN 機能は、データを暗号化したり、決められた相手としか通信しないための「WEP 機能」を持っています。WEP 機能には「64 ビット対応」のものと「128 ビット WEP 対応」のものがあり、このパソコンに内蔵の 2.4GHz ワイヤレス LAN 機能は、より安全な「128 ビット WEP」に対応しています。
WEP 機能の設定は、電子マニュアル「ぱそガイド」の「パソコンでできること」-「50 音別目次」-「ワイヤレス LAN の設定」で説明しています。

また、このパソコンにインストールされているファイアウォールソフトの「PCGATE Personal」を使えば、外部からの不正なアクセスの多くを防ぐことができます。

チェック!!

WEP 機能を使うには、相手側機器も WEP 機能に対応している必要があります。

参照 PCGATE Personal について→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」

アンテナを取り付ける

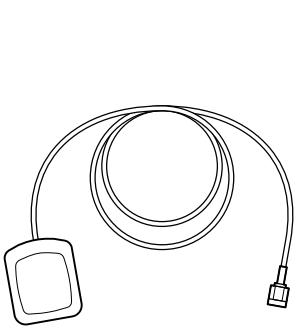
ワイヤレス LAN 機能を使う前に、まず添付のアンテナを取り付けます。

1 本体の電源を切り、接続されているすべてのケーブルを取り外す

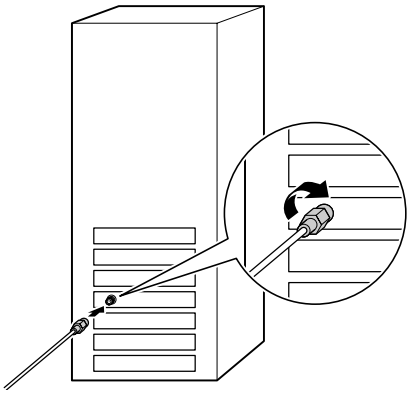
2 Y と書かれているコネクタに添付のアンテナのプラグを差し込む

コネクタ中心部の小さな穴に、プラグの中心にある金属線を差し込んでください。

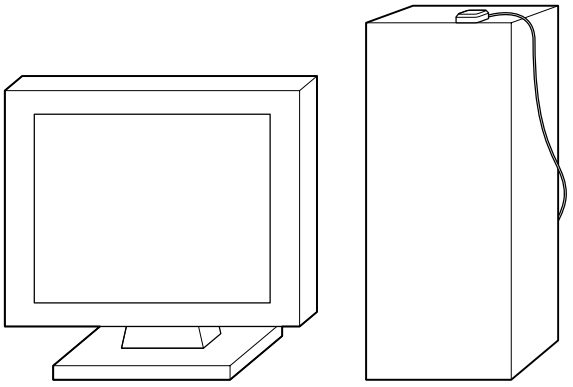
3 プラグの先端のネジを右に回し、止まるまでしっかり固定する



添付のアンテナ



4 アンテナをパソコン本体の上などに置く



5 手順 1 で取り外したケーブルをすべて取り付ける

2.4GHz ワイヤレス LAN 機能の設定をする

2.4GHz ワイヤレス LAN 機能の設定は、電子マニュアル「ぱそガイド」の「パソコンでできること」-「50 音別目次」-「ワイヤレス LAN の設定」で説明しています。

チェック!!

ネットワークの設定は、「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーでログオンして行ってください。「制限付き」アカウントでは、一部の設定ができません。

2.4GHz ワイヤレス LAN Q&A

◆ 接続相手と接続できない

- **アンテナは接続されていますか？**

  「アンテナを取り付ける」（P.126）をご覧になり、アンテナを取り付けてください。また、アンテナのネジを回してしっかりと取り付けられていないと、ワイヤレスLAN機能が使えないことがあります。

- **ネットワークの設定は済んでいますか?**

  「ぱそガイド」の「パソコンでできること」-「50 音別目次」-「ワイヤレス LAN の設定」をご覧になり、設定をしてください。

- **相手側2.4GHzワイヤレスLAN対応機器は、このパソコンと接続できるタイプですか?**

  「どんな機器とつなげられるの?」（P.124）をご覧になり、このパソコンと接続できるかどうか確認してください。

- **セキュリティの設定は間違いありませんか?**

  このパソコンと接続相手先に同じ暗号キーが設定されていないと、正常に通信ができません。「ぱそガイド」の「パソコンでできること」-「50 音別目次」-「ワイヤレス LAN の設定」をご覧になりセキュリティの設定を確認してください。

◆ 通信速度が遅い、通信が途切れる

「安定して通信するにはどんなことに注意したらいい?」（P.125）をご覧になり、パソコン本体の向きや周囲の環境を改善してみてください。

- **電子レンジを使用していませんか?**

  周囲で電子レンジを使用していると、2.4GHzワイヤレスLAN対応機器の通信速度、通信距離が低下する場合があります。2.4GHzワイヤレスLAN対応機器と電子レンジは離して使用することをおすすめします。

- **複数のパソコンでネットワーク接続していませんか？**

  2.4GHzワイヤレスLAN機能で接続するパソコンの台数が増えると、1台あたりの転送速度が低下する場合があります。

◆ ネットワークの設定ができない

ネットワークの設定は、「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーでログオンして行ってください。「制限付き」アカウントでは、一部の設定ができません。

付　録

パソコンのお手入れ …… 130
アフターケアについて …… 132
譲渡、廃棄、改造について …… 133
再セットアップ用 CD-ROM について …… 135
アプリケーションのサポート窓口一覧 …… 141
仕様一覧 …… 142
索　引 …… 154
トラブルチェックシート …… 157

パソコンのお手入れ

パソコンは精密機械なので、日頃のお手入れが欠かせません。マウスやキーボードも、こまめに清掃することで長く快適に使用できます。

⚠注意

感電注意

お手入れの前には、パソコンの電源を切り、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

感電の原因になります。

準備するもの

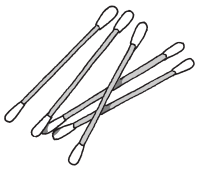
■ 軽い汚れのとき
乾いたきれいな布

■ 汚れがひどいとき
水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布

■ フロッピーディスクドライブをクリーニングするとき
クリーニングディスク

クリーニングディスクについては、ご購入元またはNECに問い合わせてください。

■ マウスをクリーニングするとき
綿棒



チェック!!

- **OA機器用クリーニングキットも汚れをふきとるのに便利です。OAクリーニングキットについては、ご購入元またはNECに問い合わせてください。**
- **シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や揮発性の有機溶剤を含む化学ぞうきんは、使わないでください。キーボードを痛めたり、故障の原因になります。**
- **水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。**

参照 NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』

清掃する

※図はイメージです。このパソコンに標準で添付されている機器の構成は、お買い上げのモデルによって異なります。

パソコン本体、外付けスピーカ
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

パソコンの内部
長期間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。パソコン内部の清掃については、ご購入元またはNECにお問い合わせください。

フロッピーディスクドライブ、CD/DVDドライブ
クリーニングディスクを使ってクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

電源ケーブル
電源ケーブルのプラグを長期間コンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にやわらかい布でふいて、清掃してください。

ディスプレイ
やわらかい布でふいてください。
化学ぞうきんやぬらした布は使わないでください。

マウス
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

マウスの内部
マウスポインタの動きが悪いときは、次ページをご覧になり、ボールとローラーもクリーニングしてください。

キーボード
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。
キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。
ゴミが取れないときは、ご購入元またはNECにお問い合わせください。

リモコン（TVモデルのみ）
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。
ボタンのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。
ゴミが取れないときは、ご購入元またはNECにお問い合わせください。

マウスのローラーやボールのクリーニング

マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスの反応が悪くなります。油分が付着すると故障の原因になる場合もあります。とくにローラーは汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングしてください。

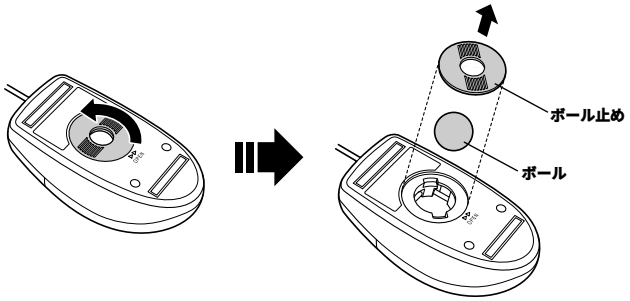
チェック!!

- モデルによりマウスの形状は異なりますが、操作は同様です。
- 取り外したボールやボール止めは、お子さまが誤って飲みこんだりしないよう、ご注意ください。

1 パソコンの電源を切り、マウスのケーブルを外す

2 マウス裏側のボール止めを下図の矢印の方向に回す

3 ボール止めを取り外し、ボールを取り出す

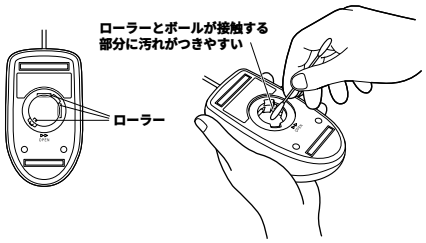


4 中性洗剤でボールを洗って汚れを落とす

洗った後は、かならず水で中性洗剤を洗い落とし、乾いた布で水分をふき取ってよく乾燥させてください。

5 マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす

汚れが落ちにくいときは、やわらかい歯ブラシなどで汚れを取ってください（このとき、歯ブラシに水やはみがき粉などをつけないでください）。



6 ボールをマウスに戻し、ボール止めを取り付けて手順3と反対の方向に回して固定する

7 マウスのケーブルを元通りに取り付ける

チェック!!

- クリーニング中にマウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- クリーニングの際にマウスから取り外した部品は、なくさないようにしてください。
- 水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装をいためたり、故障の原因となったりします。
- ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。

アフターケアについて

保守サービスについて

保守サービスのご相談は、ご購入元、NEC フィールディングの各支店、営業所などで承っています。詳しくは『121ware ガイドブック』をご覧ください。

チェック!!

ご購入元、NECフィールディングの各支社、営業所などに本機の修理を依頼される場合、設定したパスワードは解除しておいてください。

消耗品 / 消耗部品について

本製品には、消耗品と消耗部品が含まれており、長時間使用を継続した場合、早期の部品交換が必要となります。
消耗品と消耗部品は次の通りです。

種類	種類の内容説明	該当品または部品（代表例）
消耗品	使用頻度や使用量により消耗します。本体の保証期間内に関わらず、お客様自身で購入し、交換していただくものです。	CD-ROM 媒体等
消耗部品	使用頻度あるいは経過年数により消耗、摩耗し修理ができなくなる部品です。本体の保証期間内であっても部品代が有料の場合があります。詳しくは NEC フィールディングの各支店、営業所などにご相談ください。	ディスプレイ、ファン、ハードディスク、キーボード、マウス、ＣＤ / ＤＶＤ ドライブ、フロッピーディスクドライブ

- 本製品の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後 7 年です。
- 記載部品は代表例です。機種により構成が異なります。詳しくは「仕様一覧」（P.142）をご覧ください。
- 消耗部品の消耗時期は、1 日 8 時間のご使用で約 5 年が目安です（ご使用環境により差があります。また、故障しないことを保証するものではありません）。

譲渡、廃棄、改造について

この製品を譲渡するには

この製品を第三者に譲渡する場合は、所定の条件にしたがってください。
また、譲渡を受けられた場合には、所定の手続きにしたがって、お客様登録（ユーザ登録）を行ってください。

チェック!!

- パソコン内のデータには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように譲渡の際には、これらの情報を削除することをおすすめします。
- ハードディスクに一度記憶されたデータは、「ごみ箱」から削除したり、フォーマットしても復元できる場合があります。市販のソフト（別売）などを使うとデータを消せます。

◆ 譲渡するお客様へ

本製品を第三者に譲渡（売却）される場合は以下の条件を満たす必要があります。

1 本体に添付されているすべてのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと

2 各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと

3 譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、削除したあと、譲渡すること（本体に添付されている「ソフトウェア使用条件適用一覧」をご覧ください）

※第三者に譲渡（売却）される製品をお客様登録（ユーザ登録）している場合は、121ware（ワントゥワンウェア）登録センター（TEL:0120-469-121）までご連絡のうえ、必ず登録削除の手続きをお願いします。

◆ 譲渡を受けるお客様へ

お客様登録（ユーザ登録）に必要な以下の事項を記入し、官製ハガキまたは封書でお送りください。
あるいは、121ware.comのマイアカウント(http://121ware.com/my/)にアクセスし、「新規登録」で121コミュニケーションIDを取得した後に、保有商品情報の「新規・追加登録」で登録することもできます。

記載内容

1 本体型番および保証書番号（本体背面、側面または保証書に記載の型番および製造番号）

2 あなたの氏名、住所、電話番号

宛先

〒183-8501 東京都府中市日新町1-10（NEC府中事業場）
121ware登録センター係

このパソコンを廃棄するには

このパソコンの所有者が個人の場合（一般廃棄物として廃棄）

廃棄方法に関しては、市町村等の各自治体にお問い合わせください(2002年5月現在)。

チェック!!

- 添付されたマニュアルに記載されている方法以外で機器を改造された場合、その機器を引き取ることができない場合があります。
- パソコン内のデータには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように、廃棄の際にはこれらの情報を削除することをおすすめします。
- ハードディスクに一度記憶されたデータは、「ごみ箱」から削除したり、フォーマットしても復元できる場合があります。市販のソフト(別売)などを使うとデータを消せます。

このパソコンの所有者が事業者の場合（産業廃棄物として廃棄）

当社は資源有効利用促進法に基づき、積極的に当社の回収・リサイクルシステムにしたがって、資源の有効利用につとめていきますので、下記のホームページで紹介している窓口にお問い合わせください。
http://www.nec.co.jp/eco/ja/recycle/renrakusaki.html

このパソコンの改造

添付されているマニュアルに記載されている以外の方法で、このパソコンを改造・修理しないでください。
記載されている以外の方法で改造・修理された製品は、当社の保証や保守サービスの対象外となることがあります。

再セットアップ用CD-ROMについて

ここでは、このパソコンで作成できる「再セットアップ用CD-ROM」の概要とその作り方、および使い方について説明しています。ハードディスクの知識があまりない方は、この方法での再セットアップを行わないでください。

このパソコンには、「再セットアップ用 CD-ROM」は添付されていません。ご自分で作成していただく必要があります。

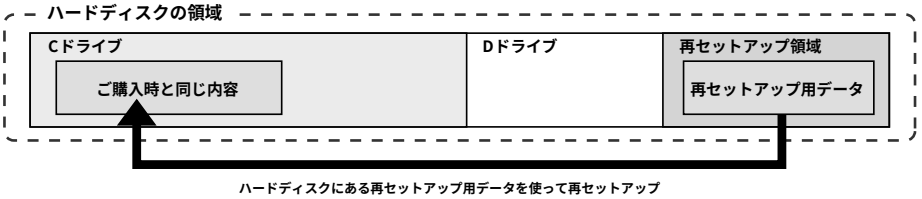
チェック!!

- CD-ROM ドライブでは、「再セットアップ用 CD-ROM」を作成できません。
- 制限ユーザーは「再セットアップ用 CD-ROM」を作成できません。

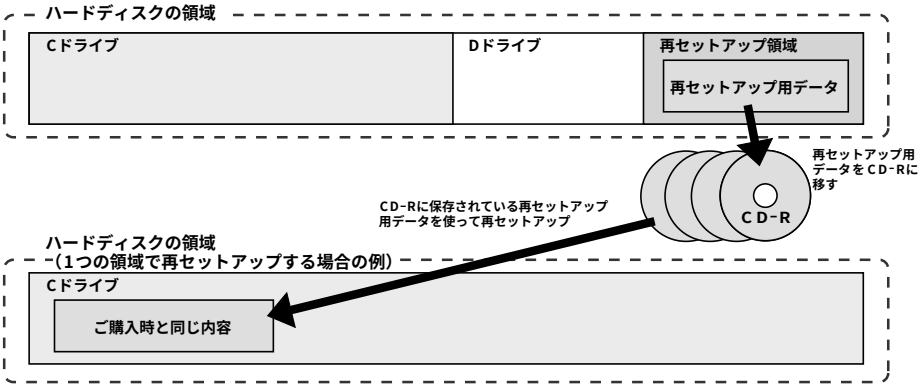
参照 再セットアップについて→「PART5　再セットアップ」(P.103)

再セットアップ用 CD-ROM とは

このパソコンは、次のように、ハードディスク内の「再セットアップ領域」に保存されている再セットアップ用データを使って、再セットアップを行うしくみになっています。



通常は、「PART5　再セットアップ」(P.103)をご覧になり、上記の方法で再セットアップしてください。
ただし、C ドライブの領域(サイズ)を大きくしたり、領域の分け方を自由に設定できません。そのような場合に、ここで紹介する、「再セットアップ用 CD-ROM」を使った再セットアップ方法を利用できます。



この「再セットアップ用CD-ROM」を使った再セットアップ方法は、次のような場合にのみ利用してください。

- C ドライブのみ再セットアップしたいとき
- ハードディスクの領域をすべて C ドライブで使いたい（1 パーティションにしたい）とき
- ハードディスクの領域を自由に作成したい（ドライブ数を増やしたい）とき

再セットアップ用 CD-ROM を作成する

準備

再セットアップ用CD-ROMを作成するときは、「RecordNow DX」というソフトウェアを使います。「RecordNow DX」は、ご購入時にこのパソコンにインストールされていますが、削除してしまっている場合は、あらかじめ追加しておいてください。

参照 RecordNow DX を追加する→「ぱそガイド」-「アプリケーションの追加と削除」

また、再セットアップ用 CD-ROM を作成するために必要な CD-R 媒体の枚数は 5 枚～ 7 枚です。

「再セットアップ用CD-ROM」の作成に必要なCD-R媒体の枚数
5枚～7枚（※）

※お使いのモデルによって必要な CD-R 媒体の枚数は異なります。この後の「再セットアップ用 CD-ROM の作成手順」の手順 4 で表示される画面で確認の上、必要な枚数の未使用の CD-R 媒体をご用意ください。

チェック!!

必ず、700M バイトまたは 650M バイトの「CD-R 媒体」を用意してください。CD-RW 媒体、DVD-R/RW 媒体、DVD-RAM 媒体では、「再セットアップ用 CD-ROM」を作成できません。

作成時の注意

再セットアップ用CD-ROMの作成中に他のアプリケーションソフトが起動していると、CD-Rへの書き込み中にエラーが発生することがあります。作成を開始する前に、次の操作を行っておくことをおすすめします。

- スクリーンセーバーが起動しないように設定する
- 自動的にスタンバイ状態／休止状態にならないように設定する
- 起動中のアプリケーションをすべて終了する
- 常駐プログラムをすべて終了する

再セットアップ用 CD-ROM の作成手順

チェック!!

- 「再セットアップ CD-ROM」の作成には、約 1 ～ 4 時間かかります(お使いのモデルや書き込み速度によって異なります)。
- 作成した「再セットアップ用 CD-ROM」は、何枚目かわかるようにしておいてください。また、紛失したり破損したりすることのないよう、気をつけて保管してください。

1 用意した CD-R を CD/DVD ドライブにセットする

「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示された場合は、「何もしない」をクリックし、「常に選択した動作を行う。」の☐をクリックして☑にして、「OK」をクリックします。

2 「スタート」ボタン-「すべてのプログラム」-「アプリケーション」-「再セットアップ用CD-ROM 作成」をクリックする

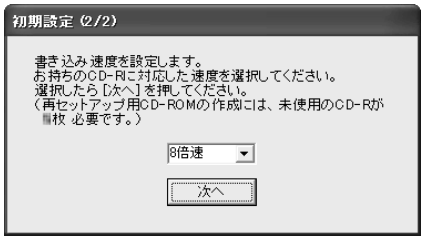
「再セットアップ用 CD-ROM 作成」の画面が表示されます。

3 「スタート」をクリックする

「初期設定(1/2)」の画面が表示されます。

4 プルダウンメニューに「最初から」と表示されていることを確認して、「次へ」をクリックする

「初期設定(2/2)」の画面が表示されます。「再セットアップ用CD-ROM」の作成に必要なCD-R媒体の枚数は、次の画面でご確認ください。



5 書き込み速度の設定をして、「次へ」をクリックする

用意したCD-Rに対応した速度を選択してください。

6 以降は画面に表示される内容をよく読んで、操作する

再セットアップ用CD-ROMの作成が終了すると次の画面が表示されるので、「完了」をクリックしてください。

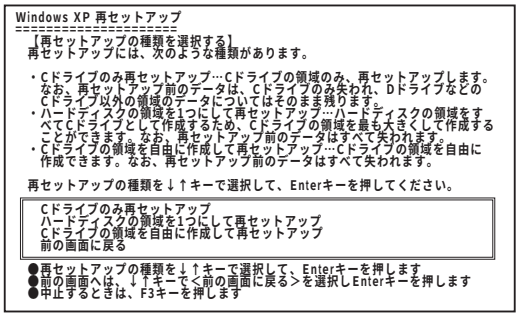
再セットアップ用 CD-ROM を使って再セットアップする

再セットアップの種類を選ぶ

チェック!!

再セットアップすると、大切なデータや設定内容の多くが失われてしまいます。再セットアップをはじめる前に、大切なデータはバックアップを取っておいてください。また、トラブルが発生している場合は、他の手段でトラブルを解決できないかもう一度試してみることをおすすめします。詳しくは、PART5 の「再セットアップをはじめる前に」(P.104)をご覧ください。

メモ　再セットアップの種類は、再セットアップ作業中に表示される次の画面で選択します。



「再セットアップ用CD-ROM」を使った再セットアップでは、目的に合わせて、次のような再セットアップの種類を選択できます。

◆ Cドライブのみ再セットアップ

ハードディスクのCドライブの領域のみを再セットアップします。Dドライブなど、Cドライブ以外の領域に保存されていたデータは、再セットアップ前の状態のまま残しておくことができます。

◆ ハードディスクの領域を1つにして再セットアップ

ハードディスク全体を1つの領域(Cドライブ)として作成できます。Cドライブの領域(サイズ)は最大になりますが、Dドライブなどを含め、ハードディスクに保存されていたデータはすべて失われます。
2台のハードディスクを内蔵しているモデルの場合は、1台目の内蔵ハードディスクのみを1パーティションにして、再セットアップします。このとき、2台目のハードディスクの内容はそのまま保持されたままで、消去されることはありません。

この方法で再セットアップすると、ご購入時に1台目の内蔵ハードディスクに保存されていた「再セットアップ用データ」も削除されるため、以降はハードディスクからの通常の再セットアップは行えなくなります。作成した「再セットアップ用CD-ROM」を紛失・破損しないよう、保管には十分ご注意ください。

◆ Cドライブの領域を自由に作成して再セットアップ

Cドライブの領域サイズを含め、ハードディスクの領域を自由に設定できます。Dドライブなどを含め、ハードディスクに保存されていたデータはすべて失われます。
なお、Cドライブ以外のハードディスク領域については、「再セットアップ」が完了した後に、「ディスクの管理」で領域作成およびフォーマットの操作を行ってください。詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」で、「ディスクの管理」で検索してご覧ください。

この方法で再セットアップすると、ご購入時に1台目の内蔵ハードディスクに保存されていた「再セットアップ用データ」も削除されるため、以降はハードディスクからの通常の再セットアップは行えなくなります。作成した「再セットアップ用CD-ROM」を紛失・破損しないよう、保管には十分ご注意ください。

再セットアップ用CD-ROMを使った再セットアップ手順

チェック!!

再セットアップをはじめる前に、大切なデータはバックアップを取っておいてください。詳しくは、「データのバックアップを取る」(P.106)をご覧ください。

再セットアップ用CD-ROMから再セットアップを行うときは、次の手順で操作してください。

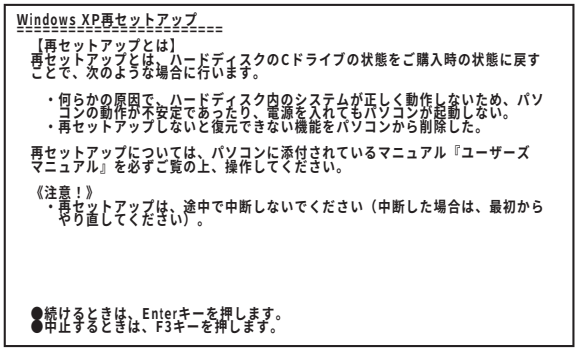
1 **前ページの手順で作成した「再セットアップ用CD-ROM」をすべて用意する**
この他、Office XPモデルでは、「Microsoft Office XP Personal」CD-ROMも用意しておいてください。

2 **PART5の「再セットアップする」(P.110)をご覧になり、「2 バックアップしたデータを確認する」～「6 別売の周辺機器(メモリ、プリンタ、スキャナなど)を取り外す」の操作を行う**

3 **パソコン本体の電源スイッチを押して電源を入れる**

4 電源ランプがついたらすぐに「再セットアップ用CD-ROM(1枚目)」をCD/DVDドライブにセットする

しばらくすると、次のような画面が表示されるので、画面の内容を読んだら【Enter】キーを押してください。



チェック!!

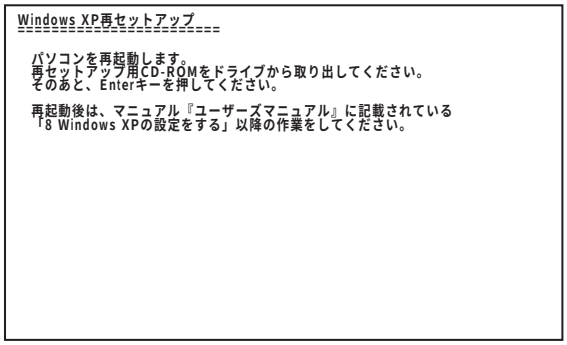
- 手順 4 で上の画面が表示されずに Windows が起動してしまった場合は、「再セットアップ用CD-ROM(1枚目)」をセットしたまま、「スタート」ボタン→「電源オプション」、「再起動」の順にクリックしてください。
- 再セットアップにかかる時間はモデルによって異なります。再セットアップ中に表示される画面でご確認ください。
- ハードディスクのフォーマットとシステムの再セットアップ中は画面からの指示がない限り、CD-ROMを取り出したり、電源スイッチを押したりしないでください。再セットアップ中に数回ビープ音（ピーという音）が鳴ることがありますが、これは再セットアップの処理が正しく進んでいることを示すもので、故障ではありません。
- 再セットアップをはじめたら、途中でやめたりせず、手順どおり最後まで行ってください。やむを得ず中断してしまった場合は、いったんパソコン本体の電源を切り、手順 3 以降のすべての手順をやり直してください。

5 以降は画面の表示内容をよく読んで、操作する

- 再セットアップ用 CD-ROM（2 枚目）をセットするよう画面に表示されたら、再セットアップ用 CD-ROM（2 枚目）を CD/DVD ドライブにセットして、【Enter】キーを押してください。
- 「Error」の画面が表示された場合は、【Enter】キーを押して表示される画面を確認してください。
- 「Span Volume [1] Done」という画面が表示されたら、再セットアップ用 CD-ROM(3 枚目)を CD/DVD ドライブにセットして、【Enter】キーを押してください。
- 「Span Volume [2] Done」という画面が表示されたら、再セットアップ用 CD-ROM(4 枚目)を CD/DVD ドライブにセットして、【Enter】キーを押してください。
- 「Span Volume [3] Done」という画面が表示されたら、再セットアップ用 CD-ROM(5 枚目)を CD/DVD ドライブにセットして、【Enter】キーを押してください。
- 「Span Volume [4] Done」という画面が表示されたら、再セットアップ用 CD-ROM(6 枚目)を CD/DVD ドライブにセットして、【Enter】キーを押してください。
- 「Span Volume [5] Done」という画面が表示されたら、再セットアップ用 CD-ROM(7 枚目)を CD/DVD ドライブにセットして、【Enter】キーを押してください。

チェック!!

下の画面が表示されなかったときは、再セットアップが正常に行われていません。手順3から作業をやり直してください。



6 上の画面が表示されたら、CD/DVDドライブから「再セットアップ用CD-ROM」を取り出して、【Enter】キーを押す

【Enter】キーを押すと、自動的にパソコンが再起動します。

7 パソコンが再起動して「Windowsへようこそ」または、「キーボードの登録を行います」の画面が表示されたら、PART5の「8 Windows XPの設定をする」(P.112)以降の操作を行う

「13 バックアップしたデータを復元する」(P.116)の操作まで終われば、再セットアップの作業は完了です。

なお、「◆Cドライブの領域を自由に作成して再セットアップ」を選択し、未作成のハードディスク領域がある場合は、「再セットアップ」が完了した後、「ディスクの管理」で領域作成およびフォーマットの操作を行ってください。詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」で、「ディスクの管理」で検索してご覧ください。

アプリケーションのサポート窓口一覧

アプリケーションの製造元各社のサポート窓口一覧です。
下記のアプリケーションについて質問・相談がある場合は、各々の窓口までお問い合わせください。
添付されているアプリケーションは、モデルにより異なります。

チェック!!

- 年末、年始および各社の休業日は、サポートを休ませていただく場合があります。
- お問い合わせの際は、電話番号をよくお確かめのうえ、おかけください。

参照 NECのパソコンやソフトウェア、周辺機器について→「ぱそガイド」-「NECのサービス＆サポート」

アプリケーション名	サポート窓口
Microsoft® Office XP Personal Microsoft® Bookshelf® Basic 3.0 Microsoft® Office XP Personal Step By Step Interactive Microsoft® Outlook® Plus!	「Office XP Personal」パッケージにあるマニュアルを参照の上、マイクロソフト株式会社にお問い合わせください。 URL:http://www.microsoft.com/japan/support/
bitcast browser もじぞう	株式会社インフォシティ Fax:03-5469-5621　URL:http://www.infocity.co.jp/　E-mail:support@infocity.co.jp
DVD-MovieAlbum	松下電器産業株式会社　お客様ご相談センター Tel：0120-878-365 毎日　午前9時～午後8時 URL：http://www.panasonic.co.jp/customer/cn/
DVD MovieWriter VideoStudio	ユーリードシステムズ株式会社 〒158-0097 東京都世田谷区用賀4-5-16 TEビル Tel:03-5491-5662　月～金曜日 午前10時～12時 午後1時～5時（ただし祝祭日を除く） URL:http://www.ulead.co.jp/　E-mail:support@ulead.co.jp
RecordNow DX	イージーシステムズジャパン株式会社 ESJカスタマーセンター Tel:03-5643-8724 月～金曜日 午前10時～午後5時30分（ただし祝祭日、年末年始及び特別休業日を除く） FAX:03-5643-8737
Norton AntiVirus	・技術的なお問い合わせ シマンテックテクニカルサポートセンター URL:http://shop.symantec.co.jp/oem/nec/2002/ Tel:03-3476-1118 月～金曜日　午前10時～12時、午後1時～5時（ただし祝祭日、年末年始を除く） FAX:03-3477-1118 上記サポートセンターをご利用いただくためには、シマンテックホームページにてカスタマーIDの取得が必要です。 ※本製品にプリインストールされているノートン・アンチウイルス2002をご使用の場合、電話によるサポートは製品のご使用を開始されてから90日間となります。それ以降は、有償サポートをご購入いただくことでサポートを受けていただくことが可能となります。 ・カスタマーID取得、および購入前の一般的なご質問に関するお問い合わせ コンシューマ・カスタマーサービスセンター Tel:03-3476-1156 月～金曜日　午前10時～12時、午後1時～5時（ただし祝祭日、年末年始を除く） FAX:03-3476-1159
@Homeステーション	@Homeステーションお客様窓口 Tel:03-5439-9188 月～金曜日　午前9時～午後5時（ただし祝祭日を除く） E-mail:athome_help@networks21.jp

仕様一覧

●VG22ND/7、VG20ND/7、VG16ND/7、VG11RD/7

モデル				VG22ND/7	VG20ND/7	VG16ND/7	VG11RD/7
型番				PC-VG22NDZ47	PC-VG20NDZ47	PC-VG16NDZ47	PC-VG11RDZ47
CPU				AMD Athlon™ XP プロセッサ2200+＊1	AMD Athlon™ XP プロセッサ2000+＊2	AMD Athlon™ XP プロセッサ1600+＊3	AMD Duron™ プロセッサ1100MHz
チップセット				nVIDIA®社製 nForce420D			
バスクロック		システムバス		266MHz		200MHz	
		メモリバス		266MHz			
キャッシュ		1次		128Kバイト(CPU内蔵)			
メモリ		2次		256Kバイト(CPU内蔵)			64Kバイト(CPU内蔵)
ビデオRAM				32Mバイト＊4			
グラフィックアクセラレータ				nVIDIA®社製 nForce420Dに内蔵			
解像度・表示色＊5	640×480ドット			最大1,677万色			
	800×600ドット			最大1,677万色			
	1,024×768ドット			最大1,677万色			
	1,280×1,024ドット			最大1,677万色＊6			
	1,600×1,200ドット			最大1,677万色＊6			
サウンド機能		音源/サラウンド機能		Dolby Digital 5.1ch対応、PCM録音再生機能：ステレオ、量子化8ビット/16ビット、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、エンハンストステレオ			
通信機能		LAN		100BASE-TX/10BASE-T対応			
入力機器		リモコン		赤外線リモコン＊7 ＊8			
補助記憶機器		フロッピーディスクドライブ		3.5型フロッピーディスクドライブ(720Kバイト/1.2Mバイト/1.44Mバイト)×1＊9			
映像関連機能		MPEGボード		ハードウェアMPEG2リアルタイムエンコーダボード			
		テレビチューナ		音声多重対応、受信チャンネル：VHF(1～12ch)、UHF(13～62ch)、CATV(C13～C63ch)＊10			
		データ放送受信		地上波データ放送(ビットキャスト、ADAMS)、文字多重放送、字幕放送			
		映像合成表示機能		DirectShow® により任意のサイズで合成表示可能(全画面表示可能) SmartVision/TV＊11 使用時：400×300ドット以上(縦横比3:4固定)でサイズ変更可能、 bitcast browser＊12 使用時は160×120ドット以上(縦横比3:4固定)でサイズ変更可能			
		高画質機能		デジタルゴーストリデューサ、3次元Y/C分離、デジタルノイズリダクション			
		テレビ録画機能		SmartVision/TV＊11 でMPEG2(高画質モード：720×480ドット(8Mbps CBR)、標準画質モード：720×480ドット(4Mbps VBR)、長時間録画モード：352×480ドット(2Mbps VBR))、MPEG1(ユーザ設定モード：352×240ドット(1.152Mbps CBR))の録画可能、bitcast browser＊12でAVI(240×180ドット(30.6Mbps))、WMV8(240×180ドット(0.33Mbps))の録画可能			
			最長録画時間＊13	高画質モード：約38時間50分、標準画質モード：約75時間50分、長時間録画モード：約144時間30分（ハードディスクドライブ容量(1st)が約160Gバイトの場合）			
				高画質モード：約27時間50分、標準画質モード：約54時間10分、長時間録画モード：約103時間10分（ハードディスクドライブ容量(1st)が約120Gバイトの場合）			
				高画質モード：約17時間10分、標準画質モード：約33時間40分、長時間録画モード：約64時間20分（ハードディスクドライブ容量(1st)が約80Gバイトの場合）			
				高画質モード：約 6時間50分、標準画質モード：約13時間40分、長時間録画モード：約26時間（ハードディスクドライブ容量(1st)が約40Gバイトの場合）			
AGPスロット				1スロット［空きスロット1］			
PCIスロット				5スロット［空きスロット3～0(PCIスロット用増設ボードの選択により、空きスロット数は異なります)］			
インターフェイス	USB	USB 1.1		コネクタ4ピン×4＊14			
	IEEE1394(DV)			6ピン×3＊15			
	パラレル			D-sub25ピン×1			
	シリアル			D-sub9ピン×1			
	ディスプレイ			ミニD-sub15ピン×1(アナログRGB)			
	PS/2			ミニDIN6ピン×2			
	LAN			RJ45コネクタ×1			
	サウンド関連	光デジタルオーディオ出力		角形×1＊16、丸形×1＊16(ヘッドフォン出力と兼用)			
		ライン入力		ステレオミニジャック×2			
		ライン出力		ステレオミニジャック×1 ＊17			
		マイク入力		モノラルミニジャック×1 ＊18			
	映像関連	TVアンテナ入力		F型同軸×1			
		ビデオ入力		ミニDIN×1(Sビデオ・コンポジットビデオ共用)＊19＊20			
		ビデオ出力		ミニDIN×1(Sビデオ・コンポジットビデオ共用)＊21＊22			

● VG22ND/7、VG20ND/7、VG16ND/7、VG11RD/7

モデル		VG22ND/7	VG20ND/7	VG16ND/7	VG11RD/7
ベイ		5型ベイ：2スロット(CD/DVDドライブで1スロット占有済)［空きスロット1］、 3.5型ベイ：2スロット(フロッピーディスクドライブで1スロット占有済)［空きスロット1］、 内蔵3.5型ベイ：3スロット(ハードディスクドライブの選択により、空きスロット数は異なります)			
電源		AC100V±10%、50/60Hz			
消費電力	標準	約117W＊23	約110W＊23	約81W＊23	約77W＊23
	最大	320W	313W	285W	281W
エネルギー消費効率		Q区分 0.0011＊24	Q区分 0.0012＊24	Q区分 0.0014＊24	Q区分 0.0017＊24
温湿度条件		10～35℃、20～80%(ただし結露しないこと)			
外形寸法	本体	193(W)×480(D)×458(H)mm(突起部除く)			
	キーボード	USBキーボードの場合：454(W)×186(D)×41(H)mm PS/2キーボードの場合：456(W)×169(D)×40(H)mm			
	リモコン	48(W)×206(D)×35(H)mm(スティック含む)			
質量	本体	約15.7kg＊23			
	キーボード	USBキーボードの場合：約1.2kg PS/2キーボードの場合：約0.9kg			
	マウス	約0.2kg			
	リモコン	約0.1kg＊25			
インストールOS		Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版＊26			
サポートOS		Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版＊27			
主な添付品		マニュアル、電源ケーブル、回線ケーブル、ビデオ変換コネクタ×2(Sビデオ←→コンポジットビデオ)、リモコン用受信ユニット＊28			

■以下の各項目から一つ選択することで、仕様を変更できます。

メモリ(メインRAM)		256Mバイト＊4(ECC無しDDR SDRAM、PC2100対応(DDR266)、128Mバイト DIMM + 128Mバイト DIMM)
		384Mバイト＊4(ECC無しDDR SDRAM、PC2100対応(DDR266)、128Mバイト DIMM + 256Mバイト DIMM)
		512Mバイト＊4(ECC無しDDR SDRAM、PC2100対応(DDR266)、256Mバイト DIMM + 256Mバイト DIMM)
		768Mバイト＊4(ECC無しDDR SDRAM、PC2100対応(DDR266)、256Mバイト DIMM + 512Mバイト DIMM)
		1Gバイト＊4(ECC無しDDR SDRAM、PC2100対応(DDR266)、512Mバイト DIMM + 512Mバイト DIMM)
		1.25Gバイト＊4＊30 (ECC無しDDR SDRAM、PC2100対応(DDR266)、 256Mバイト DIMM + 512Mバイト DIMM + 512Mバイト DIMM)
	最大容量	1.5Gバイト＊29＊30　［DIMMスロット×3］
ハードディスクドライブ(1st)＊31		約160Gバイト＊32 (Ultra ATA-100)
		約120Gバイト＊33 (Ultra ATA-100)
		約80Gバイト＊34 (Ultra ATA-100)
		約40Gバイト＊35 (Ultra ATA-100)
増設用ハードディスクドライブ＊31		選択せず
		約160Gバイト＊36 (Ultra ATA-100)
		約120Gバイト＊37 (Ultra ATA-100)
		約80Gバイト＊38 (Ultra ATA-100)
		約40Gバイト＊39 (Ultra ATA-100)
CD/DVDドライブ＊56		CD-R/RWドライブ CD読出し：最大40倍速、CD-R書込み：最大24倍速、CD-RW書換え：最大10倍速＊40
		マルチプレードライブ(CD-R/RW with DVD-ROM) DVD読出し：最大12倍速、CD読出し：最大40倍速、CD-R書込み：最大16倍速、CD-RW書換え：最大10倍速＊40
		DVD-R/RWドライブ DVD-R書込み：最大2倍速＊41、DVD-RW書換え：1倍速＊42、DVD読出し：最大6倍速、 CD読出し：最大24倍速、CD-R書込み：最大8倍速、CD-RW書換え：最大4倍速＊43
		DVDマルチドライブ(DVD-RAM/R/RW)＊44 DVD-RAM読出し：2倍速＊45、DVD-RAM書換え：2倍速＊45、DVD-R書込み：最大2倍速＊41、DVD-RW書換え：1倍速＊42、 DVD読出し：最大10倍速、CD読出し：最大32倍速、CD-R書込み：最大12倍速、CD-RW書換え：最大8倍速＊40
PCIスロット用増設ボード	ワイヤレス通信(PCIボード)	選択せず
		2.4GHzワイヤレスLAN(IEEE802.11b 準拠)＊46
	USB2.0増設ボード(PCIボード)	選択せず
		コネクタ4ピン×4[USB 2.0＊14＊55]
	FAXモデムボード＊47(PCIボード)	選択せず
		データ通信：最大56Kbps＊48 (K56flex™、V.90対応)/FAX通信：最大14.4Kbps(V.17)、 Resume On Ring機能対応：モジュラコネクタ×2(LINE×1、TELEPHONE×1)
マイク＆カメラ		選択せず
		ヘッドフォンマイク＊49
		ヘッドフォンマイク＊49 とUSBカメラ＊28＊50
スピーカ		選択せず＊51
		外付けステレオスピーカ＊52
キーボード／マウス		PS/2キーボード(109キーレイアウト準拠)／PS/2マウス(スクロール機能付き)
		USBキーボード(109キーレイアウト準拠、ワンタッチスタートボタン付き、 USB 1.1×2＊14＊53)／USBマウス(スクロール機能付き)＊54
ワープロ・表計算（統合ソフト）		選択せず
		Microsoft® Office XP Personal

前記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

*1 ： AMD社が定めた、QuantiSpeed™アーキテクチャによる性能指標であり、CPUの動作クロック周波数ではありません。CPUの動作クロック周波数は1.800GHzです。
*2 ： AMD社が定めた、QuantiSpeed™アーキテクチャによる性能指標であり、CPUの動作クロック周波数ではありません。CPUの動作クロック周波数は1.667GHzです。
*3 ： AMD社が定めた、QuantiSpeed™アーキテクチャによる性能指標であり、CPUの動作クロック周波数ではありません。CPUの動作クロック周波数は1.400GHzです。
*4 ： ビデオRAMはメインRAMを使用します。
*5 ： グラフィックアクセラレータの持つ解像度および表示色の能力であり、接続するディスプレイによっては表示できないことがあります。ディスプレイの仕様をお確かめの上、ディスプレイを選択願います。
*6 ： グラフィックアクセラレータの持つ最大発色数です。選択できるディスプレイでは表示できない場合があります。ディスプレイの仕様をお確かめの上、ディスプレイを選択願います。
*7 ： リモコンの電池寿命はご使用の環境条件や方法により異なりますがアルカリ電池で最大190時間です。
*8 ： 使用可能な距離はご使用の環境条件や方法により異なりますが約3mです。
*9 ： 3モード(720Kバイト/1.2Mバイト/1.44Mバイト)に対応しています(ただし、720Kバイト/1.2Mバイトモードのフォーマットは不可です)。また、1.2Mバイトモードへの対応は、ドライバをセットアップすることで可能となります。
*10 ： ケーブルテレビ環境でご利用の場合、ご利用のケーブルテレビ会社によりサービス内容に違いがあるため、全てのCATV受信をサポートするものではありません。
*11 ： 本体にプリインストールされている地上波放送受信・録画のソフトウェア名称です。
*12 ： 本体にプリインストールされているテレビ・ビットキャスト受信のソフトウェア名称です。
*13 ： 録画時間は映像の内容およびご利用状況によって前後する場合があります。
*14 ： 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
*15 ： 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット121ware.com(http://121ware.com/valuestar/)の「接続情報－IEEE1394DV機器」をご覧ください。
*16 ： 光デジタルオーディオ出力端子に接続するオーディオ機器は48KHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般のCDプレーヤー・MDデッキ類と同様に、SCMS(シリアルコピーマネジメントシステム)に準拠した信号を出力します。
*17 ： 任意選択オプションのヘッドフォンマイク、または外付けスピーカ、またはアナログTFT液晶ディスプレイ（LCD1550VMもしくはLCD1720VM)に内蔵のスピーカを接続できます。ヘッドフォンマイクと外付けスピーカと液晶ディスプレイに内蔵のスピーカの接続は排他になります。
*18 ： 任意選択オプションのヘッドフォンマイクを接続できます。
*19 ： 著作権保護のための信号が記録されている市販素材は、ハードディスク等へ録画することはできません。
*20 ： Sビデオ入力端子として利用できます。また、本体に添付のビデオ変換コネクタを接続することによりコンポジットビデオ入力端子として利用できます。
*21 ： 著作権保護のための信号が記録されている市販素材、またはソフトウェアの種類によりビデオデッキ等へ録画することはできません。また、ビデオデッキ経由でのテレビ出力はできません(同方式でテレビに出力しているビデオ一体型テレビを含む)。
*22 ： Sビデオ出力端子として利用できます。また、本体に添付のビデオ変換コネクタを接続することによりコンポジットビデオ出力端子として利用できます。
*23 ： メモリ256Mバイト、CD-RW、ハードディスク40Gバイトの構成にて測定。
*24 ： CD-RW、ハードディスク40Gバイトの構成にて測定。
*25 ： 乾電池の質量は含まれておりません。
*26 ： 添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。
*27 ： 別売のMicrosoft® Windows® XP Home Editionパッケージや別売のMicrosoft® Windows® XP Professionalパッケージをインストールおよび利用することはできません。
*28 ： USBポートに接続します。
*29 ： 増設RAMサブボード(PC2100対応-DDR266MHzメモリ)[512Mバイト]を3枚実装する必要があります。増設RAMサブボードを増設する場合は、PK-UG-M040(128Mバイト)、PK-UG-M041(256Mバイト)、PK-UG-M042(512Mバイト)を推奨します。
*30 ： 本機には、最大で1.5Gバイト(512Mバイト×3枚)のメモリを搭載できます。ただし、1.5Gバイトまで搭載した場合、メモリアクセス性能が落ちることがあるため(メモリバスクロックが266MHzから200MHzに低下)、1.25Gバイト(512Mバイト×2枚＋256Mバイト×1枚)までの増設をお奨めします。本機において、メモリバスクロックを266MHzにて動作させるには、メモリモジュールのBANK数合計は最大5BANKまでとなります。必須選択オプションにて1.25Gバイトを選択された場合、512Mバイト(2BANK)×2＋256Mバイト(1BANK)の5BANKのため、メモリバスクロックは266MHz動作となります。
*31 ： 1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。
*32 ： Windowsのシステムからは、容量が約149Gバイト(Cドライブ：約142Gバイト、Dドライブ：約2Gバイト、残り：再セットアップ用として使用)と認識されます。
*33 ： Windowsのシステムからは、容量が約111.7Gバイト(Cドライブ：約104Gバイト、Dドライブ：約2Gバイト、残り：再セットアップ用として使用)と認識されます。
*34 ： Windowsのシステムからは、容量が約74.5Gバイト(Cドライブ：約67Gバイト、Dドライブ：約2Gバイト、残り：再セットアップ用として使用)と認識されます。
*35 ： Windowsのシステムからは、容量が約37.2Gバイト(Cドライブ：約30Gバイト、Dドライブ：約2Gバイト、残り：再セットアップ用として使用)と認識されます。
*36 ： Windowsのシステムからは、容量が約149Gバイトと認識されます。
*37 ： Windowsのシステムからは、容量が約111.7Gバイトと認識されます。
*38 ： Windowsのシステムからは、容量が約74.5Gバイトと認識されます。
*39 ： Windowsのシステムからは、容量が約37.2Gバイトと認識されます。
*40 ： CD-RWメディアの書き換えにおいて、High Speed CD-RWメディアが使用できます。8倍速以上で書き換えるには、High Speed CD-RWメディアが必要です。
*41 ： DVD-Rは、DVD for General Ver.2.0に準拠したディスクの書き込みに対応しています。
*42 ： DVD-RWは、DVD-RW Ver.1.1に準拠したディスクの書き込みに対応しています。

*43 ： CD-RW メディアの書き換えにおいて、High Speed CD-RW メディアが使用できます。
*44 ： カートリッジは使用できません。DVD-RAM メディアをご利用になる場合はカートリッジなし、もしくはメディア取出し可能なカートリッジ（メディアを取出して利用）をご利用ください。
*45 ： 片面 4.7G バイトの DVD-RAM の速度です。
*46 ： 通信速度：最大 11Mbps(IEEE802.11b規格による速度(理論値)であり実効速度とは異なります)。通信距離：屋内見通し 70m(ワイヤレスLAN アクセスポイントと通信した場合の最大です。周囲の電波環境、障害物、設置環境、アプリケーションソフトウェアなどにより異なる場合があります)。
*47 ： 回線状態によっては、通信速度が変わる場合があります。
*48 ： 最大 56Kbps はデータ受信時の速度です。データ送信時は最大 33.6Kbps になります。
*49 ： 本体側のマイク入力端子とライン出力端子に接続します。ライン出力端子の使用は、任意選択オプションの外付けスピーカまたは液晶ディスプレイに添付の Audio ケーブルと排他になります。
*50 ： 液晶ディスプレイの上に USB カメラを設置することはできません。
*51 ： ディスプレイなし、または CRT モニタを選択した場合において、本体から音をだすにはスピーカが必要です。
*52 ： 任意選択オプションの TFT 液晶ディスプレイには、液晶ディスプレイ側にスピーカ（ステレオ）が内蔵されています。液晶ディスプレイを選択しスピーカを選択された場合、液晶ディスプレイ内蔵スピーカ用 Audio ケーブルもしくは外付けスピーカのどちらか一方を本体に接続することができます。
*53 ： USB ポートから消費する電流が 100mA 以下の機器に限ります。
*54 ： 添付のキーボードにある USB ポートに接続します。
*55 ： USB 1.1 対応の周辺機器も利用できます。USB 2.0 で動作するには USB 2.0 対応の周辺機器が必要です。
*56 ： コピーコントロール CD などの一部の音楽 CD では、再生や音楽 CD の作成ができない場合があります。

● VG22N4/7、VG20N4/7、VG16N4/7、VG11R4/7

モデル			VG22N4/7	VG20N4/7	VG16N4/7	VG11R4/7
型番			PC-VG22N4Z47	PC-VG20N4Z47	PC-VG16N4Z47	PC-VG11R4Z47
CPU			AMD Athlon™ XP プロセッサ 2200+＊1	AMD Athlon™ XP プロセッサ 2000+＊2	AMD Athlon™ XP プロセッサ 1600+＊3	AMD Duron™ プロセッサ 1100MHz
チップセット			nVIDIA®社製 nForce420D			
バスクロック		システムバス	266MHz		200MHz	
		メモリバス	266MHz			
キャッシュ		1次	128Kバイト(CPU内蔵)			
メモリ		2次	256Kバイト(CPU内蔵)			64Kバイト(CPU内蔵)
ビデオRAM			32Mバイト＊4			
グラフィックアクセラレータ			nVIDIA®社製 nForce420Dに内蔵			
解像度・表示色＊5		640×480ドット	最大1,677万色			
		800×600ドット	最大1,677万色			
		1,024×768ドット	最大1,677万色			
		1,280×1,024ドット	最大1,677万色＊6			
		1,600×1,200ドット	最大1,677万色＊6			
サウンド機能		音源/サラウンド機能	Dolby Digital 5.1ch対応、PCM録音再生機能：ステレオ、量子化8ビット/16ビット、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、エンハンストステレオ			
通信機能		LAN	100BASE-TX/10BASE-T対応			
補助記憶機器		フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(720Kバイト/1.2Mバイト/1.44Mバイト)×1＊7			
AGPスロット			1スロット［空きスロット1］			
PCIスロット			5スロット［空きスロット4～1(PCIスロット用増設ボードの選択により、空きスロット数は異なります)］			
インターフェイス	USB	USB 1.1	コネクタ4ピン×4＊8			
	IEEE1394(DV)		6ピン×3＊9			
	パラレル		D-sub25ピン×1			
	シリアル		D-sub9ピン×1			
	ディスプレイ		ミニD-sub15ピン×1(アナログRGB)			
	PS/2		ミニDIN6ピン×2			
	LAN		RJ45コネクタ×1			
	サウンド関連	光デジタルオーディオ出力	角形×1＊10			
		ライン入力	ステレオミニジャック×1			
		ライン出力	ステレオミニジャック×1 ＊11			
		マイク入力	モノラルミニジャック×1 ＊12			
ベイ			5型ベイ：2スロット(CD/DVDドライブで1スロット占有済)［空きスロット1］、3.5型ベイ：2スロット(フロッピーディスクドライブで1スロット占有済)［空きスロット1］、内蔵3.5型ベイ：3スロット(ハードディスクドライブの選択により、空きスロット数は異なります)			
電源			AC100V±10%、50/60Hz			
消費電力		標準	約107W＊13	約100W＊13	約71W＊13	約67W＊13
		最大	320W	313W	285W	281W
エネルギー消費効率			Q区分 0.0011＊14	Q区分 0.0012＊14	Q区分 0.0014＊14	Q区分 0.0017＊14
温湿度条件			10～35℃、20～80%(ただし結露しないこと)			
外形寸法		本体	193(W)×480(D)×458(H)mm(突起部除く)			
		キーボード	USBキーボードの場合：454(W)×186(D)×41(H)mm PS/2キーボードの場合：456(W)×169(D)×40(H)mm			
質量		本体	約15.4kg＊13			
		キーボード	USBキーボードの場合：約1.2kg PS/2キーボードの場合：約0.9kg			
		マウス	約0.2kg			
インストールOS			Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版＊15			
サポートOS			Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版＊16			
主な添付品			マニュアル、電源ケーブル、回線ケーブル			

■以下の各項目から一つ選択することで、仕様を変更できます。

メモリ(メインRAM)		128Mバイト＊4(ECC無しDDR SDRAM、PC2100対応(DDR266)、128Mバイト DIMM)
		256Mバイト＊4(ECC無しDDR SDRAM、PC2100対応(DDR266)、128Mバイト DIMM + 128Mバイト DIMM)
		384Mバイト＊4(ECC無しDDR SDRAM、PC2100対応(DDR266)、128Mバイト DIMM + 256Mバイト DIMM)
		512Mバイト＊4(ECC無しDDR SDRAM、PC2100対応(DDR266)、256Mバイト DIMM + 256Mバイト DIMM)
		768Mバイト＊4(ECC無しDDR SDRAM、PC2100対応(DDR266)、256Mバイト DIMM + 512Mバイト DIMM)
		1Gバイト＊4(ECC無しDDR SDRAM、PC2100対応(DDR266)、512Mバイト DIMM + 512Mバイト DIMM)
		1.25Gバイト＊4＊19 (ECC無しDDR SDRAM、PC2100対応(DDR266)、 256Mバイト DIMM + 512Mバイト DIMM + 512Mバイト DIMM)
	最大容量	1.5Gバイト＊18＊19　［ＤＩＭＭスロット×３］
ハードディスクドライブ(1st)＊20		約160Gバイト＊21 (Ultra ATA-100)
		約120Gバイト＊22 (Ultra ATA-100)
		約80Gバイト＊23 (Ultra ATA-100)
		約40Gバイト＊24 (Ultra ATA-100)
増設用ハードディスクドライブ＊20		選択せず
		約160Gバイト＊25 (Ultra ATA-100)
		約120Gバイト＊26 (Ultra ATA-100)
		約80Gバイト＊27 (Ultra ATA-100)
		約40Gバイト＊28 (Ultra ATA-100)
CD/DVDドライブ＊45		CD-ROMドライブ CD読出し：最大40倍速
		CD-R/RWドライブ CD読出し：最大40倍速、CD-R書込み：最大24倍速、CD-RW書換え：最大10倍速＊29
		マルチプレードライブ(CD-R/RW with DVD-ROM) DVD読出し：最大12倍速、CD読出し：最大40倍速、CD-R書込み：最大16倍速、CD-RW書換え：最大10倍速＊29
		DVD-R/RWドライブ DVD-R書込み：最大2倍速＊30、DVD-RW書換え：1倍速＊31、DVD読出し：最大6倍速、 CD読出し：最大24倍速、CD-R書込み：最大8倍速、CD-RW書換え：最大4倍速＊32
		DVDマルチドライブ(DVD-RAM/R/RW)＊33 DVD-RAM読出し：2倍速＊34、DVD-RAM書換え：2倍速＊34、DVD-R書込み：最大2倍速＊30、DVD-RW書換え：1倍速＊31、 DVD読出し：最大10倍速、CD読出し：最大32倍速、CD-R書込み：最大12倍速、CD-RW書換え：最大8倍速＊29
PCIスロット用増設ボード	ワイヤレス通信(PCIボード)	選択せず
		2.4GHzワイヤレスLAN(IEEE802.11b 準拠)＊35
	USB2.0増設ボード(PCIボード)	選択せず
		コネクタ4ピン×4[USB 2.0＊8＊44]
	FAXモデムボード＊36(PCIボード)	選択せず
		データ通信：最大56Kbps＊37 (K56flex™、V.90対応)/FAX通信：最大14.4Kbps(V.17)、 Resume On Ring機能対応：モジュラコネクタ×2(LINE×1、TELEPHONE×1)
マイク＆カメラ		選択せず
		ヘッドフォンマイク＊38
		ヘッドフォンマイク＊38 とUSBカメラ＊17＊39
スピーカ		選択せず＊40
		外付けステレオスピーカ＊41
キーボード／マウス		PS/2キーボード(109キーレイアウト準拠)／PS/2マウス(スクロール機能付き)
		USBキーボード(109キーレイアウト準拠、ワンタッチスタートボタン付き、 USB 1.1×2＊8＊42)／USBマウス(スクロール機能付き)＊43
ワープロ・表計算（統合ソフト）		選択せず
		Microsoft® Office XP Personal

前記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

*1 ： AMD社が定めた、QuantiSpeed™アーキテクチャによる性能指標であり、CPUの動作クロック周波数ではありません。CPUの動作クロック周波数は1.800GHzです。
*2 ： AMD社が定めた、QuantiSpeed™アーキテクチャによる性能指標であり、CPUの動作クロック周波数ではありません。CPUの動作クロック周波数は1.667GHzです。
*3 ： AMD社が定めた、QuantiSpeed™アーキテクチャによる性能指標であり、CPUの動作クロック周波数ではありません。CPUの動作クロック周波数は1.400GHzです。
*4 ： ビデオRAMはメインRAMを使用します。
*5 ： グラフィックアクセラレータの持つ解像度および表示色の能力であり、接続するディスプレイによっては表示できないことがあります。ディスプレイの仕様をお確かめの上、ディスプレイを選択願います。
*6 ： グラフィックアクセラレータの持つ最大発色数です。選択できるディスプレイでは表示できない場合があります。ディスプレイの仕様をお確かめの上、ディスプレイを選択願います。
*7 ： 3モード(720Kバイト/1.2Mバイト/1.44Mバイト)に対応しています(ただし、720Kバイト/1.2Mバイトモードのフォーマットは不可です)。また、1.2Mバイトモードへの対応は、ドライバをセットアップすることで可能となります。
*8 ： 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
*9 ： 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット121ware.com(http://121ware.com/valuestar/)の「接続情報－IEEE1394DV機器」をご覧ください。
*10 ： 光デジタルオーディオ出力端子に接続するオーディオ機器は48KHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般のCDプレーヤー・MDデッキ類と同様に、SCMS(シリアルコピーマネジメントシステム)に準拠した信号を出力します。
*11 ： 任意選択オプションのヘッドフォンマイク、または外付けスピーカ、またはアナログTFT液晶ディスプレイ（LCD1550VMもしくはLCD1720VM)に内蔵のスピーカを接続できます。ヘッドフォンマイクと外付けスピーカと液晶ディスプレイに内蔵のスピーカの接続は排他になります。
*12 ： 任意選択オプションのヘッドフォンマイクを接続できます。
*13 ： メモリ128Mバイト、CD-ROM、ハードディスク40Gバイトの構成にて測定。
*14 ： CD-ROM、ハードディスク40Gバイトの構成にて測定。
*15 ： 添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。
*16 ： 別売のMicrosoft® Windows® XP Home Editionパッケージや別売のMicrosoft® Windows® XP Professionalパッケージをインストールおよび利用することはできません。
*17 ： USBポートに接続します。
*18 ： 増設RAMサブボード(PC2100対応-DDR266MHzメモリ)[512Mバイト]を3枚実装する必要があります。増設RAMサブボードを増設する場合は、PK-UG-M040(128Mバイト)、PK-UG-M041(256Mバイト)、PK-UG-M042(512Mバイト)を推奨します。
*19 ： 本機には、最大で1.5Gバイト(512Mバイト×3枚)のメモリを搭載できます。ただし、1.5Gバイトまで搭載した場合、メモリアクセス性能が落ちることがあるため（メモリバスクロックが266MHzから200MHzに低下)、1.25Gバイト(512Mバイト×2枚＋256Mバイト×1枚)までの増設をお奨めします。本機において、メモリバスクロックを266MHzにて動作させるには、メモリモジュールのBANK数合計は最大5BANKまでとなります。必須選択オプションにて1.25Gバイトを選択された場合、512Mバイト(2BANK)×2＋256Mバイト(1BANK)の5BANKのため、メモリバスクロックは266MHz動作となります。
*20 ： 1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。
*21 ： Windowsのシステムからは、容量が約149Gバイト(Cドライブ：約142Gバイト、Dドライブ：約2Gバイト、残り：再セットアップ用として使用)と認識されます。
*22 ： Windowsのシステムからは、容量が約111.7Gバイト(Cドライブ：約104Gバイト、Dドライブ：約2Gバイト、残り：再セットアップ用として使用)と認識されます。
*23 ： Windowsのシステムからは、容量が約74.5Gバイト(Cドライブ：約67Gバイト、Dドライブ：約2Gバイト、残り：再セットアップ用として使用)と認識されます。
*24 ： Windowsのシステムからは、容量が約37.2Gバイト(Cドライブ：約30Gバイト、Dドライブ：約2Gバイト、残り：再セットアップ用として使用)と認識されます。
*25 ： Windowsのシステムからは、容量が約149Gバイトと認識されます。
*26 ： Windowsのシステムからは、容量が約111.7Gバイトと認識されます。
*27 ： Windowsのシステムからは、容量が約74.5Gバイトと認識されます。
*28 ： Windowsのシステムからは、容量が約37.2Gバイトと認識されます。
*29 ： CD-RWメディアの書き換えにおいて、High Speed CD-RWメディアが使用できます。8倍速以上で書き換えるには、High Speed CD-RWメディアが必要です。
*30 ： DVD-Rは、DVD for General Ver.2.0に準拠したディスクの書き込みに対応しています。
*31 ： DVD-RWは、DVD-RW Ver.1.1に準拠したディスクの書き込みに対応しています。
*32 ： CD-RWメディアの書き換えにおいて、High Speed CD-RWメディアが使用できます。
*33 ： カートリッジは使用できません。DVD-RAMメディアをご利用になる場合はカートリッジなし、もしくはメディア取出し可能なカートリッジ（メディアを取出して利用）をご利用ください。
*34 ： 片面4.7GバイトのDVD-RAMの速度です。
*35 ： 通信速度：最大11Mbps(IEEE802.11b規格による速度(理論値)であり実効速度とは異なります)。通信距離：屋内見通し70m(ワイヤレスLANアクセスポイントと通信した場合の最大です。周囲の電波環境、障害物、設置環境、アプリケーションソフトウェアなどにより異なる場合があります)。
*36 ： 回線状態によっては、通信速度が変わる場合があります。
*37 ： 最大56Kbpsはデータ受信時の速度です。データ送信時は最大33.6Kbpsになります。
*38 ： 本体側のマイク入力端子とライン出力端子に接続します。ライン出力端子の使用は、任意選択オプションの外付けスピーカまたは液晶ディスプレイに添付のAudioケーブルと排他になります。
*39 ： 液晶ディスプレイの上にUSBカメラを設置することはできません。
*40 ： ディスプレイなし、またはCRTモニタを選択した場合において、本体から音をだすにはスピーカが必要です。

*41 ： 任意選択オプションのTFT液晶ディスプレイには、液晶ディスプレイ側にスピーカ（ステレオ）が内蔵されています。液晶ディスプレイを選択しスピーカを選択された場合、液晶ディスプレイ内蔵スピーカ用Audioケーブルもしくは外付けスピーカのどちらか一方を本体に接続することができます。
*42 ： USBポートから消費する電流が100mA以下の機器に限ります。
*43 ： 添付のキーボードにあるUSBポートに接続します。
*44 ： USB 1.1対応の周辺機器も利用できます。USB 2.0で動作するにはUSB 2.0対応の周辺機器が必要です。
*45 ： コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDでは、再生や音楽CDの作成ができない場合があります。

FAXモデムボード仕様一覧

■ 機能概要

CPU I/F	PCIインターフェイス
NCU部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リンガ検出機能
モデムチップセット部	・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット V.90 K56flex V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびNMP4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット AT Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング（DTMFトーン、ダイヤルパルス制御）

■ FAX機能

項　目	規　格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14,400/12,000/9,600/7,200/4,800/2,400/300bps 注
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	TCM:14,400/12,000/9,600/7,200bps QAM:9,600/7,200bps DPSK:4,800/2,400bps FSK:300bps
送信レベル	-11～-15dBm（出荷時 -15dBm）
受信レベル	-10～-40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド（CLASS 1）

注　回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

■ データモデム機能

項　目	規　格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送 受 信：33,600/31,200/28,800/26,400/24,000/21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600 7,200/4,800/2,400/1,200/300bps 注 受信のみ：56,000/54,667/54,000/53,333/52,000/50,667/50,000/49,333/48,000/46,667/46,000 45,333/44,000/42,667/42,000/41,333/40,000/38,667/38,000/37,333/36,000/34,667 34,000/33,333/32,000/30,667/29,333/28,000bps 注
通信規格	K56flex ITU-T　V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21
変調方式	PCM:　56,000/54,667/54,000/53,333/52,000/50,667/50,000/49,333/48,000/46,667/46,000 45,333/44,000/42,667/42,000/41,333/40,000/38,667/38,000/37,333/36,000/34,667 34,000/33,333/32,000/30,667/29,333/28,000bps TCM:　33,600/31,200/28,800/26,400/24,000/21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600 7,200/4,800/2,400bps QAM:　9,600/4,800/2,400/1,200bps DPSK: 1,200bps FSK:　300bps
エラー訂正	ITU-T V.42（LAPM）　MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis　MNP class5
送信レベル	-11～-15dBm（出荷時 -15dBm）
受信レベル	-10～-40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠

注　回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

■ NCU機能

項　目	規　格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル方式	パルスダイヤル（10/20PPS） トーンダイヤル（DTMF）
NCU形式	AA（自動発信／自動着信型） MA（手動発信／自動着信型） MM（手動発信／手動着信型） AM（自動発信／手動着信型）
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンド（CLASS 1）

ATコマンド*については、このパソコンの電子マニュアル「ぱそガイド」-「パソコンでできること」をご覧ください。
　＊DTE（パソコンなどの端末機器）から電話回線に対してこのコマンドを送ることで自動発着信を行うことができる。

LAN 仕様一覧

ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時 ：UTPカテゴリ3,4,5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1,024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長*	100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

＊リピータの台数など、条件によって異なります。

2.4GHz ワイヤレス LAN 仕様一覧

伝送速度	11M/5.5M/2M/1M（bps）（自動切替）*1
準拠規格	ARIB STD-T66（小電力データ通信システム規格） IEEE802.11b（2.4GHzワイヤレスLAN標準プロトコル）
信号伝送方式	DS-SS方式（IEEE802.11準拠）
伝送距離	屋内見通し約70m（アクセスポイントとの通信時）*2
使用無線チャンネル	1～11ch（自動設定）
R-F周波数帯域	2.4GHz帯全域（2.4～2.4835GHz）
温湿度条件	温度:5～35℃、湿度:20～80%（ただし、結露しないこと）

＊1　IEEE802.11b規格による速度（理論値）であり、実効速度とは異なります。
＊2　通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、OSなどの使用条件によって異なります。

索　引

英数字

121ware.com ……3, 86
121 コンタクトセンター ……86
2.4GHz ワイヤレス LAN …… 124
2.4GHz ワイヤレス LAN 仕様 …… 153
3.5 型フロッピーディスクドライブ …… xiii
3.5 型ベイ …… xvi, 34
3.5 型ベイカバー …… xiii
5 型ベイ …… xvi, 40
5 型ベイカバー …… xiii
AC 電源コネクタ …… xv
AGP スロット …… xv, 32
AGP ボード …… 32, 69
BIOS セットアップユーティリティ ‥ 68, 93
BIOS セットアップユーティリティの設定項目 … 72
BIOS セットアップユーティリティの使い方 ‥ 70
BIOS の設定
　AGP ボード……69
　IDE 機能……68
　サウンドボード……68
　設定値をデフォルトに戻す……70
　割り込みレベルの解放（シリアルポート）‥ 69
　割り込みレベルの解放（パラレルポート）‥ 69
CD/DVD ドライブ …… xiii, 45, 54
CD/DVD プレーヤボタン ……53
CD-R/RW ディスク ……58
CD/ ハードディスクアクセスランプ …… xiv
Checking file system on……92
CMOS クリア ……83
DIMM ……23
DVD MovieWriter……56
DVD-MovieAlbum……56
DVD-R/RW ディスク……58
DVD-RAM ディスク …… 57, 58
FAX モデムボード …… 118
FAX モデムボード仕様 …… 151
FDD ケーブル ……45
IDE ……42
IDE 機器…… 42, 68
IDE ケーブル…… 43, 44, 45
IDE コネクタ……42
IEEE1394 ケーブル ……14
IEEE1394 コネクタ …… xiv, xvi, 14
Invalid system disk……92
IP アドレス ……20
Jet-Audio Player ……15
Jet-Audio Player の設定 ……16
LAN ケーブル……19
LAN コネクタ…… xv, 19
LAN 仕様…… 153
MAC アドレス ……20
Operating System not found ……92
OS …… 102
PCI スロット …… xv, 28
PCI ボード ……28
PS/2 キーボードコネクタ …… xv
PS/2 マウスコネクタ …… xv
Q&A
　アプリケーション……97
　周辺機器……98
　省電力機能……94
　その他…… 100
　電源のオン / オフ……90
　パスワード……99
　パソコンの動作……87
　マウス、キーボード……89
RecordNow DX……56
S/PDIF の出力設定……16
USB 1.1……10
USB 2.0……10
USB 2.0 コネクタ ……11
USB カメラ …… 121
USB ケーブル ……10
USB コネクタ …… xiv, xvi, 10
USB ハブ ……12
Windows Update ……98
Windows 拡張オプション メニュー ……92
Windows キー……52
Windows タスクマネージャ ……87

ア行

アース端子 …… xv
アナログ RGB コネクタ …… xvi
アフターケアについて …… 132
アプリケーション ……97
アプリケーションキー ……52
アプリケーションの強制終了 ……87
アプリケーションのサポート窓口 …… 141
音声出力端子 …… xvi, 17
音声入力端子 …… xvi, 17

カ行

改造 …… 134
キーの名称と役割 …… 50
キーのロック …… 51
キーボード …… 50, 89
休止状態 …… 61, 63
強制終了 …… 88
コピーコントロール CD …… 54
コンピュータウイルス …… 100

サ行

再セットアップ …… 104, 110
再セットアップ用 CD-ROM …… 135
サスペンド …… 61
システムの復元 …… 108
周辺機器 …… 3, 98
仕様一覧 …… 142
省電力機能 …… 61, 94
譲渡 …… 133
消耗品 …… 132
消耗部品 …… 132
シリアルケーブル …… 21
シリアルコネクタ …… xvi, 21
スーパバイザパスワード …… 99
スクロールボタン …… 48
スタンバイ状態 …… 61, 63
ストール …… 87
ストラップスイッチ …… 82
【スリープ】ボタン …… 53
スレーブ …… 43
セーフモード …… 105
セカンダリ …… 42
セキュリティの設定 …… 20
セルフパワードデバイス …… 12
増設 RAM サブボード …… 23
増設 RAM サブボード用コネクタ …… xvi, 23

タ行

タスクマネージャ …… 87
通風孔 …… xv
ディスクトレイ …… 55
ディスクトレイイジェクトボタン …… xiii
ディスクの入れ方 …… 55, 59
ディスクの出し方 …… 55, 60
ディスプレイ …… 90
デバイスドライバ …… 3
デバイスマネージャ …… 98
電源ケーブル …… 44, 45
電源スイッチ …… xiv, 91
電源の切り方 …… 90
電源の状態 …… 61
電源ランプ …… xiv, 62
電話回線 …… 93, 118
トラブルチェックシート …… 157

ナ行

内蔵 3.5 型ベイ …… xvi, 37
ネットワークの設定 …… 20

ハ行

ハードディスク …… 44
廃棄 …… 134
ハイバネーション …… 61
ハイパワーデバイス …… 12
パスワード …… 99
パスワードの解除 …… 82
パソコンのお手入れ …… 130
バックアップ …… 106
パラレルケーブル …… 22
パラレルコネクタ …… xv, 22
ハングアップ …… 87
光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子 … xv, 15
プライマリ …… 42
フリーズ …… 87
フロッピーディスク …… 59
フロッピーディスクイジェクトボタン …… xiii
フロッピーディスクドライブ … xiii, 45, 59
フロッピーディスクドライブアクセスランプ … xiv
フロントマスク …… 6, 7, 8
ヘッドフォンマイク …… 120
補修用性能部品 …… 132
保守サービス …… 132
ホットプラグ …… 5
ボリュームボタン …… 53

マ行

マイクロフォン端子 …… xvi, 18
マウス …… 48, 89
マウスのクリーニング …… 131
マスター …… 43
メモリ …… 23
メモリスロット …… 23

ヤ行

ユーザパスワード …… 99

ラ行
リアカバー ····· 6, 9
レジューム ····· 61
レフトカバー ····· 6, 7, 8
ローパワーデバイス ····· 12
ワ行
ワイヤレス LAN ····· 124
ワンタッチスタートボタン ····· 52, 53

●お問い合わせ、修理のご依頼／ご相談の前に
お問い合わせにお答えするときや、修理のご依頼／ご相談をお受けする際には、あなたのパソコンの構成やトラブルの具体的な状態をお知らせいただく必要があります。このトラブルチェックシートに記入してから、お問い合わせしていただくと、より的確で迅速なお答えが可能になります。ぜひ、ご記入ください。なお、「ぱそガイド」の画面上部にある「パソコンの情報」というボタンをクリックし、表示された画面で「詳細表示」をクリックすると、詳細情報が表示されますので参考にしてください。

トラブルチェックシート１

あなたのパソコンの構成

■ハードウェア

●本体

フォーム型番（『はじめにお読みください』のPART1で確認した型番です）	
製造番号（保証書番号）	
メモリの容量	MB（メガバイト）
メモリの容量を調べるには→「ぱそガイド」の画面上部にある「パソコンの情報」というボタンをクリックしてください。	
ハードディスクの容量（Cドライブ）	GB（ギガバイト）
ハードディスクの空き領域（Cドライブ）	GB（ギガバイト）
ハードディスクの容量、空き領域を調べるには→「ぱそガイド」の画面上部にある「パソコンの情報」というボタンをクリックしてください。	

●周辺機器

	品名・型名（メーカー名）
ディスプレイ	□ディスプレイセットモデル 型　名： （型名はディスプレイの背面または底面に記載されています）
プリンタ	
増設ハードディスク	
PCIボード	
その他の周辺機器	

■ソフトウェア

●OSのバージョンと発売メーカー

□ Windows® XP Professional

●トラブルが起きたときに起動していたアプリケーションソフト

トラブルチェックシート 2

具体的なトラブルの内容

●どんなトラブルが起きましたか？　トラブルの内容を書いてください。

（例：ワードパッドで入力したり、印刷すると突然止まってしまう。）

●画面にエラーメッセージや番号などが表示されませんでしたか？
メッセージや番号を書いてください。

（例：「このプログラムは不正な処理を行ったので強制終了されます。終了しない場合は、
プログラムの製造元に連絡してください。」とひんぱんに表示される。）

●そのトラブルはどんなときに起きましたか？
アプリケーション名、操作の状況なども詳しく記入してください。

□ パソコンを起動するたびに起きる
□ そのアプリケーションを起動するたびに起きる
□ 特定の操作を行うと起きる
□ はじめて起きた

（例：複数のソフトウェアを同時に使っていると、
止まってしまう。）

●その他に気づいたことがあれば書いてください。
トラブルに気がついた時期や、お問い合わせの前に試してみたことなども、記入して下さい。

（例：エラーメッセージが出ている状態で電源スイッチを押して、何回か電源を切った。）

修理のご依頼／ご相談をされるときは・・・

パソコン本体の修理を行う際に、やむを得ずハードディスクの内容を初期化することがあります。修理をご依頼される前に、あらかじめ、お客様ご自身が作成された文書ファイルや送受信メールなどの大切なデータはバックアップを取っておいてください。

●大切なデータのバックアップは取ってありますか？

□バックアップ済み

□まだバックアップしていない

→まだバックアップを取っていない場合は、「バックアップ-NX」を使ってバックアップを取ることをおすすめします。詳しくは、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」の「バックアップ-NX」をご覧ください。

●お問い合わせ、修理のご依頼／ご相談の前に
お問い合わせにお答えするときや、修理のご依頼／ご相談をお受けする際には、あなたのパソコンの構成やトラブルの具体的な状態をお知らせいただく必要があります。このトラブルチェックシートに記入してから、お問い合わせしていただくと、より的確で迅速なお答えが可能になります。ぜひ、ご記入ください。なお、「ぱそガイド」の画面上部にある「パソコンの情報」というボタンをクリックし、表示された画面で「詳細表示」をクリックすると、詳細情報が表示されますので参考にしてください。

トラブルチェックシート１

あなたのパソコンの構成

■ハードウェア

●本体

フォーム型番（『はじめにお読みください』のPART1で確認した型番です）	
製造番号（保証書番号）	
メモリの容量	MB（メガバイト）
メモリの容量を調べるには→「ぱそガイド」の画面上部にある「パソコンの情報」というボタンをクリックしてください。	
ハードディスクの容量（Cドライブ）	GB（ギガバイト）
ハードディスクの空き領域（Cドライブ）	GB（ギガバイト）
ハードディスクの容量、空き領域を調べるには→「ぱそガイド」の画面上部にある「パソコンの情報」というボタンをクリックしてください。	

●周辺機器

	品名・型名（メーカー名）
ディスプレイ	□ディスプレイセットモデル 型　名： （型名はディスプレイの背面または底面に記載されています）
プリンタ	
増設ハードディスク	
PCIボード	
その他の周辺機器	

■ソフトウェア

●OSのバージョンと発売メーカー

□ Windows® XP Professional

●トラブルが起きたときに起動していたアプリケーションソフト

トラブルチェックシート 2

具体的なトラブルの内容

●どんなトラブルが起きましたか？　トラブルの内容を書いてください。

（例：ワードパッドで入力したり、印刷すると突然止まってしまう。）

●画面にエラーメッセージや番号などが表示されませんでしたか？
メッセージや番号を書いてください。

（例：「このプログラムは不正な処理を行ったので強制終了されます。終了しない場合は、
プログラムの製造元に連絡してください。」とひんぱんに表示される。）

●そのトラブルはどんなときに起きましたか？
アプリケーション名、操作の状況なども詳しく記入してください。

□ パソコンを起動するたびに起きる
□ そのアプリケーションを起動するたびに起きる
□ 特定の操作を行うと起きる
□ はじめて起きた

（例：複数のソフトウェアを同時に使っていると、
止まってしまう。）

●その他に気づいたことがあれば書いてください。
トラブルに気がついた時期や、お問い合わせの前に試してみたことなども、記入して下さい。

（例：エラーメッセージが出ている状態で電源スイッチを押して、何回か電源を切った。）

修理のご依頼／ご相談をされるときは・・・

パソコン本体の修理を行う際に、やむを得ずハードディスクの内容を初期化することがあります。修理をご依頼される前に、あらかじめ、お客様ご自身が作成された文書ファイルや送受信メールなどの大切なデータはバックアップを取っておいてください。

●大切なデータのバックアップは取ってありますか？

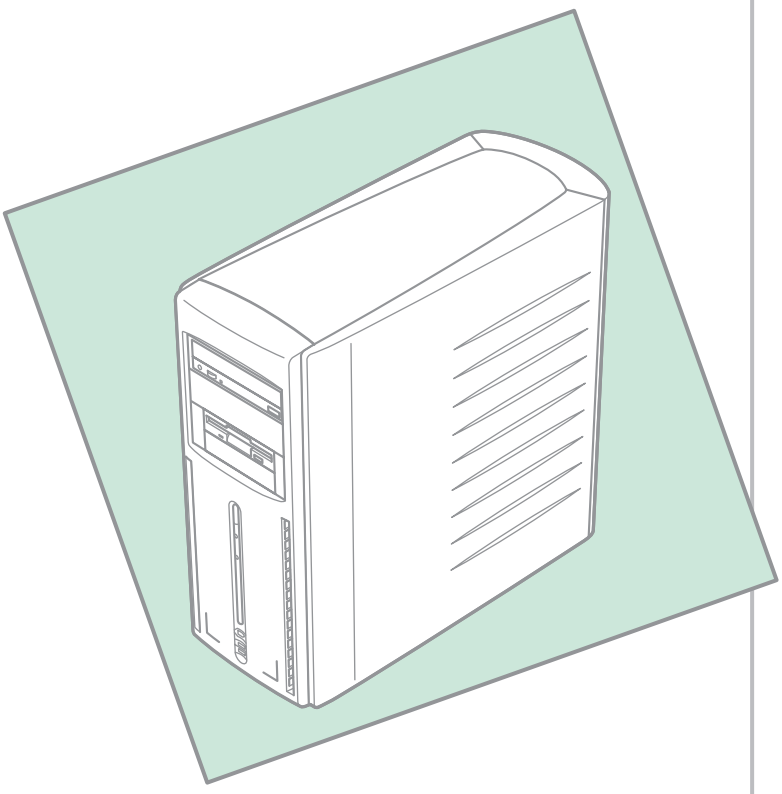
□バックアップ済み

□まだバックアップしていない

→まだバックアップを取っていない場合は、「バックアップ-NX」を使ってバックアップを取ることをおすすめします。詳しくは、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」の「バックアップ-NX」をご覧ください。

ユーザーズマニュアル

VALUESTAR



PC98-NX SERIES

VALUESTAR

初版 2002年5月
NEC
P
853-810576-016-A
Printed in Japan